診療年報

第４号
(2014年)

北九州市立八幡病院

救命救急センター
EMERGENCY AND CRITICAL CARE MEDICAL CENTER
北九州市立八幡病院
KITAKYUSHU CITY YAHATA HOSPITAL
小児救急センター

北九州市立八幡病院

院長あいさつ

「これからの病院医療」

病院長　市川 光太郎

平成27年度を迎え、餞春の昂ぶりも収まり、春爛漫を感じる陽春の日々となりました。時の流れは速く、すぐに梅雨が来てしまうことでしょうが、またまた集中豪雨被害が報道されないことを願うばかりです。この数年の惨事には、何とか予知して、被害回避ができないものか？考え込んでしまいます。病院における不測の事態も全く同じ状況に思えます。いかに、俯瞰した視点で課題を克服していくかが今後の我々に課せられています。基本的な医療を丹念に守り、改革を恐れることなく立ち向かう必要があると考えています。

さて、「病院の医療」を考えてみると、今後は高齢者医療の比率が医療全体の中で大きくなることでしょうし、それはすなわち、病院医療の中でも比率が大きくなることを意味しています。福岡県医師会と福岡県の合同調査によると、高齢者は、医療ニーズや介護ニーズが問題ではなく、生活安心感がない、生き甲斐がない、経済的支援がない、家がないなどを理由に退院したがらないことが示されました。病院では3度の温かい食事があり、お風呂があり、レクレーションがあり、何よりもコミュニケーションの相手が居ることが高齢者にとって入院し続けるという合理的な選択をしているという結果でした。なるほど、と頷くしかない指摘です。高齢者の肺炎と骨折、脳血管障害の患者さんが増えることが予想されます。前二者は短期入院可能で急性期病院の救急に集中するでしょうが、一定の確立で認知症を有していることが予測され、このような認知症の患者さんが急性期病院に集中すると病院がある意味機能不全に陥ることは自明の理です。脳血管障害の患者さんも長期入院になるため、慢性期病棟へ積み上がっていく可能性が予測されます。今後、10年後、20年後、30年後、50年後の病院医療がどのように変わっていくのか、全医療人にとって大きな関心事には違いないでしょう。いずれにせよ、地域全体での横の紡ぎ糸を強化にして、安心できる医療福祉ネットワークが求められ、地域医療提供構想の一員として、個々の病院機能を提供する時代になることでしょう。

その時代時代の当院の「病院年報」がどう変わり、地域医療提供構想の中で不可欠な役割を担っているか否かは　「病院年報」の変わりさまに映し出されることでしょう。地域に必須の病院として生き残る機能を時代の趨勢・流れに逆らうことなく保持していくことを強く願う日々です。

2015年4月吉日

目次

CONTENTS

院長あいさつ

1. 病院概要

基本理念・基本方針…… 1

組織図…… 2

職員名簿…… 3

2. 医療分析

全体的統計…… 9

3. クローズアップ

伊藤重彦副院長 救急功労者総務大臣表彰受賞 ……13

平成26年6月30日　市立八幡病院総合情報システム稼動 ……14

平成26年度新病院建設計画について……15

4. 診療科部門紹介

内科……17

循環器内科……18

小児科……22

外科・呼吸器外科……23

整形外科……24

脳神経外科……25

形成外科……26

麻酔科……28

泌尿器科……29

精神科……30

救急科……31

放射線科（医師）……32

歯科……33

放射線科（技師）……34

臨床検査科……36
薬剤科……37
リハビリテーション室……38
看護部……39
事務局（管理課）庶務係……40
事務局（管理課）栄養管理係……41
事務局（経営企画課）……42
医療連携室……43

5. 業績集

内科……45
循環器内科……47
小児科……52
外科・呼吸器外科……66
整形外科……80
脳神経外科……82
形成外科……82
放射線科（医師）……83
麻酔科……83
救急科……84
精神科……87
薬剤部門……87
放射線部門……88
看護部門……88
検査部門……92
医療安全管理室……93
医療連携室……93
院内研究会……93

CONTENTS

6. 委員会報告

災害対策チーム委員会……99
ＩＣＴ委員会・感染制御室…… 101
臨床検査部門委員会…… 102
輸血療法委員会…… 103
広報委員会…… 104
リスクマネジメント部会…… 106
医療連携室運営委員会…… 107
リハビリテーション部門委員会…… 108
クリニカルパス委員会…… 109
褥瘡対策委員会…… 110
臨床研修管理委員会…… 111
診療材料委員会…… 112
センター連絡会議…… 113
電子カルテ委員会…… 115
NST（栄養サポートチーム） …… 116
内視鏡委員会…… 117
がん化学療法委員会…… 118

7. 各種学会指導医・専門医・認定医一覧 ……121

8. 特別寄稿 ……125

9. 編集後記 ……129

1

病院概要

基本理念・基本方針

基本理念

私たちは、24時間質の高い医療を提供し、
皆様に、安心、信頼、満足していただける病院をめざします。

基本方針

1. 医療の安全に万全を期し、科学的根拠に基づく、質の高い医療を提供します。

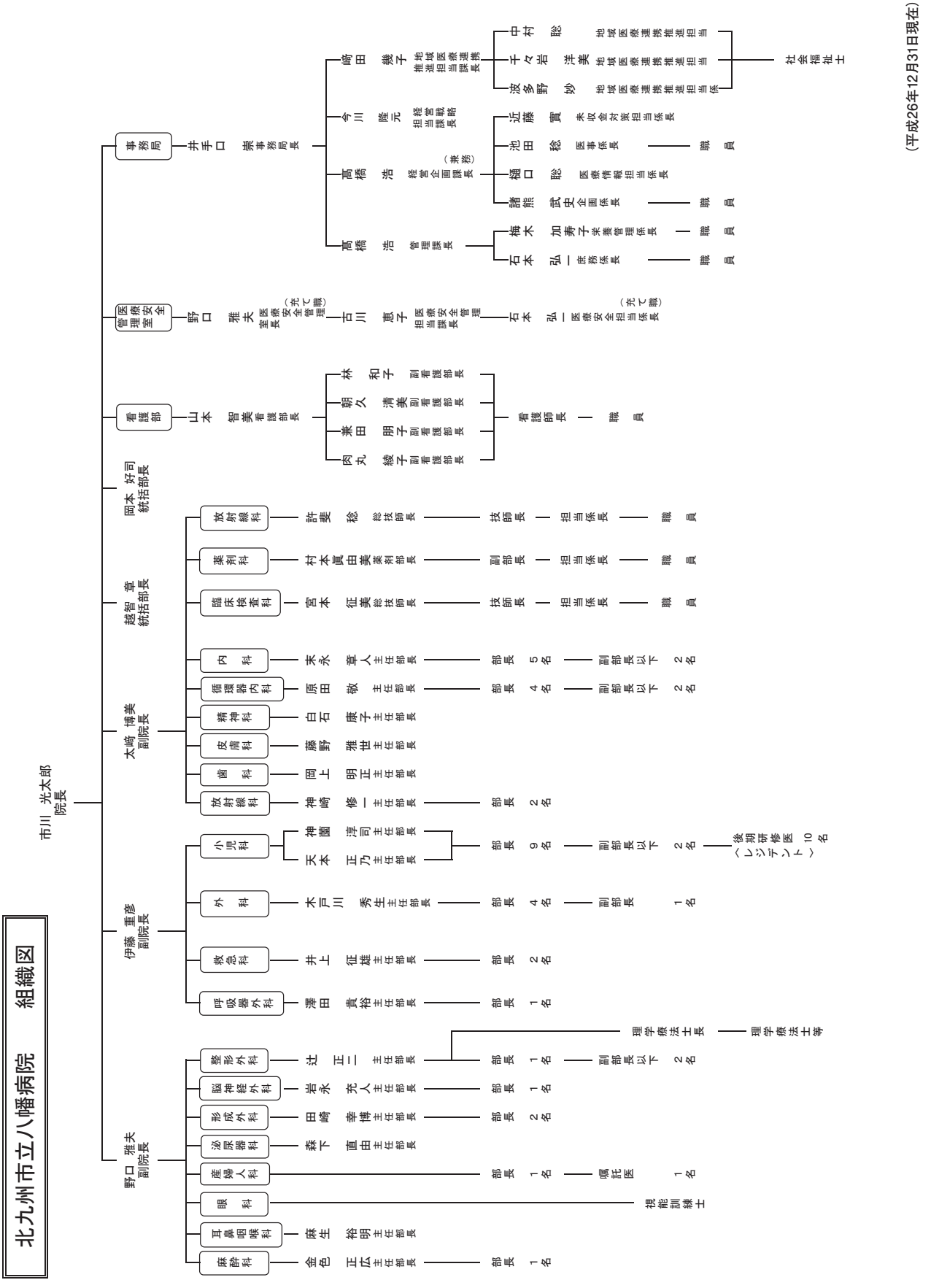
2. 患者さんの生命の尊厳とプライバシーを守り、患者さん中心の医療を行ないます。

3. 保健・福祉・医療機関と連携し、地域社会への積極的な医療貢献を果たします。

4. 教育・研鑽に努め、専門的な知識、熟練した技能をもって、信頼と責任ある医療を提供します。

5. 公共性、経済性を考慮した健全経営に努めます。

組織図



（平成26年12月31日現在）

職員名簿

職名	氏名
院長	市川 光太郎
副院長	太﨑 博美
副院長	伊藤 重彦
副院長	野口 雅夫
統括部長	越智 章
統括部長	岡本 好司
●内科	
主任部長	末永 章人
部長	吉田 有吾
部長	川口 浩太郎
部長	中村 寛
部長	川波 敏則
部長	伊藤 光佑
	阪上 和樹
	小住 乃理子
●循環器内科	
主任部長	原田 敬
部長	田中 正哉
部長	酒井 孝裕
部長	小住 清志
部長	佐貫 仁宣
	岩垣 端礼
	中園 和利
●整形外科	
主任部長	辻 正二
部長	田中 尚洋
副部長	上戸 康平
	飯田 健
●外科	
主任部長	木戸川 秀生
部長	山吉 隆友
部長	野口 純也
部長	新山 新
部長	桝屋 隆太
副部長	小山 正三朗
●呼吸器外科	
主任部長	澤田 貴裕
部長（兼務）	井上 征雄

職名	氏名
●救急科	
主任部長	井上 征雄
部長（兼務）	岩永 充人
部長	田口 健蔵
●小児科	
主任部長	天本 正乃
主任部長	神薗 淳司
部長	今村 徳夫
部長	石橋 紳作
部長	山根 浩昌
部長	金 奉吉
部長	松島 卓哉
部長	富田 芳江
部長	富田 一郎
部長	八坂 龍広
副部長	志村 紀彰
副部長	岡畠 祥憲
副部長	福田 信也
レジデント	三浦 義文
レジデント	長嶺 伸治
レジデント	増井 美苗
レジデント	内海 奈穂
レジデント	小林 加奈
レジデント	村上 珠菜
レジデント	苔口 知樹
レジデント	中野 慎也
レジデント	田中 惇也
レジデント	下山 恭平
●形成外科	
主任部長	田崎 幸博
部長	福井 季代子
部長	今村 禎伸
●脳神経外科	
主任部長	岩永 充人
部長	氏福 健太
●皮膚科	
主任部長	藤野 雅世

職名	氏名
●泌尿器科	
主任部長	森下 直由
●産婦人科	
部長	今福 雅子
	王 志洪
●耳鼻咽喉科	
主任部長	麻生 裕明
●放射線科	
主任部長	神崎 修一
部長	今福 義博
部長	今村 紹美
●麻酔科	
主任部長	金色 正広
部長	石田 昌一
●歯科	
主任部長	岡上 明正
●精神科	
主任部長	白石 康子
●薬剤科	
部長	村本 眞由美
副部長	山下 正義
副部長	坂本 佳子
薬剤担当係長	末吉 宏成
薬剤担当係長	原田 桂作
主任	田﨑 奈緒子
主任	山本 朗子
主任	米倉 紀子
薬剤師	福永 竜一
薬剤師	中村 祥子
薬剤師	姫野 英二
薬剤師	宮野 佳子
薬剤師	宗吉 泉
薬剤師	毛利 由佳
薬剤師	久保地 倫子
薬剤師	實﨑 雄太

平成 26 年 12 月 31 日現在

職員名簿

職名	氏名
●臨床検査科	
総技師長	宮本征美
技師長	松本誠也
技師長	中村尚子
臨床検査担当係長	久野淳二
主任	松山郁子
主任	渡邉和枝
主任	島浩司
主任	荒木猛
臨床検査技師	恵良美由紀
臨床検査技師	長田昌美
臨床検査技師	吉田裕見子
臨床検査技師	三嶋里恵
臨床検査技師	新山のぞみ
臨床検査技師	實藤清美
臨床検査技師	栗田恵利
臨床検査技師	近藤嗣通
臨床検査技師	津留崎舞
臨床検査技師	鈴木佑理
●放射線科	
総技師長	許斐稔
技師長	山下三樹
技師長	高森泰行
放射線担当係長	清水艶鳴
放射線担当係長	谷口和博
主任	大隅政治
主任	島田章弘
主任	辰本直久
主任	中山敏文
主任	樽林斉
主任	荻野和寿
診療放射線技師	入江佳世
診療放射線技師	満園裕樹
診療放射線技師	森山有美
診療放射線技師	佐竹美智子
診療放射線技師	亀井良子

職名	氏名
診療放射線技師	九町章博
診療放射線技師	宗吉佑樹
診療放射線技師	入部勝博
診療放射線技師	大庭正章
診療放射線技師	永友徹
●整形外科	
理学療法士長	井上裕子
主任	須﨑省二
理学療法士	高橋倍美
理学療法士	砂山明生
作業療法士	武田優子
●眼科	
視能訓練士	大西祥子
●看護部	
看護部長	山本智美
副看護部長	肉丸綾子
副看護部長	兼田朋子
副看護部長	朝久清美
副看護部長	林和子
看護管理担当課長（兼務）	﨑田幾子
看護管理担当課長（兼務）	古川恵子
感染管理担当係長	中川祐子
看護師長（兼務）	千々岩洋美
看護師長（兼務）	波多野妙
○外来	
看護師長	原田かをる
主任	磨田かおる
主任	木崎早苗
主任	久家憲子
看護師	三好博子
看護師	松永直美
看護師	川原恵美子
看護師	佐々木知子
看護師	小椋裕美
看護師	田中美子
看護師	吉田愛

職名	氏名
看護師	藤井あい
看護師	足立奈緒子
看護師	伊東知佐子
看護師	松本由紀
○救急部	
看護師長	木村律子
看護師長	岡崎優子
看護師長	植田啓子
看護師長	髙田久子
看護師長	植村安子
看護師長	西田ゆかり
看護師長	勝元美佳
看護師長	塩田美樹
看護師長	橋本真美
看護師長	佐藤奈々絵
看護師長	梶原多恵
看護師長	山下奈緒
主任	吉武知美
主任	井筒隆博
看護師	岩下律子
看護師	寺地亜希
看護師	江藤扶紀
看護師	土岐美穂
看護師	安部環
看護師	井上里美
看護師	渡辺恭子
看護師	飯森美由紀
看護師	小野早央里
看護師	古賀隆太
看護師	片平力
看護師	本山由佳
看護師	山田友行
○手術室	
看護師長	永井文恵
主任	能丸敏子
主任	小玉久美

平成 26 年 12 月 31 日現在

職名	氏名
看護師	江崎亜以
看護師	木下美和
看護師	鞭馬友美
看護師	郷田ありさ
看護師	越智千佳
看護師	杉本佳菜
看護師	田中愛実
看護師	吉竹重乃
看護師	石橋夕起子
看護師	川原奈津美
看護師	堀　智恵美
看護師	渡邉久紗子
看護師	島屋佳代
○中央材料室	
中央材料室担当係長	吉竹洋子
○西３階病棟	
看護師長	立石美枝子
主任	伊村ときえ
主任	中川路敬子
主任	小舟美穂
主任	松田ユリ
看護師	山田千咲
看護師	塩田輝美
看護師	宗　育子
看護師	福永　聡
看護師	浦野妙子
看護師	島村美紀
看護師	戸簾妙子
看護師	野村美映子
看護師	丸野梨紗
看護師	萩原明佳
看護師	三澤真希
○集中治療室（ICU）	
看護師長	小林和枝
主任	川崎久美子
主任	高森雅子

職名	氏名
主任	三渕浩子
主任	山下　亮
看護師	梶田明美
看護師	尾垣美江
看護師	森永久美
看護師	佐名木里英
看護師	石本　晶
看護師	三井あゆみ
看護師	深田智美
看護師	入江弓子
看護師	渡邊紘子
看護師	内田宏美
看護師	木原朋香
看護師	深田華子
看護師	阿部麻奈美
看護師	山本優子
看護師	園田法子
看護師	川本江美
看護師	馬場美帆子
看護師	山岡麻里子
看護師	大原頼子
看護師	野村奈央
○西４階病棟	
看護師長	杉田奈都子
主任	池田由美子
主任	野上久美子
主任	今村久里美
主任	田端明子
看護師	友松むつみ
看護師	島崎智江
看護師	岡村志保
看護師	金屋美千代
看護師	山﨑悦子
看護師	稲垣久仁子
看護師	上野真由美
看護師	坂本順子

職名	氏名
看護師	山下美代
看護師	古田恵美
看護師	光吉久美子
看護師	崎山由香理
看護師	吉田智絵
看護師	松原由起
看護師	石川紗愛
看護師	山田友美
看護師	森重優真
看護師	田中陽子
看護師	徳永　結
看護師	今城美雪
○東４階病棟	
看護師長	井生恭子
主任	森永加代子
主任	藤波志生子
主任	松本敏江
主任	橋本優子
主任	梶原小百合
看護師	長田弘子
看護師	原田知代美
看護師	武谷貴代美
看護師	志賀玲花
看護師	須藤乃子
看護師	岩村智子
看護師	秋吉美紀
看護師	安永まゆみ
看護師	川原千恵美
看護師	藤嶋寛子
看護師	荊尾景子
看護師	木下章子
看護師	魚住久美子
看護師	本　汐莉
看護師	金森美樹
看護師	永島裕美
看護師	井田加代

平成 26 年 12 月 31 日現在

職員名簿

職名	氏名
看護師	杉久保　富子
看護師	後藤　未有
看護師	平野　由樹
看護師	齋藤　明子
看護師	村上　美奈
看護師	岸野　宏美
○西５階病棟	
看護師長	大塚　由美子
主任	花見　待子
主任	池田　みはる
主任	北村　都子
主任	山田　洋子
主任	船原　美津子
看護師	谷石　香津代
看護師	栗田　寿美代
看護師	吉田　晶子
看護師	村井　澄江
看護師	矢野　美佑紀
看護師	岡本　裕美
看護師	中川　正男
看護師	上岡　由美
看護師	青木　悦子
看護師	大内　賀央里
○東５階病棟	
看護師長	津田　昭代
主任	川南　幸子
主任	山口　敦子
主任	北村　安妙
看護師	原　京子
看護師	白石　玉枝
看護師	加藤　由華
看護師	金　瑛華
看護師	福永　晶子
看護師	中山　佳那
看護師	髙田　幸恵
看護師	木下　麻衣

職名	氏名
看護師	栁　順也
看護師	小西　久代
看護師	大山　元子
看護師	尾上　沙也香
看護師	花田　有実
看護師	行實　香代子
看護師	岩本　紗季
看護師	佐々木　和子
看護師	盛　みずえ
○西６階病棟	
看護師長	高澤　浩美
主任	藤川　唯智子
主任	林　久恵
主任	桑野　雅恵
主任	岡村　生久乃
主任	太田　美代子
看護師	永松　真由美
看護師	内山　睦美
看護師	行比　知子
看護師	白井　愛
看護師	上村　亜希子
看護師	藤田　佳奈
看護師	岡本　美沙
看護師	中村　一貴
看護師	荒牧　昌子
看護師	篠原　吉宏
看護師	髙尾　公子
看護師	上柿　萌
看護師	広瀬　倫子
○東６階病棟	
看護師長	米澤　美穂子
主任	井上　裕美
主任	半田　和枝
主任	織田　真由美
主任	山下　仁美
看護師	河本　久美子

職名	氏名
看護師	奥本　美由紀
看護師	田島　かおり
看護師	小谷　玲子
看護師	林内　久美子
看護師	中村　久美子
看護師	土田　光代
看護師	伊澤　奈緒
看護師	久保﨑　沙和
看護師	角田　直也
看護師	三島　照枝
看護師	松岡　フミ
看護師	長倉　寿江
看護師	前田　恵
看護師	古川　美穂
看護師	藤本　瑞希
看護師	村上　環
看護師	石田　祐子
看護師	杉野　善彦
看護師	城野　道子
●医療安全管理室	
医療安全管理室長（充て職）	野口　雅夫
医療安全管理担当課長	古川　恵子
医療安全管理担当係長（充て職）	石本　弘一
●事務局	
事務局長	井手口　崇
○管理課	
管理課長	髙橋　浩
庶務係長	石本　弘一
庶務係員	友岡　大雄
庶務係員	横田　真一郎
庶務係員	黒田　泰志
庶務係員	堀池　寿彦
庶務係員	秋月　健一郎
栄養管理係長	梅木　加寿子
管理栄養士	石田　綾子
臨床工学技士	伊香元　裕
臨床工学技士	倉田　匠

平成 26 年 12 月 31 日現在

職名	氏　名	職名	氏　名	職名	氏　名
○経営企画課					
経営企画課長（兼務）	髙　橋　　浩				
地域医療連携推進担当課長	﨑　田　幾　子				
経営戦略担当課長	今　川　隆　元				
地域医療連携推進担当係長	千々岩　洋　美				
地域医療連携推進担当係長	波多野　　妙				
企画係長	諸　熊　武　史				
医療情報担当係長	樋　口　　聡				
企画係主任	高　橋　直　也				
企画係主任	原　　泉				
企画係員	安　部　てるみ				
企画係員	増　谷　倫　典				
医事係長	池　田　　稔				
未収金対策担当係長	近　藤　　實				
医事係員	岩　下　健一郎				
医事係員	和　田　義　浩				
医事係員	西　原　慎一朗				

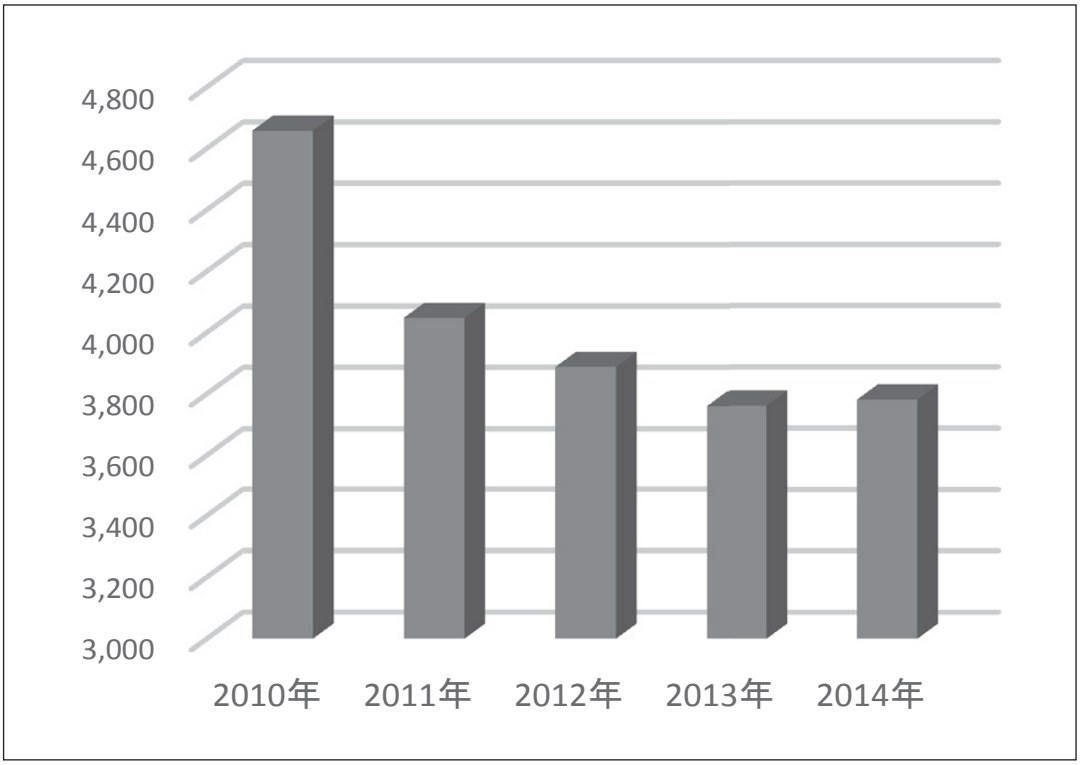
平成 26 年 12 月 31 日現在

2

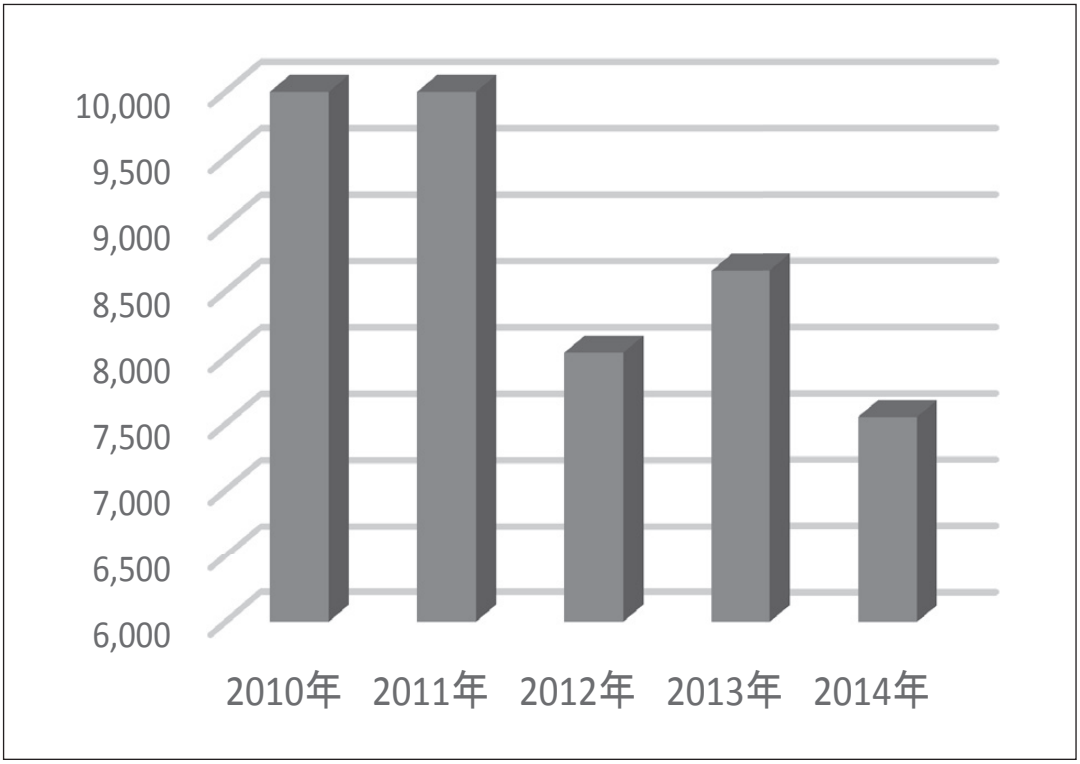
医療分析

全体的統計

●救急車搬入数

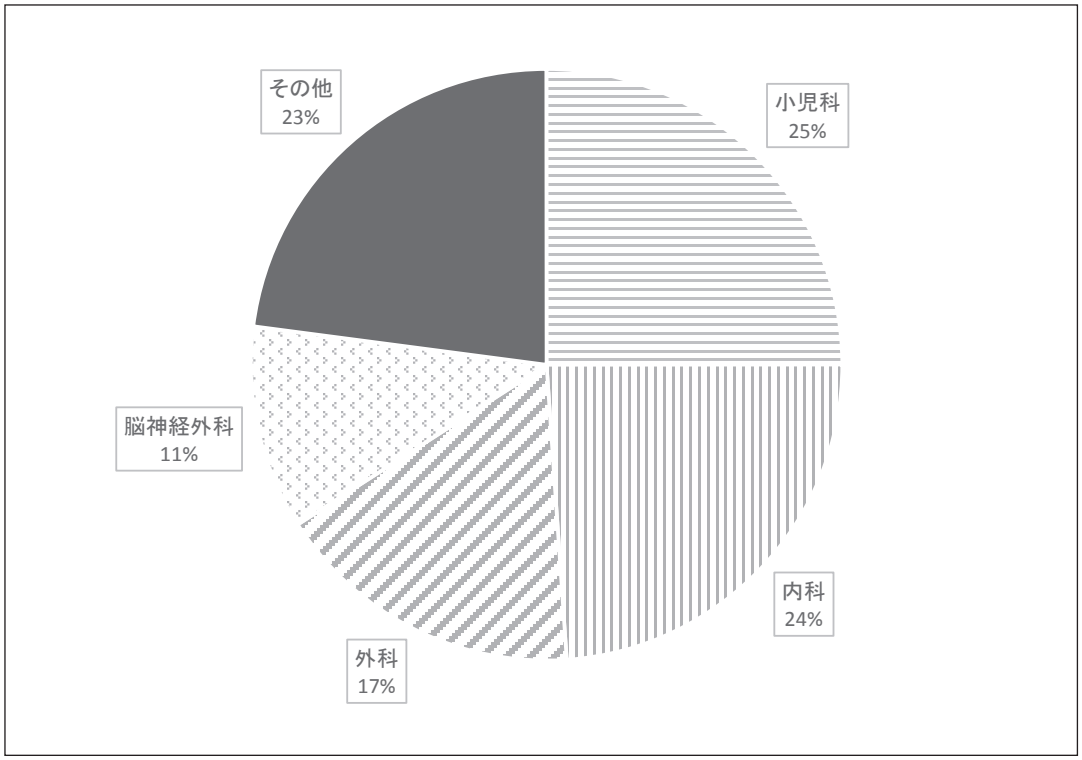


●過去5年間の救命救急センター患者数

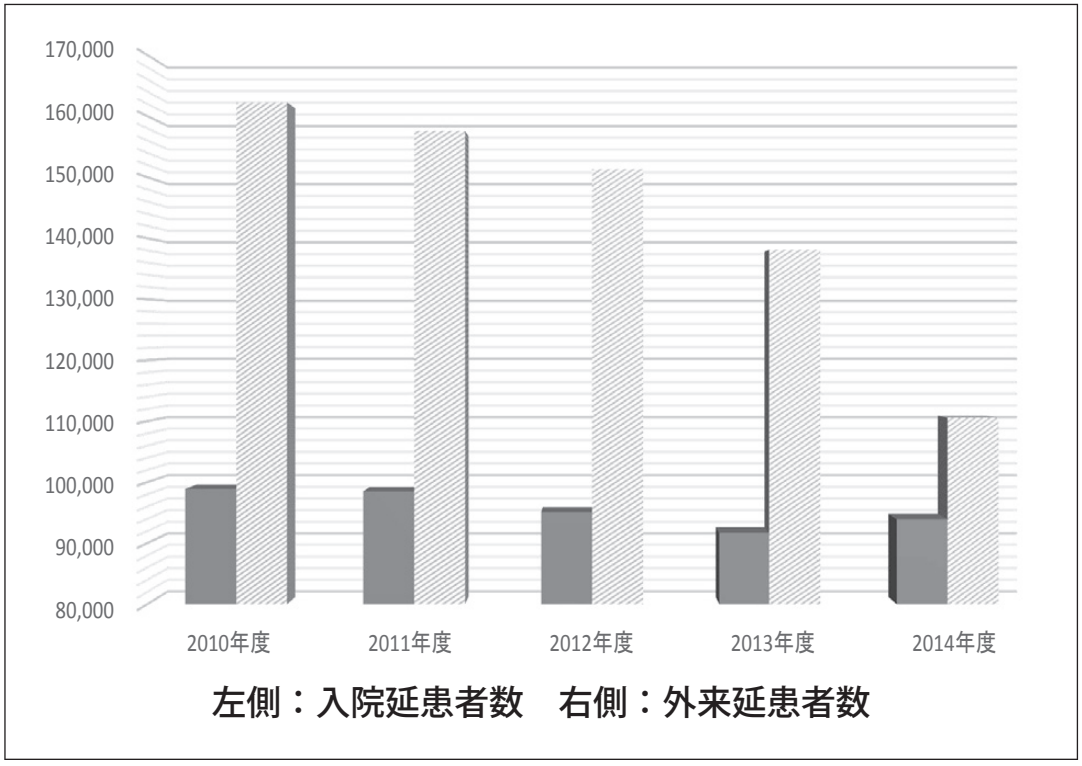


全体的統計

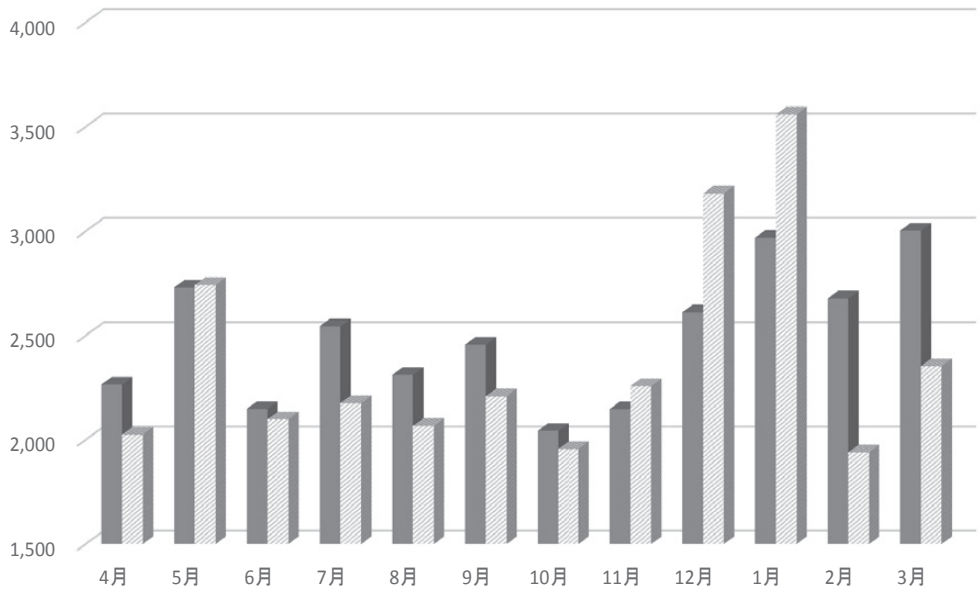
●2014年救命救急センター患者受診科内訳



●過去5年間の延患者数

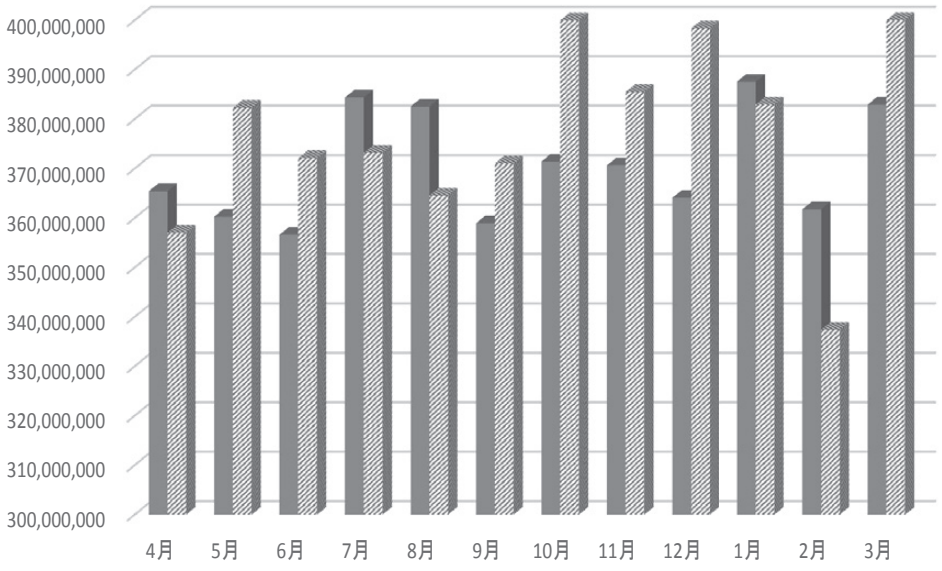


●小児救急センター受診患者数



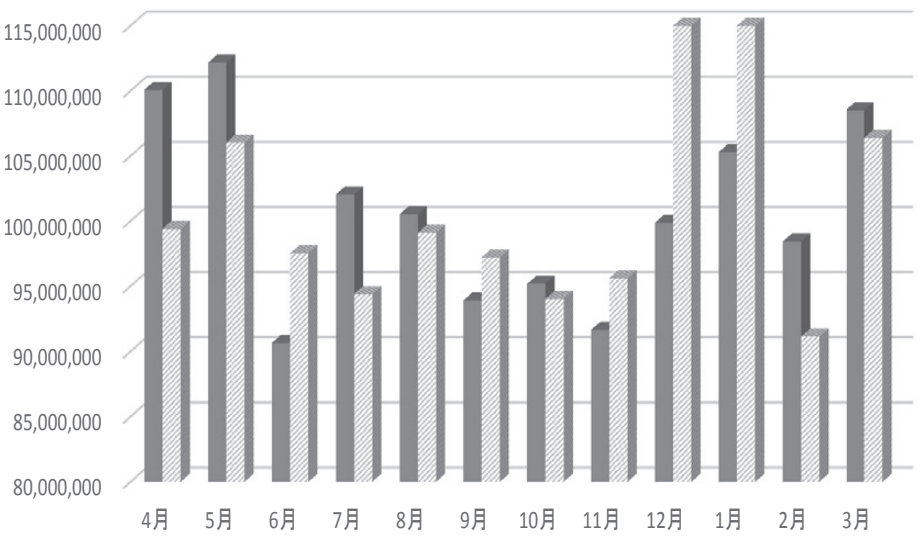
左側：25年度受診患者数　右側：26年度受診患者数

●八幡病院入院稼動額（対前年比）



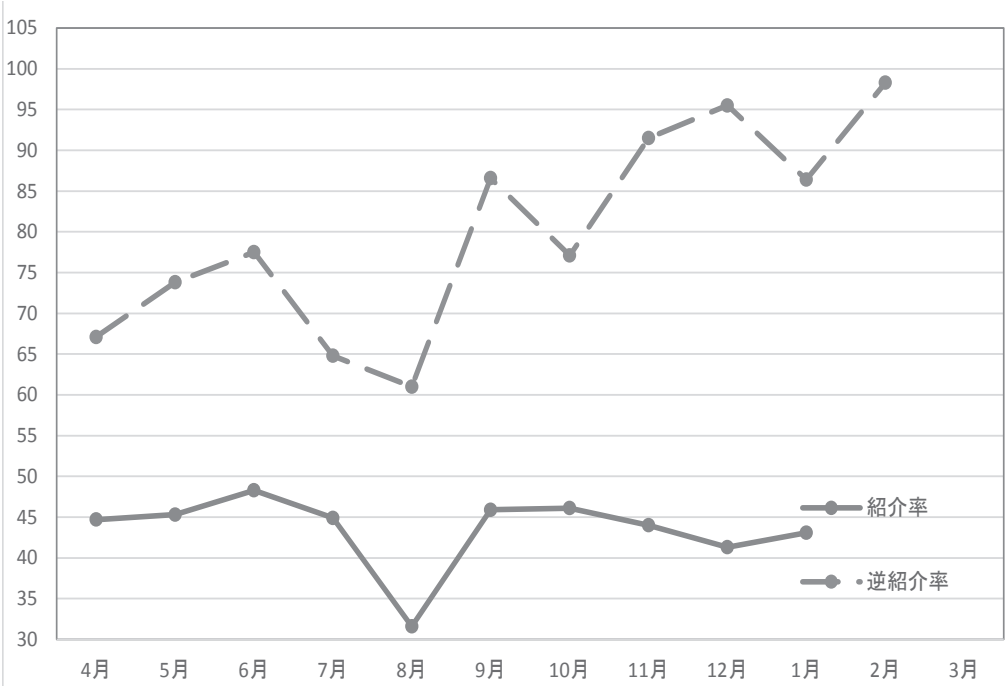
左側：25年度入院稼動額　右側：26年度入院稼動額

●八幡病院外来稼動額（対前年比）



左側：25年度外来稼動額　右側：26年度外来稼動額
※25年4月及び5月は第2夜間休日急患センターを含む。

●平成26年度紹介率・逆紹介率の推移



3

クローズアップ

伊藤重彦副院長 救急功労者総務大臣表彰受賞

総括部長　岡本 好司

永年にわたる、救急隊員の教育・指導、救急患者の積極的な受け入れ、応急手当の普及啓発推進などへの貢献、各地域の救急医療や救急業務を支えてきた救急医療への貢献が認められ、2014年度に伊藤重彦副院長が総務省より救急功労者総務大臣表彰を受賞されました。2014年9月9日の救急の日に高市総務大臣より式辞、表彰状及び記念品の授与が行われ、伊藤先生も出席されました。

また、この栄誉を皆で祝うべく市川光太郎院長、白石昌之八幡医師会会長、津田文史朗遠賀中間医師会会長の発起により2014年11月15日に救急功労者総務大臣表彰受賞祝賀会を千草ホテルにて行いました。病院内外の140名以上の方々に集っていただき、お祝いの会を執り行いました。北橋健治北九州市長、三原朝彦衆議院議員からもお祝いの言葉を頂くなど、関係者各位のご厚情、ご尽力により盛会のうちに会を終了することが出来ました。

平成26年6月30日　市立八幡病院総合情報システム稼動

電子カルテ委員会　田崎 幸博

平成26年6月30日月曜日、待望の電子カルテ稼動となりました。

それまでは、オーダーを含めてまったくの紙運用という、県内の中・大規模病院の中では最後まで取り残された状況でした。また、帳票の運用も各部署でのローカルルールが蓄積して複雑化し、効率の低下や医療安全上の問題も取りざたされておりました。さらに、病院機能評価やDPC運用においても、医療情報の整理と活用が急がれています。

業務を再構築し、標準化を進めるチャンスととらえ、限られた予算の中で、病院全体の機能を高めるというコンセプトで計画が進められました。

電子カルテシステムとして、東芝医療情報システムズHappy Actisが選定されたのが平成25年10月でしたから、そこから急ピッチでの膨大な準備が必要でした。

同じシステムで先行している小倉北区や中津市の病院を視察した際にも、当院は、紙運用からいきなり電子カルテに移行すること、専任の情報処理担当者がいないこと、システムの設置や準備のためのスペースが不十分なことなどの問題が分かりましたが、それから各ワーキンググループを中心に、各部署での業務の見直し、マスターの作成、電子化後の運用の設定、各部門システムとの連動確認などを行い、また、病棟や医局の部屋を融通し合ってスペースを作りながら、プロジェクトマネージャーの山下さんを中心とした東芝のスタッフの方々も連日すし詰めで作業をされました。

6月7日土曜日に第1回のリハーサルが行われ、ロビーには落ち着かない様子の大勢が集まりましたが、この日はまだ流れが悪く、多くの問題点が上がりました。

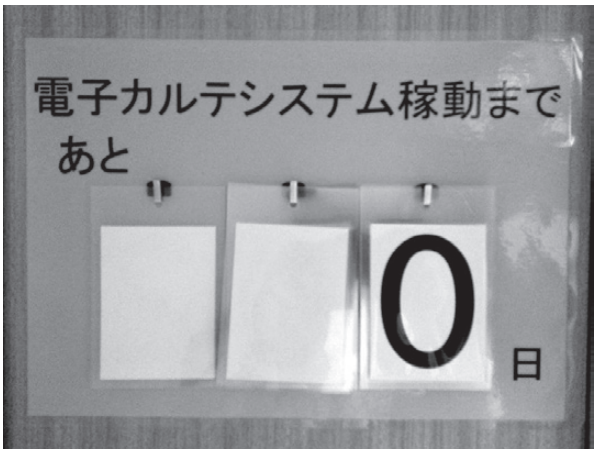
そのわずか1週間後、しかし本稼動まであと2週間余りに控えた6月14日土曜日に行われた第2回のリハーサルでは、次はもう本番という職員全体への士気の広がりが感じられました。

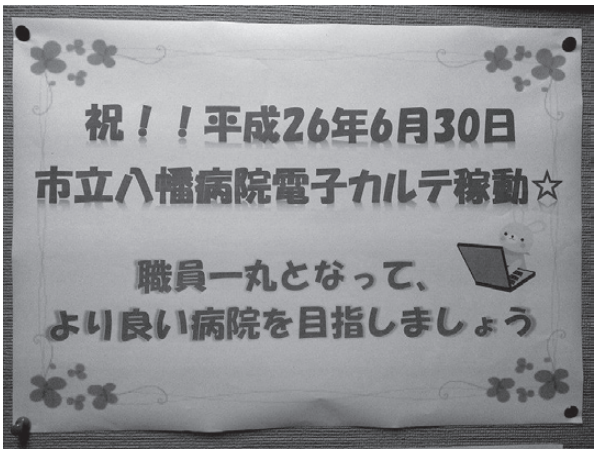
その後本稼動までは、紙からの移行に伴うデータ入力作業が黙々と行われました。

平成26年6月30日月曜日、外来では新しい受付端末や予約画面が患者さんを待ち、病棟ではノートパソコンに入院患者さんの情報が打ち込まれ、各部門のシステムにはオーダーが送られて行きました。

ベンダーの東芝の方からは、難しい条件の中、大きなトラブルもなく上手く移行できた成功例であり、それはそれぞれの職員が協力的で、訓練にも熱心であり、問題点をしっかり伝えてくれたことにあるとのコメントをもらいました。

電子カルテの運用については、まだまだ問題も多く、病院業務の効率化や経営分析などに繋げるには発展途上で、今後もよりよいシステムをめざしての取り組みを続ける必要があります。





平成26年度新病院建設計画について

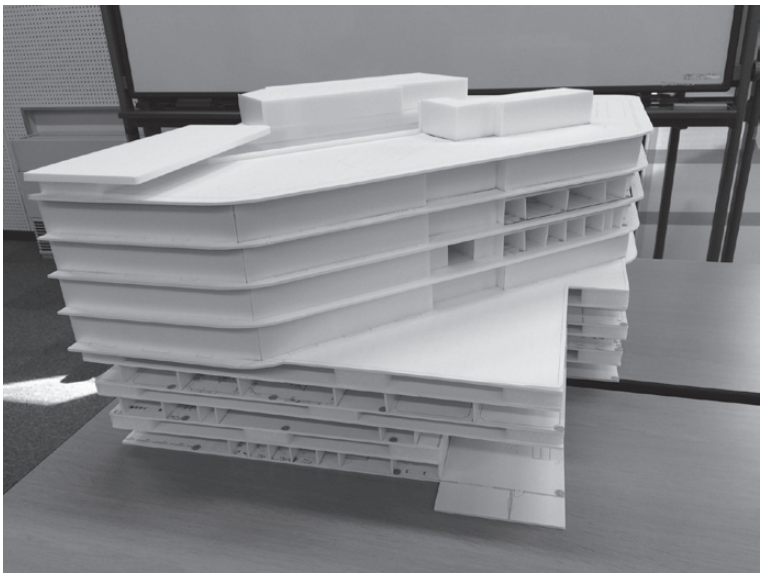
担当副院長　太﨑 博美

平成27年度になって徐々に新病院の全体像がハードの面でもソフトの面でも見え始めています。26年度は、外来や病棟、医事・管理、臨床支援部門などの区画やプロットなどを行いました。忙しい臨床の合間をぬって参加して下さった皆さんへ感謝致します。これまでの経緯と今後の予定について説明します。

平成26年5月に発表された「新北九州市立八幡病院基本計画」に従って、8月27日にプロポーザル審査委員会にて山下・川原基本設計合同企業体が受託と決定しました。10月の正式契約を経て、新病院基本設計提案をたたき台とした、部門配置ワーキングを11月初旬から開始しました。15部門に分けて、のべ220名のスタッフに参加して頂きました。それぞれ1時間から3時間のワーキングを複数回行いました。一つのワーキンググループでは結論のでない問題は、複数のグループに集まって貰い討議を重ねました。言うまでもなく“陣取り合戦”ですので、決まった面積をお互いの意見を戦わしながら分け合っていくというかなり切実・真剣な討論を行いました。幸い12月には、ほぼ最終的な部門配置を得ることが出来ました。

その後、今年になって、各部門で必要な部屋の組み合わせを決め、その中の具体的な物品の配置、電源、LAN、ドアなどの仕様を考えることになりました。現在保持している器材・機器と新病院での新しい機能（看護外来や外来連携相談室、化学療法室、細菌検査室、総合医局など）を考慮しなくてはならず、1月から各部門のほとんどの皆さんが時間外の仕事として関わって下さいました。2月から3月で、15部門のプロットのためのワーキングを行いました。併行して複数回の検討委員会を行っています。以上により3月末（26年度末）を以て、最終基本設計を構築することが出来ました。

平成27年度は、新たなステージに入ります。まず、新病院のための新規役職として“新病院移転調整官”2名が、八幡病院経営企画課の隣室に配置されました。病院サイドの要望・意見と局との調整を担って下さいます。また、今年度前期に基本設計を元に実施設計＋建設についての募集を行う予定です。後期には、決定した事業者のもと実施設計が開始されます。これから現在の病院の機能を勘案しながら新しい病院の機能を考えていきたいと思います。



4

診療科部門紹介

内科

内科主任部長　末永 章人

一年間の概要

［スタッフ］

内科は常勤医8名、非常勤応援医7名。

［外来］

外来は3～5名/日の外来担当医により各種専門外来・一般内科外来をおこなっています。救急患者さんに対しては、救急対応当番医（循環器内科と混合）がおり、できる限りの救急患者受け入れをおこなっています。

外来患者数（延べ人数）は昨年一年間で12,827名（2013年は13,293名）でした。救急車搬入件数は、内科と循環器内科併せて昨年一年間で1,113件（2013年は1,007件）でした。

［入院］

常勤医8名により受け持ち分担をしています。救急で入院になった患者さんについては、速やかにそれぞれの専門分野医師にコンサルト・引き継ぎがおこなわれています。

入院実患者数（内科のみ、循環器内科除く）は、常勤医が増えたこともあり昨年一年間で588名（2013年は425名）と昨年を大きく上回りました。

［検査］

昨年一年間の内視鏡検査は、上部消化管448例（2013年425例）、下部消化管241例（2013年195例）と件数を伸ばしています。気管支鏡41例（2013年61例）でしたが、病棟などで行うポータブル（緊急挿管や痰取り）が統計に入っておりません。

今後の方向性

2014年4月より消化器内科専門医1名と糖尿病内科専門医1名がスタッフに加わりました。消化器疾患の内視鏡検査・治療の件数も増えており、糖尿病治療・教育もより高度なものがおこなわれるようになりました。

救急患者さんに加え、近隣の先生方からの紹介患者さんも少しずつ増えており、入院患者数も昨年より増加しています。

総回診やカンファランスなども内科・循環器内科合同でおこなっており、病棟・医局でも気軽に相談し合える雰囲気があり、協力しながら診療にあたっています。

今後も病診連携を大切にし、地域の皆様の要望に応えるべく、内科スタッフ一同努力してまいります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

循環器内科

循環器内科主任部長　原田 敬

■2014年度の診療実績

治療実績	2012年度	2013年度	2014年度
冠動脈カテーテル検査（診断のみ）	236	212	249
冠動脈カテーテル治療　（　）は緊急症例	136（35）	118（40）	107（16）
ペースメーカー植込み　（　）は新規	22（14）	25（17）	27（17）
カテーテルアブレーション	3	1	1
末梢動脈カテーテル治療	20	52	39
腎動脈ステント治療	12	17	9
静脈系カテーテル治療	9	16	2
心筋生検	2	4	7

平成4年にスタッフ3名でスタートした循環器科は、平成9年に5名に増えて緊急PCIを開始し、平成25年度は7名+非常勤1名、そして平成26年に常勤8名となり、緊急症例にはいつでも対応できる体制が強化されました。また、循環器科専用の撮影装置で対応が難しくても、放射線科の撮影装置を使って治療できるようになり、万全の受け入れ体制でした。一方、この年度は症例が減少し、少々力を持て余していた感は否めません。近隣施設も同様の傾向と聞いており、病気が減っているのなら喜ばしい事でしょう。平成27年度になると、また症例数が増えてきているので、一過性の変動なのかもしれません。

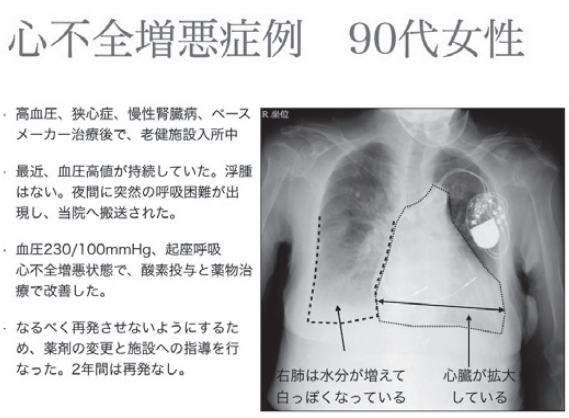
平成27年度は、撮影装置が最新式に更新され、これまでよりもさらに良質な治療が可能になります。低侵襲で、最良の治療を行なうべく、これからも努力して参ります。

■　各疾患の傾向

1）心不全

2025年問題という言葉をご存知でしょうか。これは、年齢別の人口構成で最も大きな割合を占めていた団塊の世代が、2025年前後に介護年齢に達することを示しています。高齢化問題が最大の試練を迎える年でもあります。その問題の一つは、慢性疾患の増悪を繰り返す事による、医療費の増大です。認知症、肺炎、心不全がその代表疾患でしょう。

心疾患が長期化・進行すると、最終的には慢性心不全に至ります。昔なら発症して亡くなっていたはずの心筋梗塞も、今はカテーテル治療で救命が可能になります。しかし、大なり小なり心臓はダメージを受けており、何十年も経過すれば、機能を維持する事が難しくなるかもしれません。高血圧も、長年コントロールが悪ければ、徐々に心機能は低下します。このように、寿命が長くなると、どうしても心機能が低下した患者さんは増えていきます。特に高齢化の進んだ北九州は、この傾向が顕著なようです。

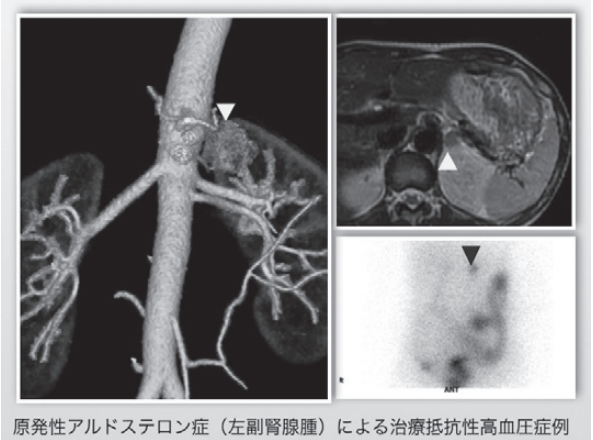


平成14年の当院の調査では、1年間に心不全増悪で入院した患者は約150人程度（年齢74歳、1/4は独居、1/4は二人世帯）で、当時でも高齢者で生活サポートが脆弱な背景が読み取れます。平成25年度になると心不全入院は200件を超え、一年以内に再発作で入院する患者さんは3割を超えています。心不全リピーターをどうやって減らし、自宅や施設で快適な生活を送ってもらうのか、これが私達に与えられた第1のテーマです。

当院では、心エコーによる心機能評価等で細かく行い、その特徴に応じた治療薬の選択を考えています。また機能を維持するために有効な心臓リハビリを、入院だけでなく、外来でも行なう事で、再発を防げた症例も経験しています。再発某の指導も重要で、特に外来では家庭血圧測定、体重測定、塩分摂取量の推定などを活用しています。

2）高血圧症

成人外来疾患で最も多くを占める高血圧は、脳心血管病の重要な危険因子です。当院では、初診高血圧や治療に難渋している高血圧症例を積極的にスクリーニングし、その背景に別の原因が隠れていないかを探っています。副腎にできた良性腫瘍による高血圧（原発性アルドステロン症）や、腎動脈狭窄症を発見し、この治療によって血圧コントロールが改善した症例を経験しています。高血圧は最初の評価が重要です。コントロールに難渋している症例がありましたら、いつでもご相談下さい。


原発性アルドステロン症（左副腎腺腫）による治療抵抗性高血圧症例

3）冠動脈疾患

冠動脈疾患に対するカテーテル治療は、再狭窄を予防するための薬剤を塗ってあるステント（薬剤溶出性ステント）の登場で、治療成績は飛躍的に向上しました。以前はバイパス手術しか方法がなかったような複雑な病変も、いろんな治療器具の発展によってカテーテルで治療できる時代になっています。

それでも、血管にカテーテルを入れるという部分は省略ができません。このため、より細いカテーテルで、被曝量を減らし、使用する造影剤を減量できたらと思っていました。当科では、九州で最初に橈骨動脈からのカテーテル治療を始めた施設です。当時は専用の道具がなく、専用のカテーテルや止血器具を開発し、多くの学会で報告してきました。

最近では、低侵襲という志をもつ全国の仲間と繋がる事で、さらに低侵襲な治療法を導入するようにしています。より細いカテーテル、より少ない造影剤で、多くの症例を治療しています。2014年は例年になく症例が少ない年でしたが、大きな合併症をつくることもなく、ほぼ全例治療に成功しています。

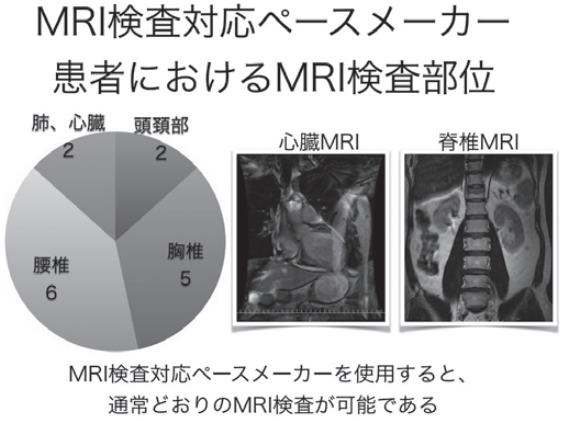
当院には心臓外科がないという不利な点はありますが、北九州市には優秀な心臓外科施設があり、連携をとって安全な治療を行なっています。これまで、カテーテル治療中に心臓外科医に相談するような大きな合併症を経験しない理由として、心臓外科がない故に無理な治療を避け、最善の治療法を選択する姿勢があると感じています。

4）不整脈疾患

ペースメーカー植込み件数はあまり大きな変動はないものの、2013年より使用が可能となったMRI検査が可能なペースメーカー装置の植込み件数が増加しています。

従来、ペースメーカーは電磁波や強力な磁気による影響を受けるため、ペースメーカー植込み患者においてはMRI検査は禁忌でした。一方、MRI検査は、CTと違って被曝の問題がなく、造影剤を使わなくても体内の情報を映像化できるため、MRI検査でなければ難しい症例も数多く存在します。最近、MRI検査の影響を受けないペースメーカーが開発され、その有用性に注目が集まっています。

当院では、早くからMRI対応ペースメーカーに対して放射線科と連携して院内の検査体制を確立し、2014年までに11件のMRI検査を行なうことができました。いずれもペースメーカーの作動には影響がなく、ほぼ目的のMRI検査が可能でした。図には実際に検査した部位と、代表的なMRI画像を示しています。残された問題は、従来のペースメーカーを使用している場合の対応でしょう。これについては、いずれ有効な解決策が示されると期待しています。



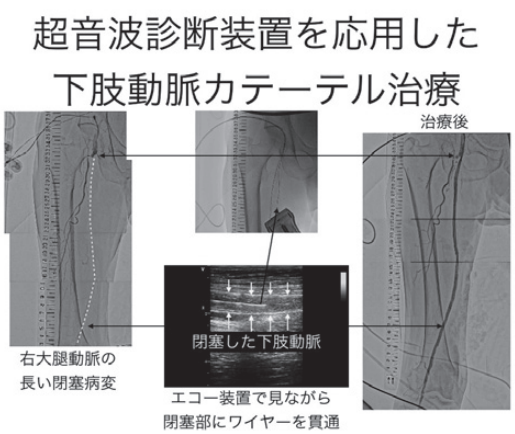
MRI検査対応ペースメーカーを使用すると、
通常どおりのMRI検査が可能である

5）末梢動脈疾患

近年、高齢化が進み、下肢動脈が閉塞する末梢動脈疾患が増えています。閉塞部以下の血流が低下するため、運動時の下肢痛（間欠性跛行）や色調の悪化、下肢温の低下が主な症状となります。しかしほとんど歩かない人では、かなり進行しないと症状が表に出てきません。この疾患を有する患者さんは、冠動脈や頚動脈などにも同様の病変を持っていることが多いので、早めに診断して、他の動脈硬化をスクリーニングする事が大切です。

下肢血流の低下が薬物治療や運動療法で改善しない場合や、最初から重症の場合は、バイパス手術やカテーテル治療が必要になります。

特に閉塞した血管の治療では、閉塞部分にワイヤーを正確に貫通させることが成功のポイントです。私達は、体外から血管超音波診断装置で血管の走行を確認しながらワイヤーを通過させる方法で、治療を行なっています。この方法は血管エコーの手技を理解しておく必要がありますが、造影剤と放射線被曝を低減できるメリットがあります。



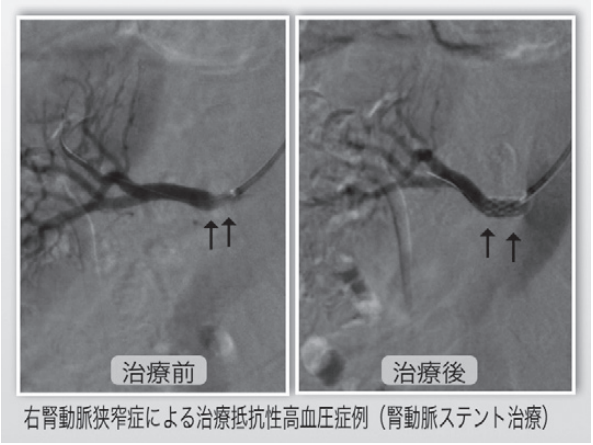
2014年の下肢動脈カテーテル治療39例のうち、約半数が完全に閉塞した大腿動脈でした。全例をこの方法で治療し、大きな合併症もなく成功しています。その他の症例も、全例治療に成功しています。また、その中には、足の指が壊死に陥る寸前の症例もあり、形成外科と協力して治療を行ないました。下肢冷感、間欠性跛行、下肢の色調変化などでお困りの症例がありましたら、ぜひご紹介下さい。

6）腎動脈狭窄症

腎動脈狭窄症は、治療に難渋する高血圧、進行性の腎機能障害、難治性で繰り返す心不全の原因となる疾患です。腎動脈に動脈硬化がおこり、その入口が狭くなると、腎臓への血流が低下します。腎臓は腎動脈に流れる血流を一定にする機能があり、低下した血流を補うために塩分と水分の排出を抑制し、血圧を上昇させるような状態に陥ります。これが長期間経過する事で、上記の諸症状が出現してきます。

当科では、2004年よりこの疾患の診断と治療について取り組んできました。2014年までに治療した症例は160例を超えており、その経験を多くの学会や研究会で発表しています。

この疾患はあまり自覚症状がないので、血圧や腎機能の変化を注意し、疑われる事例に積極的に検査を行なう必要があります。診断では腎動脈エコー検査が有用です。エコー検査は造影剤を必要とせず、苦痛もありません。検査には特殊な技術が必要で、症例によっては検査が難しいと思われています。しかし当科では、より検出が容易で正確な計測が可能である側面アプローチ法で検査を行なっています。5分間の制限時間内で従来法とこの方法での検査成



右腎動脈狭窄症による治療抵抗性高血圧症例（腎動脈ステント治療）

功率を検討したところ、従来法では6割程度、この方法では9割以上の成功率でした。この経験はテキストとして全国に配布し、各地での普及活動を行なっています。

コントロールに難渋する高血圧、徐々に悪化してきた腎機能障害、心不全を繰り返す症例がありましたら、この疾患のチェックは必須ですので、ぜひご相談下さい。

7）その他

当院は救命センターがあるので、急性大動脈解離や大動脈瘤破裂など、緊急の外科手術が必要な事例も搬送されてきます。幸い、近隣に優秀な心臓外科医がいるので、診断を迅速に行ない、緊急手術が必要な事例は、診断や処置の最中にこれらの病院へ連絡をとり、転院の手配を行なっています。

また、心肺停止症例は年間100件前後の搬入があり、蘇生後は必要に応じて脳外科と連携しながら低体温治療を行なっています。完全復帰は難しい事例ばかりですが、それでも社会復帰に辿り着いた事例も経験しています。

■学会・研究会・講演会

内容	件数
論文	0件
講演	18件
学会・研究会 （国際学会）	25件 （1件）
著書	1件
座長・司会	15件

2014年度も多くの学会や研究会で当院の経験を報告しました。また末梢血管治療、腎動脈治療を中心に、各地での講演会活動も行ないました。今後も学術活動、啓蒙活動に力を入れたいと思います。

■市民講座

2013年に行なった市民講座をもとに、公民館などで足の健康についての出前講演を行ないました。地域住民の皆様へ、有益な情報提供ができたと感じています。出前講演は可能なかぎり続けていく方針です。ご興味のある方は、当院庶務係へご連絡下さい。

■循環器スタッフ（2014年）

役　職	氏　名	卒　業	得意分野
副院長	太﨑　博美	S56年 九州大学	高血圧、高脂血症、心不全
統括部長 （H27.4～）	原田　　敬	S61年 長崎大学	高血圧、心不全、冠動脈インターベンション、末梢動脈インターベンション、不整脈治療、心血管エコー検査
主任部長 （H27.4～）	田中　正哉	Ｈ２年 産業医大	心不全、冠動脈インターベンション、心臓リハビリテーション
部長	小住　清志	Ｈ８年 産業医大	心不全、高脂血症、高血圧、冠動脈インターベンション、心臓リハビリテーション
部長	佐貫　仁宣	H14年 長崎大学	冠動脈インターベンション、末梢動脈インターベンション
	岩垣　端礼	H23年 産業医大	循環器全般
	中園　利和	H22年 産業医大	循環器全般
	眞田　賢哉	H23年 産業医大	循環器全般

小児科

北九州市立八幡病院小児救急センター
小児救急センター長・小児科主任部長　神薗 淳司

小児救急センター　2014年展望

日本小児科学会は「小児科医は子どもの総合医である」とし、Generalistとしての小児医療の魅力を訴え、小児科医の確保のため病院小児科の集約化・重点化を掲げ、教育を柱とした将来の小児科医の育成を目指している。子どもに関わる医師、すなわち家庭医・総合診療医・救急ER医と協調し、子どもの専門医としての役割を担っている。

当小児救急センターの特徴は、日本小児科学会臨床研修指定病院として豊富な小児内科領域の臨床症例に恵まれていることである。さらに全ての子どもの外傷の初期治療に対応して、当センター医師が主治医として担当する点である。2014年、時間外受診を含む外来年間患者受診者数は54,000名にのぼり、年間入院者数は3,800名に達した。2005年「小児救急センター」と改名後、さらに2008年には病棟を再編した。大部屋は全て4人部屋で、西4階病棟48病床東4階病棟46病床ICU8病床の計102病床で現在稼働している。

このような受診者数・入院者数の増加は、必然的により効率的・効果的な医療サービスが求められるようになった。2006年より全国でいち早く小児救急トリアージ制度を導入し、2011年からは本邦初の小児早期警告スコアリング・システムを病棟に導入した。医療安全の側面から院内急変対応として現在活用している。2014年には救急外来および一般外来に来院する全ての患者のフィジカルアセスメントの評価を標準化する目的にこの小児早期警告システムを運用している。

この豊富な症例からエビデンスを見いだす作業として臨床研究も重視している。リサーチマインドを持ち続ける若き医師の素朴な疑問を大切にし、新しいエビデンスを作り出す機運を尊重している。この雰囲気作りは、毎日の早朝カンファレンスと回診、毎週の抄読会、症例検討会により繰り返し伝えられ、個々の発展的な地道な作業を可能にしている。最近5年間は、日本小児科学会、小児科学会福岡地方会、日本小児救急医学会を中心に年間約50の臨床研究を継続的に発表するに至った。教育面では、現在10-12名の小児科初期・後期研修医を3つのグループに分け、10年目以降の専門医が指導にあたっている。特にケース・プレゼンテーションには十分時間を割いている。小児救急診療の基本となる外観や呼吸・循環の評価とバイタルサインに基づいた病態生理の評価が迅速にでき、簡潔に伝える能力の修得を目標としている。

2014年7月には児童虐待防止医療ネットワーク事業推進として福岡県の児童虐待防止拠点病院の施設に認定された。当院チームとして家庭機能不全や育児不安などの複雑な患児を取り巻く背景を瞬時に察知し配慮することができる能力や瞬時に冷静な判断を下すトリアージ能力の担う側面は地域社会への影響を鑑みるとその責任は大きい。

2014年8月、平成30年開院に向けた新八幡病院の基本方針が発表された。なかでも小児救急センターはその中心的な成長が求められている。小児集中治療分野や搬送医療の充実と専門分野として小児血液がん医療・小児神経疾患医療の充実、さらに児童虐待防止拠点病院として地域医療に貢献していく所存である。

外科・呼吸器外科

外科主任部長　木戸川 秀生

外科・呼吸器外科の2014年スタッフは伊藤重彦副院長、岡本好司統括部長、木戸川秀生外科主任部長、澤田貴裕呼吸器外科主任部長、井上征雄救急部主任部長兼任、山吉隆友外科部長、野口純也外科部長、新山新外科部長、桝屋隆太外科部長、小山正三朗外科副部長の10名であった。

【人事異動】

4月から愛媛県立中央病院より澤田貴裕が呼吸器外科主任部長として赴任した。また小児外科専門医の新山新が1年半ぶりに鹿児島から再赴任となった。3月で松本彩、久永真が退任し小山正三朗が赴任した。

【手術】

2014年の手術件数は391件（全身麻酔359件、腰椎麻酔3件、局所麻酔29件）で前年より約6.5%の増加となった。緊急手術は118件で全症例の30%を占めていた。また15歳以下の小児症例は126例で全症例の32%であった。 鏡視下手術（胸腔鏡または腹腔鏡）は243例で全体の62%であった。

【業績】

2014年1年間で論文発表22件、学会発表38件であった。

【年間を通して】

電子カルテ導入：

2014年の最大のトピックである念願の電子カルテが6月30日より稼働した。いままで病棟まで出向かなければならなかった色々なオーダーがすべて病院内のどこの端末からでも可能となり、病棟業務の雑用がかなり軽減された。またマルチセットを登録することでさまざまなオーダーをまとめてセットとして登録できるのはかなり有用である。さらにクリニカルパスを使うことで入院から退院までの指示が瞬時に終了できるようになった。ほとんど戸惑うこともなくスムーズに紙カルテから電子カルテへ移行できた。

伊藤副院長還暦祝い：

伊藤副院長が還暦を迎え2014年1月11日千草ホテルにてお祝いの会を開催した。近隣で開業されているOBの先生方を始め、八幡病院にローテーターとして赴任したOBの先生、外科病棟OBの看護師の皆さんも参加していただき、盛会となった。

伊藤副院長救急功労者総務大臣表彰祝賀会：

伊藤重彦副院長が救急功労者総務大臣表彰を受賞された。11月15日祝賀会を千草ホテルにて開催した。詳細は別項参照。

【今後の展望】

2015年4月からは島根医大より1名と産業医科大学より2名の医師が増員予定である。一方小児外科は1名減となり計2名増員で12人体制となる予定である。かなりスタッフが充実してきており更なる手術症例の増加にも対応可能と思われる。

整形外科

整形外科主任部長　辻 正二

整形外科は5名の医師が診療に当っています。3名が日本整形外科学会専門医の資格を持っており、病院自体も日本整形外科学会の研修指定病院となっています。

骨折などの外傷に対する手術が主で、手術後のなるべく早い時期からのリハビリテーションを実施しています。

2014年は428例の手術を行い、上肢の骨折181例（鎖骨21例、肩7例、上腕6例、肘47例、前腕39例、手関節部55例、手指6例）、下肢の骨折246例（股・大腿骨99例、膝関節部33例、下腿43例、足関節54例、足趾20例）、骨盤骨折3例、その他8例でした。そのうち、多発骨折は60例、小児の骨折は100例でした。救命救急センターを併設していることから、重症の骨折症例が多く、また、小児救急センターを併設していることから、小児の骨折症例が多いことが特徴と言えます。一次から三次救急までの整形外科患者の診療を担当しています。近年、手術方法、手術機器の進歩はめざましく、積極的に手術を行っています。開放骨折や脱臼など、緊急性の高い症例では、救急科、麻酔科、手術部の協力のもと、即日手術を行っています。

小児の骨折においても、開放骨折、転位の大きな骨折（上腕骨顆上骨折など）や10歳以上の自家矯正の望めない症例では、小児科の協力のもと、積極的に手術を行っています。最近では高齢者の骨折が増加してきており、認知症を合併する率も高く、西5病棟看護師・リハビリスタッフの協力を得ながら、入院加療を行っています。（尚、北九州太腿骨近位部骨折地域連携パス協議会に所属する回復期病院のご協力には感謝しています。）

2014年の学会活動としては、北九州整形外傷研究会、福岡整形外科外傷研究会、西日本整形・災害外科学会で発表をしました。また、北九州整形外科医会、北九州リハビリテーション研究会等にも積極的に参加をしています。

今後の方向性としては、外傷治療を含めた救急医療の充実、急性期リハビリテーションの充実を目指しております。

脳神経外科

脳神経外科主任部長　岩永 充人

当院では、脳神経外科専門スタッフ院内常駐による24時間脳神経救急対応を行っている。
2014年4月から常勤医が4名から3名に減員となり、勤務状況は厳しいが、非常勤医の応援のおかげで、上記対応を維持している。

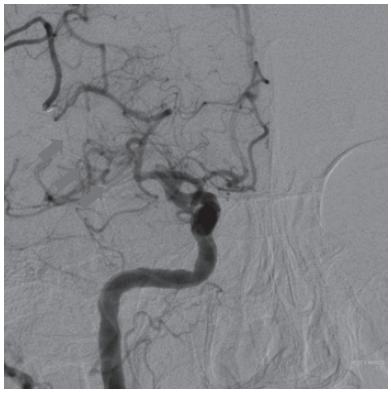
例年通り、慢性疾患は少なく、救急疾患が多い。
そのため、入院症例の多くは脳卒中、頭部外傷、脊髄・脊椎外傷である。

脳塞栓症に対する急性期血行再建デバイスとしてステントリトリーバーが2014年に保険収載され、当院でも導入した。
1例紹介する。
突然の左片麻痺で発症した右中大脳動脈塞栓症の症例。
右中大脳動脈閉塞しており（Fig.1左）、閉塞血管にマイクロカテーテルを進め、閉塞部位を確認した（Fig.1右）。ステントリトリーバーを展開し（Fig.2左）、血栓を回収した（Fig.3）。閉塞部位の再開通が得られた（Fig.2右）。

脳塞栓症急性期で適応を満たせば、このように再開通療法が可能であり、良好な予後が期待できる。脳神経救急症例に限らず、脳神経外科全般にわたり、地域医療に貢献する所存である。

Fig. 1

赤丸の部位の動脈が描出されていない



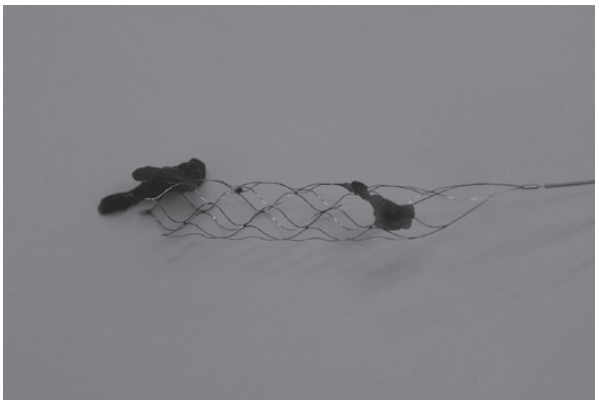
赤矢印にマイクロカテーテルをすすめた

Fig. 2

赤矢印の位置にステントリトリーバーを展開

赤丸の部位の動脈が再開通

Fig. 3



ステントリトリーバーで回収された血栓

形成外科

形成外科主任部長　田崎 幸博

2014年の診療体制

常勤3名

うち日本形成外科学会専門医が、2014年4月より2名から3名となった。

2014年の手術件数

Ⅰ. 外傷		690
	熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の手術例	16
	顔面軟部組織損傷	450
	顔面骨折	33
	頭部・頸部・体幹の外傷	8
	上肢の外傷	147
	下肢の外傷	42
	外傷後の組織欠損（2次再建）	2
Ⅱ. 先天異常		129
	唇裂・口蓋裂	83
	頭蓋・顎・顔面の先天異常	33
	四肢の先天異常	8
	体幹（その他）の先天異常	5
Ⅲ. 腫瘍		184
	良性腫瘍（レーザー治療を除く）	161
	悪性腫瘍	23
Ⅳ. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド		17
Ⅴ. 難治性潰瘍		6
	褥瘡	1
	その他の潰瘍	5
Ⅵ. 炎症・変性疾患		14
Ⅶ. 美容その他		3
計		1043

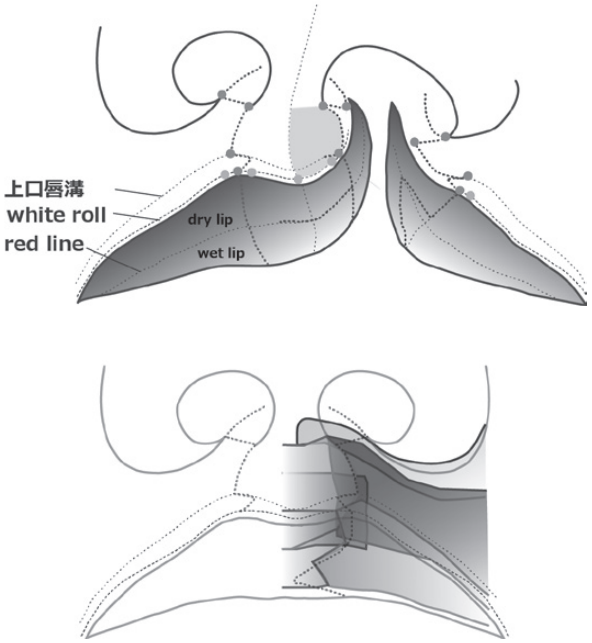
2014年の概要

●外傷

小児外傷、労災、交通事故、スポーツ外傷など、顔面や手足を中心とした皮膚軟部組織損傷、顔面骨骨折に対し、24時間365日対応できる体制を取って、690件の手術を行った。

●先天異常

口唇口蓋裂に関しては、片側口唇裂の表層と筋層をサブユニットごとに組み立て、三次元的対称性を得る当科の方法は、安定して良好な結果が出せるようになってきている。主要な全国学会でも評価を受けるようになり、日本形成外科学会学術集会のシンポジウム「唇裂初回手術ではどこまで治療すべきか」では、シンポジストとして発言の機会を得たほか、同学会の口蓋裂ガイドラインの作成にも関わった。



●腫瘍

近隣の皮膚科などから皮膚の良性・悪性腫瘍の手術を依頼される紹介が増加し、皮弁形成などにより、より目立たずに治るように切除再建を行っている。

●皮膚潰瘍

大きな褥瘡に対しては陰圧閉鎖療法を行うことで、より侵襲の少ない治療が可能となった。

点滴や造影剤などの血管外漏出による皮膚潰瘍については、治療に当たるだけでなく、対策マニュアルの作成や講習など、医療安全対策にも関わった。

●ボトックス治療

重症の原発性腋窩多汗症に対するボトックス治療が

保険適応になり、対応できる医療機関として当科がネット上に登録されたため、来院が増えた。
腋窩の発汗については、重度の腋窩多汗症に対してはこのボトックス治療を行い、腋臭症（わきが）に対しては手術を行なっている。

●フットケア
循環器科のカテーテル治療などの協力を得ながら、下肢の潰瘍や壊死の治療に当たっている。また、足の皮膚・爪のケアについて市民への出前講演なども行い啓蒙に努めている。

●クリニカルパスの電子カルテ対応
カルテの電子化に伴い、いち早くクリニカルパスの電子カルテ対応を行って、おもに先天異常症例に対して適応している。

麻酔科

麻酔科主任部長　金色 正広

麻酔科は、例年通り麻酔業務と外来業務を行っています。

外来は、週2日（月・木）午前中のみです。

月曜日は石田、木曜日は金色がそれぞれ担当し、ペインクリニックとしての疼痛治療と小児の鼠径ヘルニアなど手術当日入院症例に対する事前の術前診察とご家族への麻酔説明を行っています。現在、マンパワー不足により入院による疼痛治療は行っておりませんが、帯状疱疹や突発性難聴、顔面神経麻痺などで皮膚科や耳鼻科に入院されている患者さんへの治療にはお手伝いさせていただいています。

麻酔業務は、常勤医の2名と産業医科大学麻酔科をはじめとする非常勤の先生方の協力を得て、今年度は約1,400例の全手術症例のうち、浸潤麻酔や伝達麻酔、局所静脈麻酔を除く、全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔など年間約1,000例を担当しました。

当科では、常に「より安全に。より快適に。」をモットーに麻酔管理を行っています。当院の手術症例の特徴としては、まず小児救急の充実および長年にわたる形成外科による唇裂口蓋裂患児への取り組みにより、乳児を含む小児患者が多いことがあげられます。特に唇裂口蓋裂患児は複数回手術を余儀なくされるため、適切な前投薬の選択の他、患児の年齢や性格の把握、ご家族とのお話などから、家族同伴入室やビデオを見せながらの緩徐導入などを症例ごとに検討し、できるだけ不安・苦痛を取り除くよう配慮しています。

一方、整形外科の四肢外傷や外科の腹腔鏡による虫垂切除術やヘルニア根治術などの症例のほか、術前から抗凝固薬や血小板凝集抑制薬を使用され硬膜外麻酔等の施行を躊躇する症例などには早くから超音波ガイド下の末梢神経ブロックを積極的に取り入れています。

手術は病院におけるチーム医療の最たる物だと思います。患者をメンバーの一人として中心におき、主治医・手術室スタッフとともに、引き続き安心して手術を受けていただけるよう努力していきたいと思います。

泌尿器科

泌尿器科主任部長　森下 直由

1．1年間の現状

外来は医師1名で行い患者数は例年なみであった。

成人の手術では経尿道的手術5件（TUR-P 3件、TUR-Bt 2件）、骨盤骨折に伴う後部尿道損傷に対する後部尿道形成術1件などを施行した。その他には経尿道的尿管ステント留置術10件（結石性腎盂腎炎5例、消化器癌末期3例、そのうち1例は経皮腎瘻、腎盂破裂2例）を緊急に行った。

小児の手術では精巣捻転手術4件（うち緊急手術2件）、停留精巣固定3件、陰嚢水瘤手術3件、腎盂形成1件などを施行した。

2．今後について

泌尿器科は昭和54年12月1日以降、長崎大学より当初1名、昭和60年6月1日からは2名に増員されたものの医局員の減少に伴い平成20年4月1日には1名に減、平成27年3月31日をもって派遣中止となる。

この35年4か月間に長崎大学からは本村精二、森下直由*、林幹男*、由良守司、岩田信之、渡辺義博、今村厚*、城代明仁、鈴博司、野俣浩一郎、神田滋、白石和孝、古賀成彦、小川繁晴、中村幹夫、谷口啓輔*、錦戸雅春、犬塚周、川村雅也*、宮口大志、高橋元、鳥山浩二、松尾祐三、計屋知彰、相良祐次、渡邉慎一（着任順、敬称略、*印は2回）が派遣された。

なお平成27年4月1日より泌尿器科診療は産業医科大学からの派遣医師が担当する。

精神科

精神科主任部長　白石 康子

1. 精神科診療内容について

当院精神科は外来とリエゾンを柱として診療を行っている。リエゾンとは精神症状を伴う患者さんを身体科主治医と協力して加療するものである。

2. 外来診療について

当科外来は診療情報提供書のない初診患者も受けているため患者さんの症状は多岐にわたる。

2014年の年間外来患者数は3,153人でそのうち新患は116人であった。（グラフ1参照）

新患患者の疾患分類をICD-10分類に従って見てみるとＦ４：神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害とＦ３：気分（感情）障害が半数以上を占め、ついでＦ０：症状性を含む器質性精神障害　Ｆ２：統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害、Ｆ５：生理的障害および身体的要因に関連した行動症状群と続き、わずかながらＦ７：精神遅滞（知的障害）　Ｆ９：小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害　Ｆ１：精神作用物質使用による精神および行動の障害が含まれる。（グラフ2参照）

Ｆ５に分類される症例は、いずれも非器質性不眠症であった。

また「その他」に分類されている中には資格取得のため「精神疾患ではない」という診断書希望や役所からの検診依頼などで受診し精神疾患を認めない場合である。

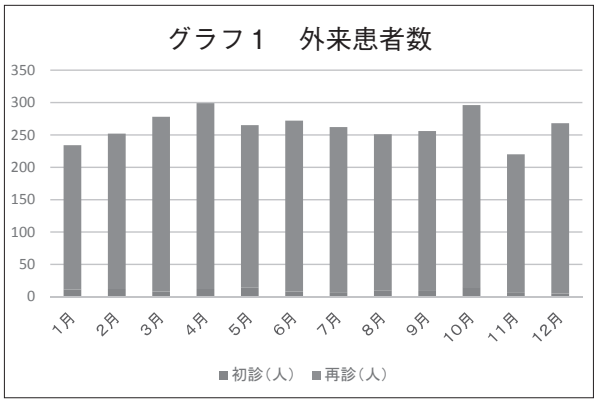
3. リエゾンについて

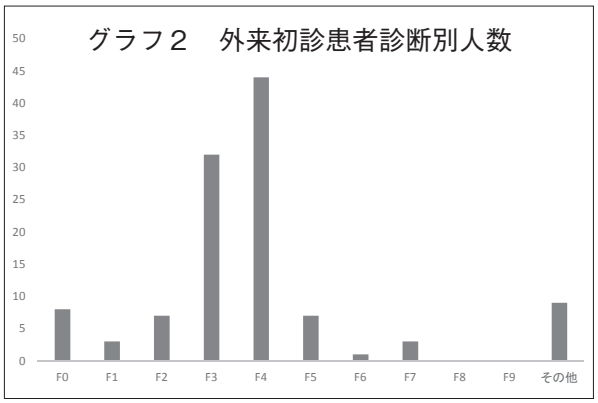
入院中主治医を通して精神科紹介となった患者の2014年のべ総数は685人で、うち初診患者は85人、紹介元科は整形外科、内科、外科が多い。（グラフ3参照）

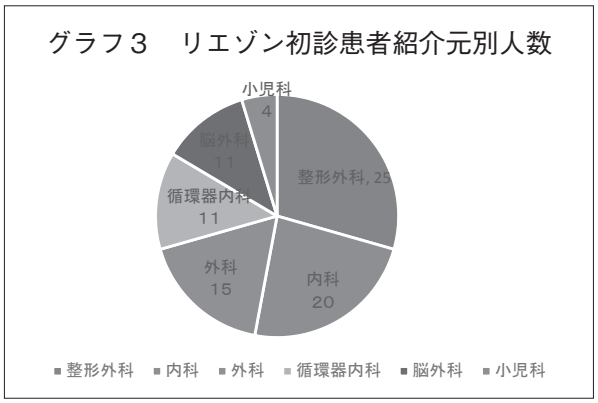
紹介理由はせん妄、不穏が多く年齢別では高齢者が多く紹介初診患者の半数は80歳以上であった。

4. 今後の方向性について

最新の知見に基づいた薬物療法と並行して精神療法に力を入れ、患者さんの満足を得られる診療を目指していく。







救急科

救急科主任部長　井上 征雄、田口 健蔵

救急科では救急外来での初療の他、ドクターカーによる病院前救急診療、北九州市消防局救急ワークステーション（高度救急隊）における救急隊員の教育、北九州市消防局や市内の医療機関と連携しての災害対応訓練等、院内外で幅広い活動を行っています。

ドクターカーによる病院前救急診療では、重症外傷に対する現場での初期診療から院内への根本治療へのスムーズな連携が可能となり、救命に効果を発揮しています。

ワークステーションでの救急隊員教育に関しては、医師同乗指導が7年目に入って着実に成果をあげており、小児救急と並んで八幡病院の名前が全国区で知られる分野に成長してきました。全国の自治体・消防本部からの視察だけでなく、6月にはテレビ取材もありました。毎年、救急医学関連の学会発表や論文投稿も続けており、今年は4学会で発表し、論文投稿も行いました。

災害対応訓練では、北九州空港航空機事故対策訓練や特殊災害訓練の他、南海トラフ大地震を想定した内閣府主催の広域搬送訓練にも参加し、当院のDMATチームは大分県に派遣されました。最近四国でも地震が起きており、有事に備えて災害拠点病院として、日頃より院内でも訓練をはじめ、準備をしておかけなければと感じました。

2014年は救命センター受診者数7,156名、救命センター入院者数3,749名、救急車搬送件数も3,607件と年々増加しています。高齢化が政令指定都市の中でも著しい北九州ではますます高齢者の搬送件数は増加すると予測されています。そのため、現在新病院建設に向けて、ワーキング等で構想を練っていますが、広くて働きやすい救急外来の実現を目指して頑張ります。

放射線科（医師）

放射線科主任部長　神崎 修一

放射線科医師部門では昨年と同様、主任部長神崎修一以下、今福、今村の計3名で日常診療業務に当たっています。3名とも日本医学放射線学会認定の放射線診断専門医です。主な業務内容はCT,MRI,RIの読影、肝動注塞栓療法を始めとしたIVR、超音波検査、消化管造影検査などです。

2014年の診療概要

放射線技術課により1年間でCT 7772件、MRI 2507件、RI 198件の検査が施行されました。当科においてその検査の99%に画像診断報告書が作成されており、画像診断管理加算2（常勤の画像診断専門医がCT,MRI,RI検査についてその8割以上の読影結果を翌診療日までに主治医に報告することが条件、1検査月1回180点）の加算を頂いております。今年は病診連携医療機関からの画像検査診断依頼はCT 297件、MRI 349件、RI 31件、US 23件、計700件でした。昨年に比しMRI 98件（39%増）、CT 22件（8%増）の件数増加がありました。これは太崎副院長始め病診連携室スタッフのご尽力が大きいと考えますが、我々の検査および画像診断が病診連携機関の先生方に一定の御評価を頂けたものとも考えられ、当科スタッフ一同で喜んでおります。この御評価および御期待を裏切らぬよう、これからも質の高い画像検査、画像診断を目指してまいります。

IVRについては当科単独で86件の手技を施行しました。内訳は悪性腫瘍（主に肝細胞癌）に対する動注化学塞栓療法（TACE）54件、外傷による内臓損傷や骨盤動脈出血に対する緊急止血術（TAE）6件、PTCD,PTGBD,胆管ステント留置など胆道系手技10件、主に乳腺腫瘍などに対する経皮的針生検7件、膿瘍ドレナージ5件、その他4件でした。

2014年のトピックス

今年はやはり6月から導入された電子カルテ導入が病院全体にとって大きな出来事でした。当科にとって電子カルテ導入のメリットは極めて大であり、画像診断を行う症例の大部分において電子カルテを開いて病歴や診察所見、臨床検査データ等を参照しつつ読影しています。また画像にて確診に至らなかった症例や興味ある症例については臨床経過や生検・手術・病理結果などを参照させて頂き、画像診断レポートが妥当なものであったかretrospectiveに検討しております。

今後の抱負について

現代医療において画像診断の重要度が非常に大きくなっている以上、当科の責務も重大であると考えています。当科のさらなる画像診断能向上が病院全体の診療レベル向上に貢献できると考えます。画像診断能の向上に近道はなく、文献・書籍や学会・研究会での知識吸収および情報収集、何よりも自分達の読影した症例について経過を追跡し、読影が妥当なものであったか検討し、間違っていれば反省して次の画像診断に生かすといった事を地道に継続して行っていくことが重要と考えます。また、診療各科との連携を密にして臨床科が画像診断に求めるニーズを把握し、臨床に役立つレポートを作成したいと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。

（文責　今福 義博）

歯科

歯科主任部長　岡上 明正

歯科診療内容について

歯科ではウ蝕病巣を無菌化するために抗菌薬３-Mixを使用してきました。これはメトロニダゾール、シプロフロキサシン、セファクロルの三種混合薬をセメントに混ぜて病巣に貼付するというものです。これにより、従来は感染して保存不能と思われた歯髄を残すことができる症例がみられるようになりました。しかし成功率が30～40％程度なので、通常の術式として定着しませんでした。

2014年から３-MixMp法を採用する事になり、これはセファクロルの代わりにミノサイクリンを使用し、それら３種類の抗生物質・抗菌剤をマクロゴールとプロピレングリコールを練和した基剤に混合するというものです。従来のやり方と大きく異なる点は、３種類の粉末は別々の容器（乾燥剤入り）に保管し、使用時に結露を生じないよう15℃に設定した保冷庫にいれておきます。使用直前に粉末を混合することで、予想できない化学変化を避け３種類の粉末の本来の薬効が期待できるのではないでしょうか。また基剤であるマクロゴール・プロピレングリコールと混和することで、３-Mixは象牙細管の中まで浸透し易くななったものと思われます。さらにプロピレングリコールが３-Mixの無効な真菌に有効である事から、従来法に比べ３-MixMp法では無菌化のレベルが格段に向上したと言えます。

まだ症例が少ないので今後は患者さんの同意のもとで適切な症例を選択し、最大限の薬効が発揮できるよう厳格な術式で診療に携わっていこうと考えています。

放射線科（技師）

放射線科総技師長　許斐 稔

当部門の診療放射線技師は、「病院基本理念」「放射線技術部門基本理念」に従って365日休むことなく、患者様に安心して検査を受けていただけるよう低線量で診療効率の高い画像を提供できるよう努力しています。

スタッフは、正規職員19名・再任用者2名にて放射線業務に携わっています。主な検査内容は、一般撮影・透視・血管造影・心臓血管造影・CT・MR・RI検査などがあります。

今年は、病院の電子カルテ運用が6月30日より始まりました。これに伴い放射線検査部門でも、全検査フィルムレス対応となりました。

また、RI検査においては、Dat-scan（ダットスキャン）検査を始めました。この検査によりアルツハイマー病・パーキンソン病・レビー小体型認知症の識別が行えるようになりました。昨年導入したVSRADと共に、診断に役立てていただけると期待しています。

業務実績

平成26年1月から12月までの各検査項目の患者数は、以下のとおりです。

	一般撮影	CT	MR	造影透視	血管造影	心カテ	RI	骨塩	コピー
1月	2,427	667	209	122	15	47	5	1	78
2月	2,291	557	173	97	24	37	15	1	83
3月	2,438	701	234	107	13	37	25	2	102
4月	2,275	616	206	121	8	43	27	4	99
5月	2,446	661	214	90	7	49	14	0	96
6月	2,188	641	208	85	13	44	15	2	116
7月	2,338	657	211	102	9	35	18	9	179
8月	2,348	670	206	98	9	23	13	11	202
9月	2,724	594	202	98	6	42	14	9	189
10月	2,462	676	237	85	15	41	14	18	223
11月	2,351	654	204	77	9	30	16	19	213
12月	2,479	678	203	95	9	28	22	12	194
合計	28,767	7,772	2,507	1,177	137	456	198	88	1,774

3年間の比較（検査人数）

	一般撮影	CT	MR	造影透視	血管造影	心カテ	RI	骨塩	コピー
平成24年	32,715	8,223	2,557	1,070	131	447	232	60	745
平成25年	28,950	7,666	2,427	1,125	136	436	230	26	886
平成26年	28,767	7,772	2,507	1,177	137	456	198	88	1,774

現在、放射線技術部門には十数台の高額な画像診断装置がありますが、十分に活用されていない装置もあります。特にRI検査の件数は、10年間で半減しています。

放射線画像診断装置は、装置本体だけでなく毎年の保守・管理の費用も高額でありますので、装置を有効かつ効率よく利用し増収につなげていただけることを期待しています。

展望および課題

将来、電子カルテオーダーシステムを利用し、他医療機関からのネット予約システムを構築し、医療機器の有効利用を行いたいと思っています。

新病院に於いては、アナログ装置を廃棄し、完全デジタル化を行う予定です。

画像診断装置は、年々高性能化しており、これを使用する技師も装置を十分使いこなす為のレベルアップを図る必要があります。しかし、日勤帯の人員不足や変則2交代勤務のため一貫した研修が十分に行えない状態であり、対応を考慮する必要があります。

機器構成

西棟	一般撮影装置	3台
	TV装置	3台
	CT装置（64列）	1台
	血管造影装置	1台
	パントモ撮影装置	1台
	骨密度測定装置	1台
東棟	心カテ装置	1台
	RI装置	1台
	MR装置	1台
北棟	救急撮影装置	1台
	CT装置（16列）	1台
その他	ポータブル装置	3台

臨床検査科

臨床検査科総技師長　宮本 征美

1. 概況

当科は臨床検査技師数21名で検査業務を行っている。変則2交代勤務体制で日勤・夜勤を行い通常業務から救急搬送患者対応まで24時間体制である。

2. 現状

2014年は、検査システムのバージョンアップ（3月21～23日）に始まり、電子カルテ導入（6月30日）、新病院基本構想のためのWG、基本設計のためのWGと激動の1年であった。新病院のWGでは臨床検査WGはもちろん救急WG、外来WG、病棟WG、小児WG、災害WG等にも参加しより良い新病院をつくれるよう努力している。

電子カルテ導入に伴っては、微生物抗原迅速キット検査を24時間実施できる体制を整え六ヶ月間で月平均約500件の実績をあげている。またインフルエンザ流行のピークが12月であったため12月はインフルエンザ検査だけで約1000件の実績であった。また血沈検査も検査科で実施するよう変更し看護科の負担軽減に寄与できている。

又、電子カルテ導入後全自動化学発光免疫測定装置を導入し医療センターに集約していた免疫項目を部分的に院内測定化した。12月からは腫瘍マーカー（CEA、AFP、CA19-9、PSA、PIVCA-Ⅱ）、PCT、甲状腺機能（FT3、FT4、TSH）の測定を開始し“外来迅速加算”の取得を行った。また1月下旬から感染症検査（HBsAg、HBsAb、HCV、TPLA、RPR）も院内測定化を行う事によって結果報告までの時間を短縮し診療や患者サービスに寄与している。

血液検査部門では、多項目自動血球分析装置の更新が行われ迅速な結果報告を行っている。

生理検査部門では循環器医師の指導のもと腎・血管エコーはスクリーニング検査を検査科で実施している。また消化器科医師の指導のもと腹部エコーの習得を目指している。

チーム医療への参加も引き続き積極的に行っている。

感染対策に於いては、八幡東部地区地域連携の中心的役割を担う病院として積極的にカンファレンスや他病院のラウンドにも参加している。また院内のICT活動にも積極的に参加し資料作りなど中心的役割をはたしている。

NST活動においては病棟ラウンド、啓発活動等にも参加している。

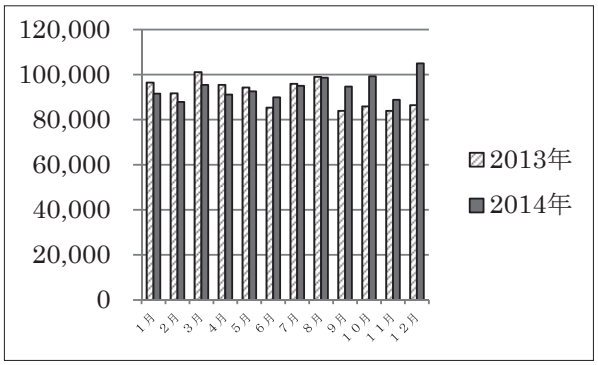
医療安全の面においてもリスクマネージメント部会の中心的役割をはたしワーキンググループの一員として積極的に協力している。また今年度から発足した医薬品安全管理部会のメンバーとしても活躍している。

3. 今後の方向性

新病院開院時での臨床検査科の体制を念頭に人材育成を行っていきたい。

新病院での検査科の役割を十分に理解し病院としてどうあるべきか考えつつ臨床検査科のレイアウト等を職員全員で考えていきたい。

【検査総件数】



薬剤科

薬剤科部長　村本 眞由美

新たな薬剤科業務

2014年、八幡病院薬剤科は電子カルテの導入により大きく変わりました。

近年、薬剤師はチーム医療の一員として薬学的観点から医療安全に貢献することがもとめられています。八幡病院の薬剤科も入院患者様には、入院時の持参薬調査・薬歴管理に始まり薬剤に関する患者教育や指導・相互作用のチェック・副作用モニタリングをおこなっています。また退院時には退院時指導をおこないコンプライアンスの向上をはかるとともに、外来通院時のかかりつけ薬局や他院との情報共有のため、退院時の薬剤情報をお薬手帳に貼ってお渡ししています。電子カルテでは患者情報に容易にアクセスできるので患者様の状態に応じた処方提案もできるようになりました。今後は病棟薬剤業務を全病棟に広げていくことが目標です。

電子カルテを利用し薬剤のマスター管理をすることでオーダー時にさまざまなアラートを出すことができ薬剤の適正使用に役立っています。外来患者様にも、薬剤の説明をするだけでなく、全員にお薬手帳用の薬剤情報を発行しお渡しすることが可能になりました。

増加傾向にある外来化学療法でもレジメン管理、抗がん剤ミキシング、副作用モニタリング、患者教育がかかせません。電子カルテのレジメン機能を使った管理・運用では紙カルテとは違った管理方法が求められますが、患者様に安全で良質な化学療法を提供するために日々取り組んでいます。がん患者管理指導料3の算定も始めました。

DPCに向け、ジェネリック薬品の導入も進んでいます。医師や看護師へのさらなる情報提供をしていくつもりです。

また急速に進歩する医療に対応するため、薬剤師1人1人がさまざまな認定取得をめざし研鑽するとともに、情報共有の目的で院外の薬局に向けた勉強会も開催しています。

これからも薬剤科全員でさまざまなニーズにこたえ、医療安全に貢献できる薬剤師を目指していこうと思います。

リハビリテーション室

理学療法士長　井上 裕子

1979年、理学療法士1名が整形外科採用となり、当院のリハビリテーション業務が開始されました。ニーズの増大に伴い少しずつスタッフの増員がなされ、2010年より作業療法士も採用されました。現在では、理学療法士4名作業療法士1名で、患者さんの一日も早い社会復帰を目指し日々奮闘しています。

施設基準は、運動器リハビリテーション料（Ⅰ）・脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅱ）・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）となっています。（以後リハビリテーションをリハと略す）

現状

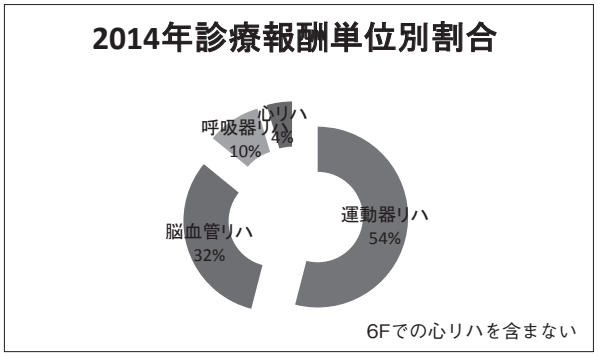
整形外科、脳神経外科を中心に各科からの依頼となっていますが（図参照）、電子カルテの導入後リハビリ依頼が増えてきています。これまで整形外科、脳神経外科、形成外科、内科、循環器内科からは直接、その他の科からは整形外科を通しての依頼となっていました。2014年5月より外科、小児科からも、7月からは耳鼻咽喉科からも直接依頼となりました。このこともリハ依頼が増えている一因であると考えます。

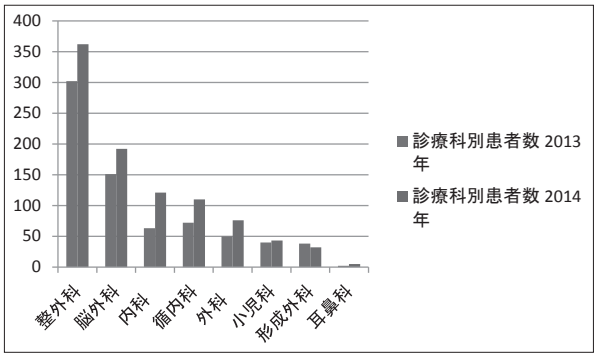
外来患者には月に一度のカンファレンスを、また入院患者には週に一度、整形外科カンファレンス・回診と、脳外科カンファレンスを行い、連携をとって治療にあたっています。

現在施設基準で脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）でないのは、スタッフが少ないためであり、取得には理学療法士5名以上、作業療法士3名以上、言語聴覚士も含め合計10名以上のスタッフ常勤が条件です。

今後の方向性

・早急な言語聴覚士の採用が必要です。摂食嚥下訓練や言語訓練の需要は大きいと考えます。
・現在患者の増加に伴い、1名の患者に1単位（20分）程度の訓練しかできておらず、理学療法と作業療法の併用もできていません。理学療法士・作業療法士の増員を図り、脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）を取得できるようにしていきたいと考えています。
・がん患者リハビリテーション料算定をめざし、研修に参加し施設基準を取る方向で検討中です。
・心大血管リハをはじめ、外科周術期のリハや呼吸器リハ、また急性期小児リハなどに積極的に関わっていきたいと考えています。そのためにも、一層の知識習得が必要だと思います。





3学会呼吸療法認定士　砂山　明生
高橋　倍美

看護部

看護部長　山本 智美

1. 看護部の組織体制の見直し

看護部では4月に管理体制の効率化及びモチベーション向上、経営強化の観点から、看護部門の組織体制の見直しを行った。

組織の名称を「看護科」から「看護部」とし、職責が異なる「総看護師長」「副総看護師長」を廃止、すべて同格の「副看護部長」を新設し、看護部長が統括することとした。副看護部長は、一定数の看護単位を所掌する「所属長」に位置づけるとともに、併せて「総務・人事担当」「教育担当」「業務・看護サービスの質担当」「経営・情報管理担当」と、スタッフ機能としての業務を分担した。それぞれの副看護部長が権限と責任を持ち、必要に応じて伝達や協議・調整を行いながらマネジメントすることで看護部として効率的な組織運営ができるようになった。

2. 医療総合情報システムの導入

平成26年の最大の課題は、医療総合情報システムの導入である。年間目標に「電子カルテのスムーズな導入と運用」を掲げ職員全員で取り組んだ。準備の期間が短く果たして旨く運用できるか心配されたが、大きなトラブルもなく6月30日予定通り運用が開始された。導入から1年が経過し、運用面では課題もあるが、ようやく職員も使用に慣れてきたところである。何処にいても情報収集が容易となり導入によるメリットは大きい。今後は、システムを効率的に活用し、業務改善やマネジメントに繋げていくことが課題である。

3. 看護実践力の向上

時代の変化に対応でき、市民に信頼される看護を提供できる看護職員の育成することを教育理念とし、1年間の院内教育計画の見直しを行った。教育プログラムを「新規採用時研修」「経年別研修（新人・2年目・3年目）」「役割別研修」「カテゴリー別（全職員対象）研修」「雇用別研修」の5つを組み合わせた構成とした。企画・運営組織は、教育担当副看護部長を総括とし、教育委員会を中心に年間計画に沿って実施した。また、院内外研修への積極的参加や長期派遣による各種認定・資格の取得を支援した。研修受講延べ回数は、院内1142回，院外285回で、一人当たり平均研修受講回数は6.3回であった。認定看護師は、新たに3名が認定審査に合格し7分野11名となった。認定看護師は、院内教育講師や委員会活動など積極的に活動し看護のレベルアップに貢献している。また、看護協会等の講師・委員や雑誌執筆などの依頼があり院外でも活躍している。

4. 働きやすい職場づくり

看護師が働き続けられる職場づくりは、看護部の大きな目標である。看護師の離職率は5.38%で前年より0.66%減少した。業務改善による効率化を図り、時間外勤務の削減や各種有給休暇制度を活用しやすい職場づくりに努めている。地域の特性から超高齢患者の入院が多く認知症患者への対応など看護業務は煩雑化している。時間外勤務は、部署による偏りが大きく日勤帯に集中していることから、昨年からリリーフ体制を取っているが時間短縮には至っていない。人員の確保や看護周辺業務の整理、多職種との業務分担など課題解決に向けて地道に活動を継続し、少しでも働きやすい職場づくりを推進していきたい。

事務局（管理課）庶務係

管理課庶務係長　石本 弘一

当院の事務局は管理課と経営企画課の2課に計4つの係が置かれており、その中で管理課庶務係は病院全体の庶務・調整業務や庁舎管理業務、職員の労務管理・福利厚生業務、諸物品の購入などの多種多様な業務を担当しています。総勢8名の小さな所帯ですが、病院内の「縁の下の力持ち」となるべく日々努力をしています。

さて、平成25年（2013年）5月に「新北九州市立八幡病院基本構想」が策定され、新病院建設に向けて大きな一歩を踏み出すことになりました。また、それを具体化するものとして平成26年（2014年）5月に「新北九州市立八幡病院基本計画」が策定され、今後は本基本計画に基づき、順次、設計・施工に着手することになります。

それと同時に、庶務係では現病院の施設や機能を維持しながら、問題なく新病院開院を迎えるための取り組みを積極的に進める1年となりました。

当院は昭和53年の現病院建設から35年以上が経過しており、途中で大規模改修を行っていますが経年による劣化が目立つようになってきました。地域の医療機関として患者の皆様の療養環境はしっかりと守っていくという目標の下、昨年から手術室や外来の冷暖房装置の整備・更新、非常用発電装置の心臓部の改修、非常用放送設備の全面更新などの施設改修を進めてきたところです。今年は手術室の空調フィルターの交換、東棟の排水管改修、一部屋上の防水工事などを行いました。これにより、新病院開院までの病院の根幹機能の維持に一定の目途をつけたところです。古い施設ではありますが、安心して患者の皆様が病院で過ごしていただけるように今後も引き続き施設の維持補修を進めていく予定です。

事務局（管理課）栄養管理係

管理課栄養管理係長　梅木 加寿子

医療の一環として、入院患者さんに栄養管理を行い、安全でおいしい食事の提供、および、入院外来患者さんへの栄養指導が主な業務です。

食事提供業務は一部委託しており、献立作成、全体的な栄養管理が病院、食材の発注、調理、盛り付け、配膳等は委託会社が担っています。

職員は、病院側が管理栄養士3名、委託会社側が管理栄養士1名、栄養士7名、調理師8名、調理員11名（パート含む）で構成されています。

26年は、電子カルテ導入に伴い、患者さんの食事情報のみでなく、多方面からの情報を得ることができ、より適切な栄養管理ができるようになりました。

食事の提供

患者さん一人ひとりの病態や、年齢性別等に合わせた食事を提供する他、食欲のない患者さんには、個別に聞き取りを行い、主食の種類や量の変更、栄養補助食品を追加するなど、きめ細かな対応を心掛けています。

また、お正月やひなまつりなどの行事食や、季節の食材を使用したメニューを織り込み、一般食の常食・粥食等では、朝、夕に選択メニューを取り入れるなど、食事が楽しみとなるように工夫しています。

年2回、嗜好調査を行い、食事内容の向上に役立てています。

小児では食物アレルギーを持つ患者さんも多く、個別の献立を作成し、細心の注意を払って調理や盛り付けを行っています。

26年は電子カルテと栄養システムとの連携により病棟からの食事オーダーが直接栄養システムに送られるようになり、効率化が図られました。

栄養管理計画書の作成

入院患者さんの栄養管理計画書を、医師、看護師等と共に作成し、栄養管理を行うとともに、病室を訪問して治療食についての説明や、アレルギー内容、喫食状況の確認等を行っています。

栄養指導

入院外来患者さん対象の個別栄養指導を随時行っています。

教室関係では、糖尿病教室（隔週）や糖尿病食事会（年2回）、骨粗鬆症予防教室（年2回）の集団栄養指導とアレルギー予防教室（年2回）の個別相談を行っています。

26年は中村糖尿病専門医師を中心に糖尿病教室の内容を検討し、新しく1クール3回コース、隔週の開催としました。

チーム医療

NST活動では、事務局的な役割を果たし、毎週の勉強会、月1回の運営委員会、ラウンド等の準備、参加を行っています。また、内科回診、褥瘡ラウンドにも参加し、チーム医療の中で、栄養に関する相談を受けたり、提案を行ったりしています。

医療安全やICT活動にも、委員として積極的に参加しています。

糖尿病患者会（みどりの会）

事務局として患者さんと共に、毎月の機関誌「さかえ」の発送や、糖尿病栄養教室、食事会などの行事を企画し、実行しています。また、毎年、北九州市全体で行うウォークラリーに参加しています。

26年の糖尿病栄養教室では「糖尿病食事療法の古くて新しい問題」と題して、中村内科部長の講演を行い、患者さんに新しく正しい情報を楽しく聞いていただきました。

今後も多職種との連携を図りながら、医療サービスの向上に努力していきたいと思います。

事務局（経営企画課）

経営企画課企画係長　諸熊 武史

企画係では、医療器械・医療備品、診療材料や医薬品の購入、施設基準や経営改善に関することを担当しています。

■電子カルテシステム導入

平成26年は、長年の懸案であった電子カルテシステム（総合医療情報システム）の導入を行ったことが特記されます。

電子カルテシステムは、(1) 医療の質の向上、(2) 患者サービスの向上、(3) 経営・業務の効率化、などを目的に導入を進めたもので、病院全体をあげて取り組みを進めました。

平成25年11月に当院に導入するベンダが「東芝メディカルシステムズ」に決定しました。12月より電子カルテ委員会を中心に18の部門別ワーキンググループ（WG）を設置しました。WGでは、電子カルテシステム導入後の運用フローやシステム機能の確認などを行うとともに、マスタ設定など数多くの課題や作業に取り組みました。特に医事会計システムはベンダが変更となるため、データ移行や業務確認などを慎重かつ詳細に行いました。また、休日を返上した2回の外来部門でのリハーサル実施や通常業務後の端末操作の自主練習などにも多くの職員が参加しました。

この結果、当初予定の平成26年6月30日に、大きな混乱やトラブルもなく本稼動を迎えることができました。

■DPC準備病院への参加

電子カルテシステムの導入に伴い、DPC準備病院として「DPC導入の影響評価に係る調査」へ平成26年4月より参加しました。

関連する業務の適正化を図るためDPC準備委員会を3月に設置するとともに、電子カルテシステムの導入前及び導入後での適切なDPCコーディングや入力方法などの検討・周知を行いました。

■医療器械・医療備品関連

高額の医療機器として、X線撮影装置や心血管造影装置の更新作業を進めました。超音波診断装置などの増設のほか、診察台やベッドなどの老朽化が進んでいる医療機器・備品の更新に努めました。

■物品管理業務

電子カルテシステムの導入に伴い、物流システム入力や消費データ入力などを開始しました。また、看護師の負担軽減を図るため薬品搬送業務等の外部委託化の検討を進めました。

医療連携室

地域医療連携推進担当課長　﨑田 幾子

平成26年度は、室長（副院長）のもと看護師３名、社会福祉士１名、事務職員４名の総勢９名体制で、「地域医療機関との連携強化」「退院支援の充実」を目標に活動してまいりました。今年度は電子カルテの導入や看護師（担当係長）１名の増員により、医療連携室業務が大幅に改善され効率化が図れました。

１ 活動状況および実績

１）紹介患者の受け入れ

看護師1名、事務職員２名配置で、医師をはじめ関係部署との連絡調整を行ない、紹介元への迅速な対応に努めています。紹介件数は平成25年度5,372件から平成26年度は6,451件と1,079件（20%）増加しています。紹介元医療機関数も590施設と県内外の多数の医療機関からご紹介を頂いており、これも医療機関訪問や医療連携会など交流、広報活動の成果であると考えます。また紹介のうち事前紹介が1,103件（21%）、救急患者紹介が160件（3%）であり、救急診療依頼元は医療機関が143件、福祉入所施設等が18件でした。今後、在宅療養が推進される中、福祉入所施設等からの救急診療依頼の増加が予測されます。

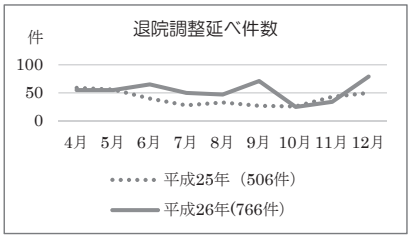
２）退院支援･調整

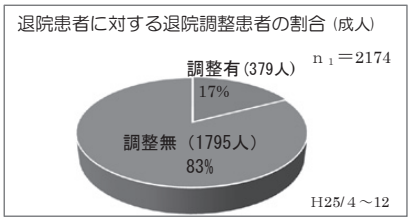
在院日数の短縮に伴い医療ニーズが高く介護度が高い患者が増え、退院支援は社会福祉士の専門性に加え看護師の専門性の発揮がさらに必要となっています。今年度は看護師の増員により看護師２名･社会福祉士１名の配置で退院調整を実施し、退院調整機能が強化されました。また退院支援システムのツールである「スクーリングシート」や「退院支援計画書」を改訂し、記録の簡素化を図るとともに、患者の療養継続に活用可能な「医療連携情報用紙」を作成し、情報共有の円滑化を図りました。

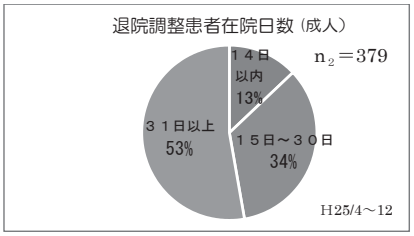
平成26年度の退院調整件数（成人）は379件で全退院患者の17%でした。退院調整先は病院・診療所が73%、老健・特別養護老人ホームが５%、有料老人ホーム等の施設を含む在宅が22%であり、急性期病院の特徴である医療機関への転院調整が大半を占めています。

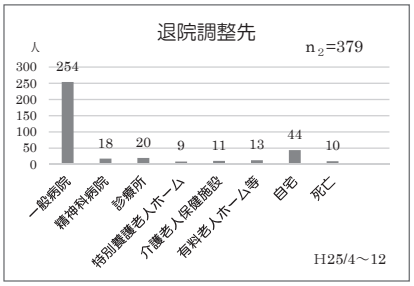
２ 今後の課題

地域包括ケアシステムにおいて、病院から地域へと療養場所の移行に向けた退院支援の重要性が高まり、介護福祉施設や訪問看護ステーションとの連携がさらに重要となります。今後、施設訪問や地域の看護師やケアマネージャーとの情報交換を推進し、連携強化に努めます。また退院支援は病院全体で多職種連携による取り組みが重要です。中でも特に退院支援の要である病棟看護師の協力のもと、医療・介護・生活上の総合的な課題をアセスメントし、患者家族の納得、満足が得られるような質の高い支援が提供できるように退院支援･調整能力の向上に努めてまいります。









5

業績集

2014年 八幡病院業績集

内科

論文

1. 強直性脊椎骨増殖症に伴う気管閉塞による陰圧性肺胞出血の一例
   伊藤 光佑、吉田 有吾、立和田 隆、伊藤 千与、粟屋 幸一
   日本呼吸器学会誌 3 (6) ; 832−836 : 2014

学会・研究会

1. 当院で経験したアメーバ性大腸炎の6例
   川口 浩太郎
   第305回 日本内科学会地方会　5月31日　熊本市
2. 当院で経験した腸管スピロヘータ症の1例
   川口 浩太郎
   第97回 日本消化器内視鏡学会九州支部例会　7月5日　福岡市
3. アメーバ性大腸炎治療中に早期大腸癌合併が判明し治療し得た1例
   川口 浩太郎
   第97回 日本消化器内視鏡学会九州支部例会　7月5日　福岡市
4. サプリメントが原因と考えられた好酸球性筋炎・心筋炎の一例
   末永 章人、屏 壮史、小住 清志、本村 政勝
   第207回 日本神経学会九州地方会　9月20日　由布市
5. 膵炎合併の鑑別に苦慮した劇症1型糖尿病の一例
   中村 寛
   第52回 日本糖尿病学会九州地方会　10月31日　熊本市
6. 原発性副甲状腺機能亢進症治癒と共にインスリン離脱可能であった2型糖尿病の一例
   中村 寛、三好 千諭、伊藤 光佑、川口 浩太郎、吉田 有吾、末永 章人、氏福 健太、井上 征雄、澤田 貴裕
   日本内科学会　第307回 九州地方会　11月23日　別府市

座長・司会

1. 中村 寛
   第1回 八幡糖尿病よろづ相談所　7月15日　北九州市

講演

1. SGLT2阻害剤の有効性と安全性
   中村 寛
   八幡糖尿病セミナー　8月7日　北九州市
2. DPP-4阻害薬の使い方 併用薬の観点から
   中村 寛
   直鞍地区循環器・糖尿病ミーティング　8月20日　直方市

3. SGLT-2阻害薬投与によりインスリンを離脱しえた1例
   中村 寛
   八幡糖尿病治療を考える会　8月27日　北九州市
4. 当院神経内科でできること
   末永 章人
   第1回 ほばしら内科カンファランス　9月11日　北九州市
5. 日常外来で遭遇する危険な糖尿病　劇症1型糖尿病について
   中村 寛
   第1回 ほばしら内科カンファレンス　9月11日　北九州市
6. 呼吸器科紹介
   吉田 有吾
   第1回 ほばしら内科カンファランス　9月11日　北九州市
7. 消化器疾患領域
   川口 浩太郎
   第1回 ほばしら内科カンファランス　9月11日　北九州市
8. エコー検査について
   馬場 三男
   第1回 ほばしら内科カンファランス　9月11日　北九州市
9. 消化器内科について
   川口 浩太郎
   ほばしら内科カンファランス　9月11日　北九州市
10. DPP-4阻害薬と併用薬
   中村 寛
   八幡エリア糖尿病勉強会　9月22日　北九州市
11. 尿細管再吸収阻害薬　その効力と危険性
   中村 寛
   糖尿病地域連携セミナー in 春の町　9月25日　北九州市
12. 2型糖尿病における食事療法 古くて新しい話題
   中村 寛
   あつまろ会　10月29日　北九州市
13. 入院加療が必要な糖尿病の患者像
   中村 寛
   生活習慣病薬剤治療勉強会　11月27日　北九州市
14. 糖尿病の症状、治療、予防
   中村 寛
   八幡病院市民公開講座　12月6日　北九州市
15. 糖尿病と動脈硬化
   中村 寛
   第2回 八幡糖尿病よろづ相談所　12月10日　北九州市

その他

1. 伊藤 光佑
   呼吸器駆け込み寺（1月、3月、5月、9月、11月）
   北九州呼吸器懇話会（2月、4月、6月、10月）

循環器内科

学会・研究会

1. 症例提示：姿勢によって症状が増悪する左鎖骨下狭窄に対しEVTを施行した一例
   屏 壮史、高橋 正雄、岩垣 端礼、小住 清志、酒井 孝裕、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
   八幡PADカンファレンス　2月26日　北九州市
2. 症例提示：右浅大腿～膝窩動脈閉塞による重症下肢虚血・EVT不成功症例
   岩垣 端礼、高橋 正雄、屏 壮史、小住 清志、酒井 孝裕、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
   八幡PADカンファレンス　2月26日　北九州市
3. 症例提示：姿勢によって症状が増悪する左鎖骨下狭窄に対しEVTを施行した一例
   屏 壮史
   八幡PADカンファレンス　2月26日　北九州市
4. 症例提示：右浅大腿～膝窩動脈閉塞による重症下肢虚血・EVT不成功症例
   岩垣 端礼
   八幡PADカンファレンス　2月26日　北九州市
5. 右心不全症状を契機に見つかった大動脈弁狭窄症・僧帽弁狭窄症の1例
   田中 正哉、高橋 正雄、屏 壮史、岩垣 端礼、小住 清志、酒井 孝裕、原田 敬、太崎 博美
   第13回 玄海心不全カンファランス　3月7日　北九州市
6. Brachial Artery Flow-mediated Dilation Predicts the Restoration of Exercise Tolerance.
   Seiya Tanaka, Harei Iwagaki, Masao Takahashi, Soushi Hei, Yoshihito Sanuki, Kiyoshi Ozumi, Koyu Sakai, Takashi Harada, Hiromi Tasaki
   The 78th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society　3月22日　東京都
7. Our Slender Intervention
   原田 敬
   第132回 福岡心血管治療研究会　4月10日　福岡市
8. Brachial Artery Flow-mediated Dilation Predicts the Restoration of Exercise Tolerance
   Seiya Tanaka, Kiyoshi Ozumi, Hiromi Tasaki
   the American College of Cardiology 63rd Annual Scientific Session　5月30日　Washington
9. 下肢動脈エコーによるPAD診断と治療
   原田 敬
   The 3rd Slender Club Japan Workshop in Higashikani　6月18日　可児市
10. 当院でのPAD治療について
    原田 敬
    八幡PADカンファレンス　6月18日　北九州市

11. Educational Session, 合併症について学ぶ, Endomyocardial Biopsy
原田 敬
第23回 日本心血管インターベンション治療学 (CVIT 2015) 学術集会　6月26日　名古屋市

12. Educational Session, 合併症について学ぶ−Catheter Induced Dissection
原田 敬、中園 利和、岩垣 端礼、佐貫 仁宣、小住 清志、酒井 孝裕、田中 正哉、太崎 博美
第23回 日本心血管インターベンション治療学 (CVIT 2015) 学術集会　6月26日　名古屋市

13. Usefulness of CO2 flush in priming of coronary imaging catheter OptiCross
原田 敬、中園 利和、岩垣 端礼、佐貫 仁宣、小住 清志、酒井 孝裕、田中 正哉、太崎 博美
第23回 日本心血管インターベンション治療学 (CVIT 2015) 学術集会　6月26日　名古屋市

14. トラブルシューティング編　ワイヤーが抜けないとき
原田 敬、中園 利和、岩垣 端礼、佐貫 仁宣、小住 清志、酒井 孝裕、田中 正哉、太崎 博美
春日部EVTセミナー　7月31日　春日部市

15. trans-radial 頻用施設における elective LMT-PCI症例の治療成績
原田 敬、中園 利和、岩垣 端礼、佐貫 仁宣、小住 清志、酒井 孝裕、田中 正哉、太崎 博美
第21回 日本心血管インターベンション治療学会九州沖縄地方会　8月23日　福岡市

16. Video Live Session2, "Slender", 柔よく剛を制す！これがSlender PCIだ！
原田 敬、中園 利和、岩垣 端礼、佐貫 仁宣、小住 清志、酒井 孝裕、田中 正哉、太崎 博美
第21回 日本心血管インターベンション治療学会九州沖縄地方会　8月23日　福岡市

17. AdvisaMRI植込み患者に対するMRI検査経験
原田 敬、中園 利和、岩垣 端礼、佐貫 仁宣、小住 清志、酒井 孝裕、田中 正哉、太崎 博美
北九州デバイスカンファレンスUp To Date　9月20日　北九州市

18. 症例提示：GWが抜けなかった一例
原田 敬
八幡PADカンファレンス　10月1日　北九州市

19. 症例提示：EVT後の再狭窄症例
中園 和利
八幡PADカンファレンス　10月1日　北九州市

20. 糖尿病における血管エコースクリーニング
原田 敬、中園 利和、岩垣 端礼、佐貫 仁宣、小住 清志、酒井 孝裕、田中 正哉、太崎 博美
ひびき灘心血管エコークラブ　10月15日　北九州市

21. 症例提示：Omote-pan 始めました
原田 敬、中園 利和、岩垣 端礼、佐貫 仁宣、小住 清志、酒井 孝裕、田中 正哉、太崎 博美
QcVIC Peripheral　10月23日　福岡市

22. Scientific Program／Renal Artery Intervention　真の適応は体表面エコーから
原田 敬、中園 利和、岩垣 端礼、佐貫 仁宣、小住 清志、酒井 孝裕、田中 正哉、太崎 博美
CCT2014 Peripheral　10月31日　北九州市

23. スレンダーPCI　どこまでできる？　デバイス互換性
原田 敬、中園 利和、岩垣 端礼、佐貫 仁宣、小住 清志、酒井 孝裕、田中 正哉、太崎 博美
Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement (ARIA) 2014　11月22日　福岡市

24. 条件付きMRI対応ペースメーカー植込み患者におけるMRI検査経験
原田 敬、中園 利和、岩垣 端礼、佐貫 仁宣、小住 清志、酒井 孝裕、田中 正哉、太崎 博美
第117回 日本循環器学会九州地方会　12月7日　那覇市

25. Normotensive Renal Artery Stenosisに対するPTRAの長期成績
岩垣 端礼、中園 利和、佐貫 仁宣、小住 清志、酒井 孝裕、田中 正哉、原田 敬、太崎 博美
第117回 日本循環器学会九州地方会　12月7日　那覇市

26. ペースメーカー使用患者のカテーテル検査中に電磁干渉による一過性頻脈を呈した一例
中園 和利、原田 敬、岩垣 端礼、屏 壮史、佐貫 仁宣、小住 清志、酒井 孝裕、田中 正哉、太崎 博美
第117回 日本循環器学会九州地方会　12月7日　那覇市

27. Co-medeical session：心不全の診療　リピーターを減らそう
原田 敬
Kamakura Live Demonstration 2014　12月17日　横浜市

座長・司会

1. 太崎 博美
症例検討座長
第2回 北九州循環器・糖尿病 Joint Meeting　1月29日　北九州市

2. 原田 敬
症例検討座長
八幡PADカンファレンス　2月26日　北九州市

3. 原田 敬
症例検討座長
八幡循環器カンファレンス　3月6日　北九州市

4. 太崎 博美
症例検討座長
第19回 玄海心不全カンファレンス　3月8日　北九州市

5. 太崎 博美
特別講演座長：やってみよう！禁煙サポート
第14回 タバコと死の五重奏研究会　5月8日　北九州市

6. 太崎 博美
特別講演座長：肺高血圧症の再診の診断と治療
第9回 九州肺高血圧症ワークショップ　5月30日　福岡市

7. 原田 敬
PCIライブ座長
第31回 小倉ライブデモンストレーション　6月7日　北九州市

8. 原田 敬
症例検討座長
八幡PADカンファレンス　6月18日　北九州市

9. 原田 敬
症例検討座長
八幡循環器カンファレンス　7月28日　北九州市

10. 太崎 博美
症例検討座長
第20回 玄海心不全カンファレンス　8月1日　北九州市

11. 太崎 博美
症例検討座長
第8回 北九州肺高血圧症アーベント　9月12日　北九州市

12. 太崎 博美
特別講演座長：肺高血圧症の治療方針 最近の話題を踏まえて
第8回 北九州肺高血圧症アーベント　9月12日　北九州市

13. 原田 敬
症例検討座長
八幡PADカンファレンス　10月1日　北九州市

14. 原田 敬
PCI Live Session、Mini Lecture 座長
Slender Club Japan International Workshop 2014 in Okinawa　10月4日　那覇市

15. 原田 敬
PCIライブ座長、特別講演座長
J-WINC Workshop 2014 in Higashikani　10月25日　可児市

16. 原田 敬
EVT Live Case コメンテーター
CCT2014　11月1日　神戸市

17. 原田 敬
Renal Session座長
ARIA2014　11月23日　福岡市

18. 原田 敬
末梢血管セッション座長
第117回 日本循環器学会九州地方会　12月7日　那覇市

講演

1. EVTにおける血管エコー活用術
原田 敬
Tokyo Cardio-Science Forum 2014　2月7日　東京都

2. 心肺蘇生と救急心血管治療
田中 正哉
あつまろ会　2月7日　北九州市

3. COPDの症例と考察
太崎 博美
第10回 北九州代謝循環器塾　2月24日　北九州市

4. オレ流！血管エコースクリーニング
原田 敬
千早病院EVT Workshop　2月28日　福岡市

5. 腎動脈エコーの理論と実際
原田 敬
第26回 福岡心血管エコー勉強会　3月14日　福岡市

6. EVTにおける血管エコー
原田 敬
福岡大学EVT WORKSHOP FUSION 2014　3月29日　福岡市

7. EVTにおける血管エコー
原田 敬
高知　岡村病院院内講演会　4月17日　高知市

8. 動脈硬化診療に活かす血管エコー
原田 敬
第12回 天久の杜ハート連携の会　5月8日　那覇市

9. 北九州エリアにおける診察室血圧と早朝家庭血圧の検討
太崎 博美
高血圧フォーラム In 北九州　5月27日　北九州市

10. CCB, ARBの朝・夕分離投与と配合剤朝投与の有用性の比較
太崎 博美
高血圧フォーラム In 北九州　5月27日　北九州市

11. 超音波検査を活用した心不全治療
原田 敬
第4回 佐賀心不全治療研究会　6月9日　佐賀市

12. 冠動脈危険因子の制御と高尿酸血症
太崎 博美
三月会学術講演会　7月22日　八女市

13. 足の血管は大丈夫?
原田 敬
戸畑区役所　市民講演会　8月4日　北九州市

14. 脂質異常症の病態と保健指導のポイント
太崎 博美
特定健診・特定保健指導関連研修会　8月19日　北九州市

15. 心エコー・腎エコーTIPS
原田 敬
恵み野病院院内講演会　9月4日　恵庭市

16. 腎動脈エコーの理論と実際
原田 敬
第11回 腎血管カテーテル治療研究会　10月8日　さいたま市

17. 食後高脂血症の特徴と治療
太崎 博美
田川脂質異常セミナー　12月2日　田川市

小児科

論文

1. 小児救急疾患アトラス「左肺動脈起始部異常（Pulmonary sling）
   市川 光太郎
   Emergency Care 27；62−63：2014
2. 小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2012　看護師・研修医必携救急・ICUですぐ役立つガイドライン BOOK
   市川 光太郎
   Emergency Care 2014年新春増刊；195−203：2014
3. 救急室で虐待を見逃さないために
   市川 光太郎
   周産期医学 44；97−102：2014
4. 小児救急アトラス「虐待による頭部外傷」
   市川 光太郎
   Emergency Care 27；284−285：2014
5. 「頭をぶつけなければ頭蓋内出血は起こらない?」連載第17回 “小児科と関連領域における常識を見直そう”
   市川 光太郎
   小児内科 46；282−283：2014
6. クループ症候群　今日の臨床サポート
   市川 光太郎
   エルゼビア・ジャパン：2014
7. 被虐待児症候群　今日の臨床サポート
   市川 光太郎
   エルゼビア・ジャパン：2014
8. 児童虐待の防止等に関する法律　今日の臨床サポート
   市川 光太郎
   エルゼビア・ジャパン：2014
9. 小児救急疾患アトラス「食道狭窄」
   市川 光太郎
   Emergency Care 27；526−527：2014
10. 日本小児外科学会50周年記念に寄せて
    市川 光太郎
    日本小児外科学会雑誌50周年記念誌；45−45：2014
11. 小児救急疾患アトラス「日本海裂頭条虫症」
    市川 光太郎
    Emergency Care 27；742−744：2014
12. 小児痙攣に伴う高CO2 血症に関する検討
    石原 唯史、神薗 淳司、松島 卓哉、市川 光太郎
    日本救急医学会雑誌 25；135−140：2014

13. 死亡事例から学ぶ
市川 光太郎
平成25年度 大阪府内保健師児童虐待予防研修プログラムⅠ講義録；38−57：2014
14. プラタナス「児童虐待増加の病理はどこにあるのか」
市川 光太郎
日本医事新報 4707；1−1：2014
15 小児救急疾患アトラス「先天性化骨性線維組織異形性症候群」
市川 光太郎
Emergency Care 27；952−954：2014
16.. 虐待による乳幼児頭部外傷〜揺さぶられ症候群　特集；けいれん・意識障害
市川 光太郎
小児内科 46；1410−1413：2014
17. 公費助成によるインフルエンザ菌b型、肺炎球菌ワクチン接種が小児細菌性髄膜炎および菌血症の発生に及ぼす影響
長村 敏生、市川 光太郎
日本臨床救急医学会雑誌 17；551−557：2014
18. 小児救急疾患アトラス「メッケル憩室バンドによる絞扼性イレウス」
市川 光太郎
Emergency Care 27；1158−1160：2014
19. 家庭における乳児期睡眠環境の実態調査と母親の意識調査
市川 光太郎
日本小児救急医学会雑誌 13；356−365：2014
20. 蛋白漏出性胃腸炎を契機に診断されたBudd-Chiari症候群の小児例
石原 唯史、神薗 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
日本救急医学会雑誌 13；395−398：2014
21. 小児救急、よくある困った？その時どうする！
市川 光太郎
日本小児科医会会報 48；24−29：2014
22. 小児救急疾患アトラス「先天性皮膚洞」
市川 光太郎
Emergency Care 28；48−51：2015

学会・研究会

1. 周産期からの児童虐待対応
市川 光太郎
日本産婦人科医会・長崎県産婦人科医会「児童虐待対策研修会」　1月12日　長崎市
2. 小児救急センターにおける形成外科短期集中型研修の試みと課題
増井 美苗、神薗 淳司、村上 珠菜、小林 加奈、内海 奈穂、苔口 知樹、中野 慎也、三浦 義文、長嶺 伸治、南川 将吾、天本 正乃、市川 光太郎、田崎 幸博
第13回 九州・沖縄小児救急医学研究会　2月8日　那覇市

3. 乳幼児発熱と全身性炎症反応性症候群
苔口 知樹、神薗 淳司、山本 剛士、松島 卓哉、志村 紀彰、富田 一郎、八坂 龍広、金 奉吉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第13回 九州・沖縄小児救急医学研究会　2月8日　那覇市

4. 簡易迅速検査からみた小児咽頭扁桃炎診療の実態とその課題
南川 将吾
第38回 八幡小児臨床懇話会　3月6日　北九州市

5. 良性反復性管内胆汁うっ滞症が強く疑われた乳児の1例
竹井 寛和
第38回 八幡小児臨床懇話会　3月6日　北九州市

6. 診断までの臨床判断が遅れた壊疽性虫垂炎の要因解析
山本 剛士
第38回 八幡小児臨床懇話会　3月6日　北九州市

7. わが国における睡眠環境の現状と保育園午睡時の対応
市川 光太郎
第20回 日本SIDS・乳幼児突然死予防学会　3月8日　大宮市

8. 遺糞症と不登校になった女児への介入
蜷木 聡子、市川 光太郎
第10回 日本小児心身医学会九州沖縄地方会　3月9日　久留米市

9. 突発性発疹と肺炎のバイタルサイン
苔口 知樹、神薗 淳司、富田 一郎、八坂 龍広、金 奉吉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
2005年 SIRS基準と新規SIRS基準の検討、第117回 日本小児科学会学術集会　4月11日　名古屋市

10. 尿中クロール濃度測定による小児輸液管理
南川 将吾、神薗 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第117回 日本小児科学会学術集会　4月11日　名古屋市

11. 突発性発疹と肺炎のバイタルサイン　2005年 SIRS基準と新規SIRS基準の検討
苔口 知樹、神薗 淳司、志村 紀彰、山本 剛士、八坂 龍広、富田 一郎、金 奉吉、松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第117回 日本小児科学会学術集会　4月11日　名古屋市

12. 小児初期救急医療のパラダイムチェンジの必要性
市川 光太郎
第117回 日本小児科学会学術集会・モーニング実践講座　4月12日　名古屋市

13. 小児一過性頸椎椎間板石灰化症のシメチジン治療経験
神薗 淳司、小野 友輔、小野 佳代、天本 正乃、市川 光太郎
第117回 日本小児科学会学術集会　4月12日　名古屋市

14. けいれん発作時の高乳酸血症と高炭酸ガス血症
三浦 義文、神薗 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第117回 日本小児科学会学術集会　4月12日　名古屋市

15. 診断までの臨床診断が遅れた壊疽性虫垂炎の要因解析
山本 剛士、神薗 淳司、天本 正乃、桝屋 隆太、市川 光太郎
第117回 日本小児科学会学術集会　4月13日　名古屋市

16. 小児救急センターにおける形成外科短期集中型研修の試みと課題
増井 美苗、神薗 淳司、村上 珠菜、小林 加奈、内海 奈穂、苔口 知樹、中野 慎也、三浦 義文、長嶺 伸治、南川 将吾、天本 正乃、市川 光太郎
第479回 日本小児科学会福岡地方会例会　4月19日　福岡市

17. 小児下肢骨折の特徴と亜急性期疼痛管理の実態調査
岡畠 祥憲、神薗 淳司、志村 紀彰、八坂 龍広、富田 一郎、金 奉吉、松島 卓哉、山根 浩昌、今村 徳夫、石橋 紳作、天本 正乃、市川 光太郎
第479回 日本小児科学会福岡地方会例会　4月19日　福岡市

18. 後部可逆性白質脳症症候群（Posterior Reversible Encephalopathy Syndrome PRES）を発症したフィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病の10歳女児例
小林 加奈、神薗 淳司、竹井 寛和、富田 一郎、山本 剛士、天本 正乃、市川 光太郎
第479回 日本小児科学会福岡地方会例会　4月19日　福岡市

19. 小児救急における形成外科短期集中型研修の試みと課題
増井 美苗、神薗 淳司、市川 光太郎
第479回 日本小児科学会福岡地方会例会　4月19日　福岡市

20. 川崎病における体温上昇に応じた心拍数、呼吸数増加率と臨床応用
苔口 知樹、神薗 淳司、志村 紀彰、西野 裕、天本 正乃、市川 光太郎
第13回 九州川崎病研究会　5月31日　鹿児島市

21. 川崎病における心拍数・呼吸数増加　疾患特異性と臨床応用
苔口 知樹、神薗 淳司、増井 美苗、山本 剛士、松島 卓哉、志村 紀彰、富田 一郎、八坂 龍広、金 奉吉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第13回 九州川崎病研究会　5月31日　鹿児島市

22. 乳幼児発熱における心拍数・呼吸数増加の疾患特異性と臨床応用
苔口 知樹、神薗 淳司、増井 美苗、富田 一郎、金 奉吉、松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、市川 光太郎
第28回 日本小児救急医学会　6月6日　横浜市

23. 緊急処置を要した乳幼児手指外傷の受傷機転解析と重点的予防対策
内海 奈穂、神薗 淳司、市川 光太郎
第28回 日本小児救急医学会　6月6日　横浜市

24. 地域の子どもと保護者への子育て支援
橋本 優子、梶原 多恵、崎田 幾子
第28回 日本小児救急医学会　6月6日　横浜市

25. 小児肘内障に対する超音波診断と「滑膜ひだの嵌入・巨大化」の有用性
苔口 知樹、神薗 淳司、竹井 寛和、石橋 紳作、富田 一郎、松島 卓哉、山根 浩昌、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第28回 日本小児救急医学会学術集会　6月6日　横浜市

26. 小児下肢骨折の亜急性期疼痛管理の実態と指針作成
岡畠 祥憲、神薗 淳司、増井 美苗、三浦 義文、志村 紀彰、八坂 龍広、富田 一郎、松島 卓哉、天本 正乃、市川 光太郎
第28回 日本小児救急医学会学術集会　6月6日　横浜市

27. 小児肘内障に対する超音波診断と「滑膜ひだの陥入（巨大化）」所見の有用性
苔口 知樹、神薗 淳司、竹井 寛和、石橋 紳作、富田 一郎、松島 卓哉、山根 浩昌、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第28回 日本小児救急医学会学術集会　6月6日　横浜市

28. 緊急処置を要した乳幼児手指外傷の受傷機転解析と重点的予防対策
内海 奈穂、神薗 淳司、松島 卓哉、市川 光太郎
第28回 日本小児救急医学会学術集会　6月6日　横浜市

29. 乳幼児発熱における心拍数・呼吸数の増加　疾患特異性と臨床応用
苔口 知樹、神薗 淳司、増井 美苗、山本 剛士、松島 卓哉、志村 紀彰、富田 一郎、八坂 龍広、金 奉吉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、市川 光太郎
第28回 日本小児救急医学会学術集会　6月6日　横浜市

30. 日本ACLS協会における小児蘇生教育コースの展開
松島 卓哉、小倉 憲一、田中 行夫
第28回 日本小児救急医学会学術集会　6月7日　横浜市

31. 入院待機症例に対する緊急度評価の実態とER－病棟連携の課題
梶原 多恵、安成 康介、古賀 隆太、永井 文恵、村田 光代、神薗 淳司、市川 光太郎
第28回 日本小児救急医学会学術集会　6月7日　横浜市

32. 小児早期警告スコアリング・システム導入はICU転倒症例の予後を改善したか
中野 慎也、神薗 淳司、竹井 寛和、富田 一郎、三浦 義文、松島 卓哉、市川 光太郎
第28回 日本小児救急医学会学術集会　6月7日　横浜市

33. 乳幼児身体的虐待との鑑別を要した骨形成不全症Ⅰ型の3例
村上 珠菜、神薗 淳司、竹井 真理、岡畠 祥憲、天本 正乃、市川 光太郎
第28回 日本小児救急医学会学術集会　6月7日　横浜市

34. 小児救急における形成外科短期集中型研修の試みと課題
増井 美苗、神薗 淳司、市川 光太郎、小林 加奈、内海 奈穂、苔口 知樹、中野 慎也、田崎 幸博
第28回 日本小児救急医学会学術集会　6月7日　横浜市

35. 小児早期警告スコアリングシステムはICU転倒症例の予後を改善したか
中野 慎也、神薗 淳司、松島 卓哉、市川 光太郎
第28回 日本小児救急医学会学術集会　6月7日　横浜市

36. 乳幼児身体的虐待との鑑別を要した骨形成不全症Ⅰ型の3例
村上 珠菜
第28回 日本小児救急医学会学術集会　6月7日　横浜市

37. 脳死下臓器提供と児童虐待
市川 光太郎
第28回 日本小児救急医学会脳死判定セミナー　6月8日　横浜市

38. 教育講演2「小児救急、よくある困った～その時どうする！」
市川 光太郎
第25回 日本小児科医会総会フォーラム　6月15日　盛岡市

39. 家庭看護力養成指導マニュアルについて
市川 光太郎
第25回 日本小児科医会総会フォーラム・小児救急医療委員会　6月15日　盛岡市

40. 当院で経験したヒトメタニューモウイルス感染症の検討
三浦 義文、松島 卓哉、神薗 淳司、市川 光太郎
第41回 北九州小児感染症懇話会・第507回 北九州地区小児科医会例会　6月20日　北九州市

41. 児童虐待は何故増えるのか？
市川 光太郎
第3回 日本小児診療多職種協働研究会、ワークショップ−1　6月21日　町田市

42. 亜急性に症状が進行し特異なMRI所見を認め急性脳症と診断した14歳女児例
三浦 義文、天本 正乃、市川 光太郎
第39回 八幡小児臨床懇話会　7月9日　北九州市

43. 初期対応に迷った食道下部硬貨誤飲の2例
福田 信也、神薗 淳司、志村 紀彰、岡畠 祥憲、八坂 龍広、富田 一郎、松島 卓哉、金 奉吉、山根 浩昌、
石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第39回 八幡小児臨床懇話会　7月9日　北九州市

44. 小児MRI検査時の静脈内鎮静に関する実態調査と安全管理体制の整備
三浦 義文、神薗 淳司、志村 紀彰、岡畠 祥憲、八坂 龍広、富田 一郎、松島 卓哉、金 奉吉、山根 浩昌、
石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第14回 九州沖縄小児救急医学研究会　8月23日　大分市

45. 小児外傷性碑損傷における画像診断のピットホールと治療戦略の実態
福田 信也、神薗 淳司、志村 紀彰、岡畠 祥憲、八坂 龍広、富田 一郎、松島 卓哉、金 奉吉、山根 浩昌、
石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第14回 九州沖縄小児救急医学研究会　8月23日　大分市

46. ワクチン接種後にアナフィラキシーを呈した生後2ヶ月の男児例
小林 加奈、神薗 淳司、富田 一郎、天本 正乃、市川 光太郎
第40回 八幡小児臨床懇話会　9月9日　北九州市

47. 来院時 Initial impression が不良であった Uro-sepsis の1例
苔口 知樹、神薗 淳司、市川 光太郎
第40回 八幡小児臨床懇話会　9月9日　北九州市

48. 緊急処置を要した乳幼児手指外傷～受傷機転解析と重点的予防対策～
内海 奈穂、神薗 淳司、松島 卓哉、市川 光太郎
第40回 八幡小児臨床懇話会　9月9日　北九州市

49. 5月に発生した熱中症の2歳男児例
松島 卓哉
第38回 北九州ショックカンファレンス　9月19日　北九州市

50. 小児MRI検査時の静脈内鎮静に関する実態調査と安全管理体制の整備
三浦 義文、神薗 淳司、小林 加奈、福田 信也、岡畠 祥憲、松島 卓哉、市川 光太郎
第42回 日本救急医学会総会・学術集会　10月28日　福岡市

51. 体温上昇に応じた心拍数・呼吸上昇率によるSIRS基準の作成と検証
苔口 知樹、神薗 淳司、市川 光太郎
第42回 日本救急医学会総会・学術集会　10月28日　福岡市

52. 小児急性腎障害　Acute Kidney Injury と血清クレアチニン異常高値
小林 加奈、神薗 淳司、富田 一郎、天本 正乃、市川 光太郎
第42回 日本救急医学会総会・学術集会　10月28日　福岡市

53. 小児外傷性膵損傷の受傷機転と仮性嚢胞形成因子の解析
内海 奈穂、神薗 淳司、岡畠 祥憲、松島 卓哉、市川 光太郎
第42回 日本救急医学会総会・学術集会　10月28日　福岡市

54. 小児外傷性脾損傷における画像診断のピットホールと治療戦略の実態
福田 信也、神薗 淳司、天本 正乃、市川 光太郎
第42回 日本救急医学会総会・学術集会　10月28日　福岡市

55. 小児外傷遠隔画像共有システムを利用した専門診療医師との時間外連携
増井 美苗、神薗 淳司、市川 光太郎
第42回 日本救急医学会総会・学術集会　10月28日　福岡市

56. 体温上昇に応じた心拍数・呼吸数上昇率によるSIRS基準の作成と検証
苔口 知樹、神薗 淳司、市川 光太郎
第42回 日本救急医学会総会・学術集会　10月28日　福岡市

57. 小児外傷遠隔画像共有システムを利用した専門診療医との時間外連携
増井 美苗、神薗 淳司、市川 光太郎
第42回 日本救急医学会総会・学術集会　10月28日　福岡市

58. 小児外傷性膵損傷の受傷機転と仮性嚢胞形成因子の解析
内海 奈穂、神薗 淳司、松島 卓哉、岡畠 祥憲、市川 光太郎
第42回 日本救急医学会総会・学術集会　10月28日　福岡市

59. タブレット端末による小児早期警告システムPEWSの情報共有とその課題
中野 慎也、神薗 淳司、富田 一郎、松島 卓哉、天本 正乃、市川 光太郎
第42回 日本救急医学会総会・学術集会　10月29日　福岡市

60. 頸部膿瘍に合併した川崎病2症例
長嶺 伸治、志村 紀彰
第34回 日本川崎病学会・学術集会　10月31日　東京都

61. 小児救急現場で遭遇する児童虐待～いかに見出し、いかに向き合い、いかにつないでいくか～
市川 光太郎
第120回 日本小児科学会甲信地方会特別講演　11月2日　松本市

62. 当院での過去10年間の川崎病の季節性変動について
長嶺 伸治
第10回 麻生飯塚カンファレンス　11月14日　北九州市

63. 応急処置と傷害予防
市川 光太郎
日本小児科学会・第6回 園医、看護職、保育士のための研修会　11月16日　福岡市

64. なぜ、児童虐待は増えるのか？～救急現場から見えるもの～
市川 光太郎
日本小児救急医学会教育研修セミナー・第5回 井の頭セミナー医師会講演　12月7日　東京都

65. 寛解導入療法中に脳性塩類喪失症候群を合併した急性リンパ性白血病の10歳男児
苔口 知樹、神薗 淳司、福田 信也、岡畠 祥憲、志村 紀彰、八坂 龍広、富田芳江、富田 一郎、金 奉吉、
松島 卓哉、山根 浩昌、石橋 紳作、今村 徳夫、天本 正乃、市川 光太郎
第482回 日本小児科学会福岡地方会例会　12月13日　福岡市

66. 小児期縦隔気腫の要因分析と治療管理
村上 珠菜
第482回 日本小児科学会福岡地方会例会　12月13日　久留米市

67. 北九州市で集団発生した細菌性赤痢の臨床像と感染防御対策の課題
中野 慎也、松島 卓哉、今村 徳夫、神薗 淳司、市川 光太郎
第482回 日本小児科学会福岡地方会例会　12月13日　久留米市

座長・司会

1. 市川 光太郎
ワクチン接種と乳幼児の突然死
第20回 日本SIDS・乳幼児突然死予防学会　3月8日　大宮市

2. 市川 光太郎
「あの時私は・・・・・・、働くママの3.11」
平成25年度 第2回 日本小児科学会・小児救急市民公開フォーラム　3月15日　東京都

3. 市川 光太郎
「超高齢化社会を迎える2025年の小児医療を考える」
第117回 日本小児科学会学術集会　4月13日　名古屋市

4. 市川 光太郎
BEAMS研修セミナー
日本子ども虐待医学研究会BEAMSセミナー　4月19日　東京都

5. 市川 光太郎
一般演題「小児救急」
第17回 日本臨床救急医学会　5月31日　宇都宮市

6. 市川 光太郎
一般演題「災害医療」
第28回 日本小児救急医学会学術集会　6月6日　横浜市

7. 市川 光太郎
林 奐先生「広域災害時に被災地の小児医療を守るために～JACHRIのチャレンジ～」
第28回 日本小児救急医学会学術集会　6月6日　横浜市

8. 松島 卓哉
プライマリ・ケア①
第480回 日本小児科学会福岡地方会　6月14日　福岡市

9. 市川 光太郎
「患者と医療チームの安全を支えるノンテクニカルスキルースピールアップとリーダーシップ」
第3回 日本小児診療多職種協働研究会　6月22日　蒲田市

10. 市川 光太郎
「これからの総合小児救急医療～成人救急医との協働によるスキルアップを」
第42回 日本救急医学会総会　10月29日　福岡市

11. 岡畠 祥憲
川崎病の季節性変動
第10回 麻生飯塚カンファレンス　11月14日　北九州市

12. 市川 光太郎
「電話応対でのポイントとコツ」
福岡県医師会#8000講習会講演会　11月20日　福岡市

13. 市川 光太郎
「ワクチンの諸問題とこれからの課題」
北九州地区小児感染症懇話会　11月21日　北九州市

14. 市川 光太郎
子どもの命を守るためにできること
平成26年度 第1回 日本小児科学会・小児救急市民公開フォーラム in Kyoto 1　11月22日　京都市

講演

1. 小児救急疾患・突然死・児童虐待
市川 光太郎
産業医科大学医学部3年生講義　1月8日　北九州市

2. 救命士国家試験対策～小児救急～
市川 光太郎
公務員ビジネス専門学校特別講義　1月21日　福岡市

3. 外来で帰してはいけない子ども達
市川 光太郎
トヨタ記念病院臨床研修講演　1月22日　豊田市

4. 教育講演－3「小児救急の特徴」
市川 光太郎
第22回 全国救急隊員シンポジウム　1月30日　北九州市

5. 小児急性腹症～感染症を含めて～
市川 光太郎
久留米小児感染症懇話会　1月31日　久留米市

6. 小児救急
松島 卓哉
第22回 全国救急隊員シンポジウム　1月31日　北九州市

7. 境界領域の小児救急疾患～事故予防も視野に入れて～
市川 光太郎
下関市医師会　平成25年度 小児救急研修会　2月22日　下関市

8. 子ども達からのSOSの数々～いかに見出し、いかに向き合い、いかにつないでいくか！～
市川 光太郎
倉敷中央病院児童虐待防止研修会　2月26日　倉敷市

9. 救急現場で遭遇する児童虐待
市川 光太郎
第2回 北九州　ER～CRITICAL CARE CONFERENCE　3月20日　北九州市

10. 北九州市におけるCDR、教育講演 25「チャイルドデスレビューの確率を目指して」の追加発言
市川 光太郎
第117回 日本小児科学会学術集会　4月13日　名古屋市

11. 知っておくべき小児救急医療のポイント「医療安全に結びつく小児科外来トリアージ」
市川 光太郎
MSD　小児科診療サポートビデオ　4月23日　北九州市

12. 救急外来で遭遇する児童虐待～いかに見つけ、向き合い、つなげるか～
市川 光太郎
大牟田地区子ども健康フォーラム　4月26日　大牟田市

13. 日本小児科学会「地域振興小児科」推進業務説明
市川 光太郎
日本小児科学会福岡地方会・福岡県小児医療提供モデル案策定委員会　5月15日　福岡市

14. わが国における乳児の睡眠環境～乳児検診時の調査～
市川 光太郎
特定非営利活動法人日本子ども政策研究推進機構理事会　5月31日　東京都

15. 日本社会と子ども虐待
市川 光太郎
福岡女学院看護大学特別講演　6月3日　福岡市

16. 夜尿症の初期診療
今村 徳夫
若戸小児科医会　6月6日　北九州市

17. 子どもの身体と心の発育～健康に育てよう！～
市川 光太郎
平成26年度 子育てふれあいセンター講習会　6月10日　北九州市

18. 夜尿症の初期診療
今村 徳夫
八幡小児科医会　6月12日　北九州市

19. 吸気性喘鳴のピットホール症例
市川 光太郎
愛媛県小児気管支喘息学術講演会　6月17日　松山市

20. 小児突然死（SIDSを中心に）と児童虐待
市川 光太郎
愛媛大学医学部4年生特別講義　6月17日　松山市
21. 健全育成のための子どもの身体と心の発達の基礎知識
市川 光太郎
直方植木保育園開演記念講演会　6月28日　直方市
22. 救急現場で遭遇する児童虐待
市川 光太郎
第8回 長崎こども救急疾患研究会　7月4日　長崎市
23. こどもの中毒
市川 光太郎
久留米大学医学部3年生特別講義　7月8日　久留米市
24. 小児救急疾患と子ども虐待
市川 光太郎
久留米大学医学部看護学科2年生特別講義　7月8日　久留米市
25. トリアージで見抜く小児救急疾患
市川 光太郎
みやこ保健協議会・行橋急患センター1周年記念講演会　7月10日　行橋市
26. こどもの突然死と児童虐待
市川 光太郎
久留米大学医学部4年生特別講義　7月15日　久留米市
27. 乳幼児パラインフルエンザ3型感染症の臨床像
中野 慎也
第508回 北九州地区小児科医会　7月例会　7月26日　北九州市
28. 医療的ケアを必要とする児童生徒の基礎疾患
富田 一郎
医療的ケア講演会　7月30日　北九州市
29. 児童虐待にいかに気付くか～医療現場から見えてくるもの～
市川 光太郎
福岡県精神保健福祉協議会　平成26年度 夏期講座　7月31日　春日市
30. 乳幼児の虐待～AHT（SBS）に関して～
市川 光太郎
MSD 小児科診療サポートビデオ研究会　8月5日　北九州市
31. 周産期～乳幼児期の児童虐待の現状～
市川 光太郎
大牟田市保健福祉部児童家庭課乳児健康診査医師研修会　8月19日　大牟田市
32. 外来トリアージで見抜く小児救急疾患
市川 光太郎
行橋京都保健医療研修会　8月20日　行橋市

33. 小児救急疾患と突然死（SIDS）と児童虐待
市川 光太郎
筑波大学医学部4年生特別講義　9月5日　つくば市

34. 外来で帰してはいけない子ども達
市川 光太郎
第10回 泉州小児救急講演会特別講演　9月6日　堺市

35. わが国の児童虐待の現状
市川 光太郎
平成26年度 児童養護施設吉敷愛児園職員研修会　9月13日　山口市

36. 小児科外来における感染症対策
市川 光太郎
第3回 北九州地区小児科医会・スタッフセミナー　9月17日　北九州市

37. 小児救急の特徴と児童虐待の現状
市川 光太郎
平成26年度 消防大学救急科（第76期生）講義　9月19日　三鷹市

38. 周産期～乳幼児期の児童虐待の現状と課題～
市川 光太郎
平成26年度 石川県家庭児童局母子保健課講座　9月20日　金沢市

39. 小児救急、こんな時どうする！～その pitfall と Knack～
市川 光太郎
高松市医師会急患センター20周年新築移転記念講演会　10月4日　高松市

40. 小児医療で遭遇する児童虐待の特徴とその対応
市川 光太郎
東京慈恵医科大学病院子ども虐待対応チーム運営委員会主催講演会　10月17日　東京都

41. 小児救急医療における児童虐待の特徴とその対応
市川 光太郎
東京医科歯科大学病院小児科　CPT委員会講演会　11月11日　東京都

42. 第1印象が不良であった2例
松島 卓哉
産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス　11月17日　北九州市

43. 小児救急医療と児童虐待
市川 光太郎
仙台市立病院CPT委員会講演会　11月29日　仙台市

44. 小児救急疾患とその特徴
市川 光太郎
九州救急救命士養成所講義　12月2日　北九州市

45. これからの地域医療ー地域における小児在宅医療の現状と期待
天本 正乃
小児等在宅医療支援 キックオフ会議2014　12月7日　北九州市

46. 小児救急現場で遭遇する児童虐待の種類とその特徴
市川 光太郎
九州救急救命士養成所講義　12月9日　北九州市

47. 思春期の子ども達はなぜ事件を起こすのか?～親は子どもにどう向き合うべきか?～
市川 光太郎
第65回 聖マリア医学会講演会　12月27日　久留米市

著書

1. 消化管異物
市川 光太郎
2014年・今日の治療指針～私はこうして治療している～ 1258−1259 医学書院　2014

2. 軽症対応時の注意点
市川 光太郎
当直医のための小児救急ポケットマニュアル 30−34 中山書店　2014

3. 「揮発油（マニュキュア除光液）誤飲」連載「小児救急センター24時」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.243 199−199 風讃社㈱ベネッセ　2014

4. 「鼻に異物が入った」連載「小児救急センター24時」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.244 175−175 風讃社㈱ベネッセ　2014

5. 「腸重積」連載「小児救急センター24時」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.245 185−185 風讃社㈱ベネッセ　2014

6. 「中耳炎」連載「小児救急センター24時」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.246 201−201 風讃社㈱ベネッセ　2014

7. 「熱中症」連載「小児救急センター24時」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.247 195−195 風讃社㈱ベネッセ　2014

8. 「チャイルドシートの誤使用」連載「小児救急センター24時」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.248 191−191 風讃社㈱ベネッセ　2014

9. 「クーハンからの転落」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.249 198−198 風讃社㈱ベネッセ　2014

10. 「ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群」連載「小児救急センター24時」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.250 219−219 風讃社㈱ベネッセ　2014

11. 「ピーナッツアナフィラキシー」連載「小児救急センター24時」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.251 185−185 風讃社㈱ベネッセ　2014

12. 「無呼吸発作」連載「小児救急センター24時」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.252 219−219 風讃社㈱ベネッセ　2014
13. 「揺さぶられ症候群」連載「小児救急センター24時」
市川 光太郎
ひよこクラブ No.253 215−215 風讃社㈱ベネッセ　2014
14. 下痢
松島 卓哉
当直医のための小児救急ポケットマニュアル 105−106 中山書店　2014
15. 市川 光太郎
総監修：赤ちゃんの病気&おうちケアガイドBOOK−ベネッセ　初版2014年11月

その他

1. 松島 卓哉
PALSインストラクター参加　2月8日、9日　鹿児島市
5月24日、25日　北九州市
7月19日、20日　北九州市
9月20日、21日　北九州市

2. 松島 卓哉
PEARSインストラクター参加　9月20日　北九州市
12月14日　福岡市

3. 市川 光太郎
【厚労省研究班研究事業報告書】
1. 市川 光太郎：「保育園における乳児期睡眠（午睡）環境の現状とそれに関する保育園園長の意識調査」平成25年厚生労働科学研究補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤）「乳幼児突然死症候群（SIDS）における病態解明と臨床的対応および予防法開発とその普及啓発に関する研究」（班長；戸苅 創、分担研究：小児救急医療現場におけるSIDS（突然死）症例に対する理想的対応に関する調査研究、平成25年分担研究報告書、p13−p27、2014
2. 市川 光太郎：「家庭における乳児期睡眠環境に実態調査とそれに関する母親の意識調査」平成25年厚生労働科学研究補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤）「乳幼児突然死症候群（SIDS）における病態解明と臨床的対応および予防法開発とその普及啓発に関する研究」（班長；戸苅 創、分担研究：小児救急医療現場におけるSIDS（突然死）症例に対する理想的対応に関する調査研究、平成25年分担研究報告書、p28−p39、2014
3. 市川 光太郎：「ALTEの定義変更とSIDS問診・チェックリストの変更及び記入要領の策定、そして保育園午睡環境調査と乳児期睡眠環境調査」平成23・24・25年厚生労働科学研究補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤）「乳幼児突然死症候群（SIDS）における病態解明と臨床的対応および予防法開発とその普及啓発に関する研究」（班長；戸苅 創、分担研究：小児救急医療現場におけるSIDS（突然死）症例に対する理想的対応に関する調査研究、平成23・24・25年分担研究統括報告書

4. 市川 光太郎
【厚労省関係研究事業】
1. 厚労省医薬食品局審査管理課・安全対策課：平成24年度 安全対策課支出委任事業；突然死とワクチン

との関係についての調査研究会議・委員
2013.1.31、3.8、2014.6.1、

2. 厚労省雇用均等・児童家庭局母子保健課：児童虐待防止医療ネットワーク事業に関する有識者会議・委員
2013.2.6、4.24、2014.2.24

5. 市川 光太郎

【その他】

1. 市川 光太郎：急性腹症死亡例の脱水輸液療法に対する意見書、名古屋・増田弁護士事務所、1月18日
2. 市川 光太郎：AHT（SBS）の鑑定意見書作成、鹿児島県警察、2月20日
3. 市川 光太郎：急性脳症症例に関する意見書作成、名古屋・堀弁護士事務所、3月14日
4. 市川 光太郎：急性硬膜下血腫における人為的受傷か自然外傷かにおける鑑別方法、鹿児島地方検察庁梶検事、4月15日
5. 市川 光太郎：10か月児の急性硬膜下血腫が人為的か偶発性かの相談、福岡子ども総合センター、6月12日
6. 市川 光太郎：AHTによる急性硬膜下血腫の特徴について、飯塚警察署、6月13日
7. 市川 光太郎：ベビーシッター幼児殺人事件における死因診断鑑定書作成、横浜地方検察庁、8月12日
8. 市川 光太郎：キッズスタディオン業務上過失致死事件の意見書作成①、大阪府警察署、8月13日
9. 市川 光太郎：AHT機序・時期の医学的判断による意見書作成、福岡市子ども未来局子ども総合相談センター子ども緊急支援、9月4日
10. 市川 光太郎：キッズスタディオン業務上過失致死事件の意見書作成②、大阪府警察署、10月6日7日
11. 市川 光太郎：ベビーシッター幼児殺人事件における死因診断鑑定書作成②、横浜地方検察庁、10月18日
12. 市川 光太郎：生後1か月AHT症例鑑定書作成①、熊本県警察熊本北署、11月6日
13. 市川 光太郎：生後10か月AHT症例鑑定書作成①、鹿児島県警鹿屋警察署、11月18日
14. 市川 光太郎：生後1か月AHT症例鑑定書作成②、熊本県警察熊本北署、12月4日
15. 市川 光太郎：生後3か月AHT鑑定書作成①、鹿児島県警川内警察署、12月5日

6. 富田 一郎
特別支援学校における医療的ケア検討会議　6月19日、8月27日　北九州市

7. 松島 卓哉
第5回 日本小児救急医学会井の頭教育セミナー
ファシリテーター参加　12月6日、7日　三鷹市

8. 松島 卓哉
BLSインストラクター参加　11月29日　福岡市

外科・呼吸器外科

論文

1. 同一肺葉内に生じた腺癌と類基底細胞型扁平上皮癌
澤田 貴裕、町野 隆介、竹治 みゆき、前田 智治
胸部外科 67（3）：198−201：2014

2. 福岡県における精神科ソフト救急患者の搬送・受け入れの現状、および関係機関の負担要因に関する検討
伊藤 重彦、井上 征雄、木戸川 秀生、田口 建蔵、正代 荘一、板山 隆志、西中 徳治、長嶺 貴一
日本臨床救急医学会雑誌 17 (4) ; 515−521 : 2014
3. Meckel憩室のmesodiverticular vascular bandによる絞扼性イレウスの1小児例
和田 英雄、伊藤 重彦、山吉 隆友、木戸川 秀生
日本腹部救急医学会雑誌 34 (5) ; 1021−1024 : 2014
4. Tokyo Guidlines 2013により設定されたbundleの急性胆嚢炎診断・治療における効果の検討
岡本 好司、木戸川 秀生、野口 純也、山吉 隆友、松本 彩、久永 真、小山 正三朗、桝屋 隆太、新山 新、田口 健蔵、井上 征雄、澤田 貴裕、伊藤 重彦
日本外科感染症学会雑誌 11 (3) ; 211−215 : 2014
5. 左鼠径ヘルニア自己整復を契機に発症したS状結腸穿孔性腹膜炎の1救命例
桝屋 隆太、岡本 好司、松本 彩、木戸川 秀生、山吉 隆友、野口 純也、久永 真、田口 健蔵、井上 征雄、伊藤 重彦
日本外科感染症学会雑誌 11 (2) ; 163−167 : 2014
6. Effects of additional laparoscopic cholecystectomy on outcomes of laparoscopic gastrectomy in patients with gastric cancer based on a national administrative database
Atsuhiko Murata, Kohji Okamoto, Keiji Muramatsu, Tatsuhiko Kubo, Yosihisa Fuino, Shinya Matsuda
Journal of Surgical Research 186 ; 157−163 : 2014
7. TG13 : Management Bundleと今後のガイドライン評価計画
岡本 好司、高田 忠敬、吉田 雅博、真弓 俊彦、三浦 文彦
日腹部救急医会誌 34 ; 671−676 : 2014
8. 胆膵疾患におけるDIC (胆道炎、膵炎)
岡本 好司、日暮 愛一郎、田村 利尚
Thrombosis Medicine 4 (2) ; 20−27 : 2014
9. 敗血症
岡本 好司
救急・集中治療 26 ; 802−807 : 2014
10. 血小板減少がある患者さんの術後ケアはどんなことに注意すればよいの?
岡本 好司
ナーシングケアQ&A徹底ガイド　術後ケアQ&A 第2版 49 ; 278−279 : 2014
11. DICと敗血症
岡本 好司
重症集中ケア 13 (3) ; 41−44 : 2014
12. Time trend of medical economic outcomes of endoscopic submucosal dissection for gastric cancer in Japan : a national database analysis.
Murata A, Okamoto K, Muramatsu K, Matsuda S.
Gastric Cancer 17 (2) ; 294−301 : 2014
13. Endoscopic submucosal dissection for gastric cancer : the influence of hospital volume on complications and length of stay.
Murata A, Okamoto K, Muramatsu K, Matsuda S.
Surgical Endoscopy 28 (4) ; 1298−1306 : 2014

14. Thrombomodulin improves the liver injury, coagulopathy, and the mortality in experimental mice heatstroke model.
Kawasaki T, Okamoto K, Kawasaki C, Sata T.
Anesthesia & Analgesia 118 (5) ; 956−963 : 2014
15. Age-Related Differences in Outcomes and Etiologies of Acute Abdominal Pain Based on a National Administrative Database.
Murata A, Okamoto K, Mayumi T, Muramatsu K, Matsuda S.
Tohoku J Exp Med 233 (1) ; 9−15 : 2014
16. The recent time trend of outcomes of disseminated intravascular coagulation in Japan : an observational study based on a national administrative database.
Murata A, Okamoto K, Mayumi T, Muramatsu K, Matsuda S.
Journal of Thrombosis and Thrombolysis 38 (3) ; 364−371 : 2014
17. Addition of recommendations for the use of recombinant human thrombomodulin to the "Expert consensus for the treatment of disseminated intravascular coagulation in Japan"
Wada H, Okamoto K, Iba T, Kushimoto S, Kawasugi K, Gando S, Madoiwa S, Uchiyama T, Maim T, Seki Y ; Japanese Society of Thrombosis Hemostasis／DIC subcommittee.
Thromb Res 134 (4) ; 924−925 : 2014
18. 科学的根拠に基づいた感染症に伴うDIC治療のエキスパートコンセンサスの追補
和田 英夫、坂田 洋一、丸藤 哲、岡本 好司、朝倉 英策、窓岩 清治、射場 敏明、内山 俊正、江口 豊、川杉 和夫、久志本 成樹、小池 薫、古賀 震、関 義信、真弓 俊彦
血栓止血誌 25 (1) ; 123−125 : 2014
19. 遺伝子組換え型トロンボモジュリン製剤 (rTM) を投与した急性肝不全の1救命例
太田 和義、影山 富士人、木次 健介、松永 英里香、石田 夏樹、松浦 愛、森 泰希、末廣 智之、岩岡 泰志、住吉 信一、川村 欣也、吉井 重人、金岡 繁、小林 良正、岡本 好司
Thrombosis Medicine 4 (3) ; 291−297 : 2014
20. 日本血栓止血学会　DIC診断基準暫定案
朝倉 英策、高橋 芳右、内山 俊正、江口 豊、岡本 好司、川杉 和夫、小林 隆夫、瀧 正志、辻中 利政、松下 正、松野 一彦、窓岩 清治、矢冨 裕、和田 英夫
血栓止血誌 25 (5) ; 629−646 : 2014
21. 外科領域における深在性真菌症の診断と治療
岡本 好司
感染症道場 3 (1) ; 55−58 : 2014
22. 外科領域DICに対する病態・診断・治療
岡本 好司
Thrombosis Medicine 4 (2) ; 98−101 : 2014

学会研究会

1. 北九州地域メディカルコントロール協議会の取組 (パネルディスカッション)
伊藤 重彦
平成25年度 全国メディカルコントロール協議会連絡協議会　1月31日　北九州市

2. 術前門脈塞栓術（PE）と肝動脈塞栓術（TAE）で完全腫瘍壊死が得られた肝細胞癌の1切除例
野口 純也、岡本 好司、馬場 雅之、松本 彩、久永 真、桝屋 隆太、山吉 隆友、井上 征雄、木戸川 秀生、伊藤 重彦
第35回 九州肝臓外科研究会　2月1日　福岡市

3. 当院における腹腔鏡下腹壁ヘルニア修復術の現状
木戸川 秀生、松本 彩、久永 真、桝屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、岡本 好司、伊藤 重彦
第8回 九州ヘルニア研究会学術集会　2月15日　福岡市

4. 左鼠径ヘルニア自己整復の際にS状結腸穿孔を来した1例
桝屋 隆太、岡本 好司、松本 彩、木戸川 秀生、井上 征雄、山吉 隆友、野口 純也、久永 真、田口 健蔵、伊藤 重彦
第115回 北九州外科研究会　2月21日　北九州市

5. 手術侵襲が加わることによるDIC発症および進行を考慮に入れた治療法の試み
岡本 好司、山吉 隆友、野口 純也、久永 真、松本 彩、桝屋 隆太、田口 健蔵、井上 征雄、木戸川秀生、伊藤 重彦
第8回 日本血栓止血学会学術標準化委員会シンポジウム　2月22日　東京都

6. 左鼠径ヘルニア自己整復の際にS状結腸穿孔を来した1例
桝屋 隆太、岡本 好司、松本 彩、木戸川 秀生、井上 征雄、山吉 隆友、野口 純也、久永 真、田口 健蔵、伊藤 重彦
第50回 日本腹部救急医学会総会　3月6日　東京都

7. 腹腔鏡下観察を行った外傷による気腹症の3例
松本 彩、木戸川 秀生、久永 真、桝屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、岡本 好司、伊藤 重彦
第50回 日本腹部救急医学会総会　3月6日　東京都

8. 敗血症性DICの病態 ―炎症と凝固の関係―
岡本 好司
第50回 日本腹部救急医学会総会　教育セミナー　3月6日　東京都

9. 腹部救急領域において注意を要する感染症
岡本 好司
第50回 日本腹部救急医学会総会　3月6日　東京都

10. 術前門脈塞栓術と肝動脈塞栓術の併用療法が著効した肝細胞癌の2切除例
野口 純也、岡本 好司、松本 彩、久永 真、桝屋 隆太、山吉 隆友、井上 征雄、木戸川 秀生、伊藤 重彦
第16回 北九州肝癌治療研究会　3月15日　北九州市

11. 非特異性単純性小腸潰瘍穿孔の1例
小山 正三朗、木戸川 秀生、桝屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、新山 新、井上 征雄、澤田 貴裕、岡本 好司、伊藤 重彦
第51回 九州外科学会 ：小腸潰瘍穿孔　5月9日　北九州市

12. 魚骨によるメッケル憩室穿通を生じた1小児例
桝屋 隆太、桝屋 隆太、岡本 好司、木戸川 秀生、井上 征雄、山吉 隆友、野口 純也、久永 真、松本 彩、伊藤 重彦
第51回 九州小児外科学会　5月11日　北九州市

13. 大腸全摘にて救命しえたNOMI（非閉塞性腸管虚血症）の2例
小山 正三朗、桝屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、新山 新、井上 征雄、澤田 貴裕、木戸川 秀生、
岡本 好司、伊藤 重彦
平成26年 長崎大学第一外科同門研究会　5月17日　長崎市

14. 特発性血気胸に対し胸腔鏡手術を行った2例
井上 征雄、伊藤 重彦、山吉 隆友
第31回 日本呼吸器外科学会　5月28日　東京都

15. 石灰乳胆汁を伴った小児胆嚢結石症の1切除例
桝屋 隆太、岡本 好司、野口 純也、久永 真、小山 正三朗、山吉 隆友、新山 新、木戸川 秀生、田口 健蔵、
井上 征雄、澤田 貴裕、伊藤 重彦
第172回 北九州肝胆膵研究会　5月28日　北九州市

16. 肺癌症例を対象とする入院サポートセンター設置への取り組み
澤田 貴裕、石井 光寿、古川 克郎
第31回 日本呼吸器外科学会総会　5月29日　東京都

17. 北九州地域における高齢者救急の取組（パネルディスカッション）
伊藤 重彦、井上 征雄、田口 健蔵、白石 盛雄、板山 隆志、正代 荘一
第17回 日本臨床救急医学会総会　6月1日　下野市

18. 腹腔鏡下に手術を行った膀胱ヘルニアを伴う巨大腹壁瘢痕ヘルニアの一例
久永 真、木戸川 秀生、松本 彩、桝屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、岡本 好司、伊藤 重彦
第12回 日本ヘルニア学会　6月6日　東京都

19. 受傷機転不明の外傷後に発症した十二指腸球部・胆嚢穿孔の1例
小山 正三朗、木戸川 秀生、桝屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、新山 新、井上 征雄、澤田 貴裕、岡本 好司、
伊藤 重彦
第18回 日本救急医学会　九州地方会　6月21日　福岡市

20. 鈍的外傷による横隔膜損傷症例の検討
山吉 隆友、岡本 好司、木戸川 秀生、小山 小三朗、桝屋 隆太、田口 健蔵、野口 純也、新山 新、
井上 征雄、澤田 貴裕、伊藤 重彦
第28回 日本外傷学会総会　6月25日　東京都

21. 急性腹症に対する単孔式腹腔鏡手術の現状と手術のポイント
木戸川 秀生、伊藤 重彦、松本 彩、久永 真、桝屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、井上 征雄、岡本 好司
第69回 日本消化器外科学会総会　7月16日　郡山市

22. 最近経験した小児外傷性膵損傷の2例
新山 新、伊藤 重彦、岡本 好司、木戸川秀生、澤田 貴裕、山吉 隆友、野口 純也、桝屋 隆太、小山正三朗、
市川 光太郎、
第13回 北部福岡臨床救急セミナー　9月4日　北九州市

23. 大腸亜全摘にて救命しえたNOMI（非閉塞性腸管虚血症）の3例
小山 正三朗、木戸川 秀生、田口 健蔵、桝屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、新山 新、井上 征雄、
澤田 貴裕、岡本 好司、伊藤 重彦
第116回 北九州外科研究会　9月5日　北九州市

24. 門脈ガス血症を伴った子宮留膿腫穿孔による汎発性腹膜炎の1例
小山 正三朗、木戸川 秀生、田口 健蔵、桝屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、新山 新、井上 征雄、
澤田 貴裕、岡本 好司、伊藤 重彦
第33回 福岡救急医学会　9月6日　福岡市

25. 肝切除の基本手技 ―肝門処理と肝切離―
岡本 好司
第6回 日本Acute Care Surgery学会　教育講演　9月20日　青森市

26. 鈍的外傷による大腸損傷の3例
山吉 隆友、岡本 好司、木戸川 秀生、小山 小三朗、桝屋 隆太、田口 健蔵、野口 純也、新山 新、井上 征雄、
澤田 貴裕、伊藤 重彦
第6回 日本 Acute Care Surgery 学会　9月21日　青森市

27. 十二指腸潰瘍穿孔に対する単孔式腹腔鏡下大網被覆術
木戸川 秀生、伊藤 重彦、小山 正三朗、桝屋 隆太、野口 純也、新山 新、山吉 隆友、井上 征雄、
澤田 貴裕、岡本 好司
第27回 日本内視鏡外科学会総会　10月2日　盛岡市

28. 当院小児救急医療における単孔式腹腔鏡手術の取り組み
桝屋 隆太、岡本 好司、木戸川 秀生、澤田 貴裕、新山 新、井上 征雄、山吉 隆友、野口 純也、
小山 正三朗、伊藤 重彦、神薗 淳司、市川 光太郎
第27回 日本内視鏡外科学会総会　10月3日　盛岡市

29. 急性膵炎を契機に発見された腎細胞癌膵転移の1例
小山 正三朗、岡本 好司、桝屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、新山 新、田口 健蔵、井上 征雄、澤田 貴裕、
木戸川 秀生、伊藤 重彦
第30回 長崎肝・胆道・膵外科研究会　10月18日　長崎市

30. 腹腔内感染症と抗MRSA薬
岡本 好司
第62回 日本化学療法学会西日本支部総会、第57回 日本感染症学会中日本地方会学術集会、
第84回 日本感染症学会西日本地方会学術集会　シンポジウム　10月25日　岡山市

31. 当院ドクターカーシステムを使用した医師現場出動
井上 征雄、伊藤 重彦、田口 健蔵
第42回 日本救急医学会総会　10月28日　福岡市

32. 肺癌組織におけるpHと臨床・病理学的特性との関連性
澤田 貴裕、古川 克郎、井上 征雄、伊藤 重彦
第55回 日本肺癌学会学術集会　11月14日　京都市

33. 大腸亜全摘にて救命しえたNOMI（非閉塞性腸管虚血症）の3例
小山 正三朗、木戸川 秀生、田口 健蔵、桝屋 隆太、野口 純也、山吉 隆友、新山 新、井上 征雄、
澤田 貴裕、岡本 好司、伊藤 重彦
第76回 臨床外科学会総会　11月21日　郡山市

34. 感染症に伴うDIC治療のエキスパートコンセンサスについて
岡本 好司
第27回 日本外科感染症学会総会　イブニングセミナー　12月4日　東京都

35. 外科感染症とDIC：新しい話題
岡本 好司
第27回 日本外科感染症学会総会　外科感染症入門講座　12月4日　東京都

36. TAZ／PIPCの腹腔内感染に対する使用症例の検討
山吉 隆友、岡本 好司、木戸川 秀生、小山 小三朗、桝屋 隆太、田口 健蔵、野口 純也、新山 新、井上 征雄、澤田 貴裕、伊藤 重彦
第27回 日本外科感染症学会総会　12月5日　東京都

37. 胆道感染症の治療バンドル
岡本 好司
第27回 日本外科感染症学会総会　スポンサードシンポジウム　12月5日　東京都

38. 周術期DICの診断と治療
岡本 好司
第21回 外科侵襲とサイトカイン研究会　教育講演　12月13日　徳島市

座長・司会

1. 伊藤 重彦
特別講演
感染対策・栄養管理講演会　1月20日　北九州市

2. 伊藤 重彦
シンポジウム
第22回 全国救急隊員シンポジウム　1月30日　北九州市

3. 岡本 好司
セッション2. 術後管理の標準化：肝切後ドレーン
第35回 九州肝臓外科研究会　学術集会　2月1日　福岡市

4. 伊藤 重彦
特別講演
第16回 北九州災害救急医療フォーラム　2月3日　北九州市

5. 伊藤 重彦
一般演題（周術期感染対策）
第29回 日本環境感染学会総会　2月15日　東京都

6. 岡本 好司
DIC診断・治療のエビデンスの構築　第1部
第8回 日本血栓止血学会学術標準化委員会シンポジウム2014　2月22日　東京都

7. 岡本 好司
特別講演
第14回 日本DIC研究会　2月23日　東京都

8. 伊藤 重彦
総合座長
第2回 メディカルスタッフのための感染対策セミナー　2月24日　北九州市

9. 伊藤 重彦
特別講演
平成25年度 北九州地域救急業務メディカルコントール協議会研修会　3月18日　北九州市

10. 伊藤 重彦
特別講演
第2回 北九州ER～Critical Care Conference　3月20日　北九州市

11. 岡本 好司
その他の消化器
第51回 九州外科学会　5月9日　北九州市

12. 岡本 好司
症例研究
第172回 北九州肝胆膵研究会　5月28日　北九州市

13. 伊藤 重彦
特別講演
北部福岡感染症研究会　5月28日　北九州市

14. 岡本 好司
ランチョンセミナー2
第36回 日本血栓止血学会学術集会　5月30日　大阪市

15. 岡本 好司
ランチョンセミナー9
第36回 日本血栓止血学会学術集会　5月31日　大阪市

16. 伊藤 重彦
総合座長
第3回 メディカルスタッフのための感染対策セミナー　6月2日　北九州市

17. 岡本 好司
P78　肝切除術・合併症
第26回 日本肝胆膵外科学会学術集会　6月13日　和歌山市

18. 木戸川 秀生
教育講演
第13回 北部福岡臨床救急セミナー　9月4日　北九州市

19. 伊藤 重彦
総合座長
第13回 北部福岡臨床救急セミナー　9月4日　北九州市

20. 小山 正三朗
一般口演「腹部救急（消化管）」
第33回 福岡救急医学会　9月6日　福岡市

21. 木戸川 秀生
特別講演
八幡臨床外科医会9月例会　9月17日　北九州市

22. 伊藤 重彦
特別講演
第16回 北九州内視鏡外科（KES）セミナー　9月18日　北九州市

23. 伊藤 重彦
特別講演
第38回 北九州ショックカンファレンス　9月19日　北九州市

24. 岡本 好司
一般演題　腹部血管
第6回 日本Acute Care Surgery学会　9月21日　青森市

25. 伊藤 重彦
一般演題　DCS関連
日本Acute Care Surgery 学会学術集会　9月21日　青森市

26. 伊藤 重彦
総合座長
第4回 メディカルスタッフのための感染対策セミナー　9月30日　北九州市

27. 岡本 好司
口演66 臓器組織提供・移植1
第42回 日本救急医学会総会　10月29日　福岡市

28. 伊藤 重彦
ワークショップ（救命救急センターにおける精神科医の役割）
第42回 日本救急医学会　10月29日　福岡市

29. 岡本 好司
特別講演1
第2回 北九州DICセミナー　11月12日　北九州市

30. 伊藤 重彦
シンポジウム（汚染・感染創の閉鎖戦略up to date ）
第27回 日本外科感染症学会総会学術集会　12月5日　東京都

講演

1. 診療所における院内感染対策
伊藤 重彦
平成25年度 医療安全対策研修会　1月15日　甘木市

2. 東日本大震災の経験～現地におけるJMAT活動について
伊藤 重彦
福岡県JMAT災害時医療救護訓練研修会　1月19日　福岡市

3. 精神科患者の救急搬送に関する研究
伊藤 重彦
地域医療連携研修会　1月24日　横浜市

4. 周術期感染対策
伊藤 重彦
九州労災病院院内感染対策研修会　2月19日　北九州市

5. 在宅医療と感染対策
伊藤 重彦
第20回 県南在宅医療研究会　2月20日　川口市

6. 地域連携による効果的な感染対策
伊藤 重彦
佐世保医師会勤務医部会総会　2月21日　佐世保市

7. 肝・胆道外科領域における感染症と臓器障害
岡本 好司
第41回 筑豊外科懇話会　2月24日　飯塚市

8. プロトコルの策定とオンラインMC
伊藤 重彦
厚生労働省　平成25年度 病院前医療体制における指導医研修　2月26日　東京都

9. 外科領域DICの病態・診断・治療
岡本 好司
急性期医療フォーラム　3月14日　福岡市

10. カンジダ感染を臨床的に考える；外科領域
岡本 好司
第12回 キャンディン研究会　3月15日　東京都

11. 環境消毒とセレウス菌感染症
伊藤 重彦
福岡青洲会病院　院内感染対策研修会　3月25日　福岡市

12. 感染対策地域連携とVRE感染対策
伊藤 重彦
天草地域感染対策研修会　5月16日　天草市

13. 感染症の基礎知識・福祉施設で注意すべき感染症
伊藤 重彦
平成26年度 感染症予防研修　6月10日　大野城市

14. アウトブレイクとは～その対応まで
伊藤 重彦
エンゼル病院　院内感染対策研修会　7月7日　北九州市

15. 標準予防策について
伊藤 重彦
北九州市感染症対策指導者養成研修会　7月19日　北九州市

16. 熱中症の予防対策について
伊藤 重彦
児童等の健康課題対策に係る研修会　7月29日　北九州市

17. 肝臓・胆道疾患、臨床検査と実臨床
岡本 好司
北九州臨床検査技師会研修会　7月30日　北九州市

18. 精神科救急に関する研究 ―ソフト救急の搬送・受入れの現状と問題点について
伊藤 重彦
下関・長門地区メディカルコントロール協議会　7月31日　下関市

19. 感染予防対策～特に市中や在宅で広がる耐性菌について
伊藤 重彦
門司医師会医療安全研修会　8月5日　北九州市

20. 救急救命処置について
井上 征雄
平成26年度 病院前医療体制における指導医研修プログラム　9月3日　福岡市

21. プロトコルの策定とオンラインMC
伊藤 重彦
厚生労働省　平成26年度 病院前医療体制における指導医研修　9月3日　福岡市

22. 腹腔鏡下手術　～ヒヤッとした症例～
木戸川 秀生
第16回 北九州内視鏡外科セミナー　9月18日　北九州市

23. VRE分離施設の感染対策
伊藤 重彦
健美会　佐々木病院　院内感染対策研修会　9月25日　北九州市

24. 学校における感染症対策
伊藤 重彦
平成26年度 学校における感染症対策に係る研修会　10月2日　北九州市

25. 北九州市立八幡病院　外科・呼吸器外科の紹介
澤田 貴裕
医療連携会　10月7日　北九州市

26. 中高年女性の注意すべき内臓疾患
岡本 好司
八幡西婦人セミナー　10月10日　北九州市

27. DICの病態・診断・治療
岡本 好司
港区DICセミナー　10月14日　東京都

28. 職業感染予防と曝露後の対応について
伊藤 重彦
第1回 医療安全研修会　10月23日　北九州市

29. 地域医療の今後　市立八幡病院の取り組み
岡本 好司
熊西まちづくり協議会　秋の健康づくり講座　第5回　10月31日　北九州市

30. 感染症とDIC
岡本 好司
高知重症感染症セミナー　11月14日　高知市

31. 外科感染症入門講座～外科感染症とICT
伊藤 重彦
第27回 日本外科感染症学会総会学術集会　12月4日　東京都

著書

1. IV 出血・血栓性疾患、8. 深部静脈血栓症
岡本 好司
血液疾患　最新の治療 2014−2016 248−251 南江堂　2014
2. DICの診断と治療
岡本 好司
敗血症（セプシス）救命治療の最前線 297−308 医薬ジャーナル社　2014
3. 術後合併症発症時のVTE予防策は？
岡本 好司
エキスパートによる消化器外科静脈血栓塞栓症診療指針 106−108 南江堂　2014
4. 術式別出血リスクの考え方は？
岡本 好司
エキスパートによる消化器外科静脈血栓塞栓症診療指針 109−110 南江堂　2014
5. 第5章　3. この患者は敗血症性DICか？　DICの診断は意味があるのか？
岡本 好司
Surviving ICU シリーズ　敗血症治療　一刻を争う現場での疑問に答える 182−191 羊土社　2014
6. 真菌　カンジダ症（Candidiasis）
岡本 好司
『感染症診療update』日本医師会雑誌 143：特別号（2）生涯教育シリーズ 87 351−352 協和企画　2014
7. 思わぬビタミンK欠乏症
岡本 好司
Surviving ICU シリーズ　重症患者の治療の本質は栄養管理にあった！ 90−92 羊土社　2014

その他

井上 征雄
エルスタ九州　講師参加、北九州市事後検討会　委員参加　平成26年1月
北九州市医師会災害研修会　講師参加　小倉、MCLS福岡　インストラクター参加、
日本集団災害学会　参加　東京、ドクターヘリ運航委員会　出席　久留米市、
遠賀、中間事後検討会　委員参加　平成26年2月
MCLS熊本　インストラクター参加、福岡県DMAT隊員養成研修会　講師参加、
JPTEC福岡　インストラクター参加、長崎呼吸器研究会　世話人参加、
北九州市事後検討会　委員参加　平成26年3月
北九州市事後検討会　委員参加、遠賀、中間事後検討会　委員参加、
日本臨床救急医学会　参加　東京　平成26年5月
エルスタ　講師参加、日本DMAT技能維持研修会　参加　福岡市、
ここが知りたいフォーラム　世話人参加　平成26年6月
北九州市事後検討会　委員参加、エルスタ　講師参加　平成26年7月

日本DMAT広域搬送訓練　参加　平成26年8月
福岡救急医学会　参加　福岡市　平成26年9月
MCLS飯塚　世話人参加、メディカルラリー福岡　運営スタッフ参加、エルスタ　講師参加、
八幡病院CPCRセミナー開催、ドクターヘリ運航委員会出席　久留米市　平成26年10月
MCLS北九州コース　管理世話人参加　平成26年11月
日本病院前診療救急医学会　世話人参加　平成26年12月

取材・記事

伊藤 重彦

1. 災害医療について
   FMラジオ（AIR STATION HIBIKI）　6月19日、7月17日　北九州市
2. 熱中症予防対策
   ・毎日新聞　朝刊　7月1日掲載
   ・市政番組ニュース55北九州　7月24日放送
3. エボラ出血熱に対するPPE着脱訓練研修会
   ・朝日新聞デジタル　12月13日掲載
   ・読売新聞　12月14日掲載
   ・西日本新聞　朝刊12月19日掲載

感染対策施設ラウンド

天草医療センター（5月16日）、JCHO九州病院（6月5日）、佐々木病院（9月25日）

講義

八幡医師会看護学院　4月21日、28日、5月12日、26日、6月9日、6月16日、9月8日
産業医科大学微微生物学講義　6月5日
産業医科大学外科学講義　2月12日
九州歯科大外科学講義　12月9日
救急救命九州研修所（ELSTA）講義　12月10日、12月17日
公務員ビジネススクール　救急救命士学科講義　12月16日、12月26日
熱中症予防対策講義　7月18日　小学校

救急医療に関する省庁等会議・福岡県会議

1. 総務省消防庁　平成25年度 緊急度判定体系に関する検討会　救急現場プロトコル作成班　第4回 班会議
   1月7日　東京都
2. 総務省消防庁　平成25年度 緊急度判定体系に係る検討会　第2回 作業部会　1月21日　東京都
3. 大阪航空局　北九州空港緊急計画連絡協議会　7月25日、8月12日、8月29日、9月2日
4. 精神科救急医療システム調整連絡委員会　1月27日　福岡市
5. 福岡県救急業務メディカルコントロール協議会
   平成25年度 第2回 1月17日、平成26年度 第1回 4月23日　福岡市
6. 福岡県救急業務メディカルコントロール協議会救急救命士処置拡大検討委員会
   平成26年7月28日、12月22日　福岡市

7. 福岡県救急業務メディカルコントロール協議会救急救命士気管挿管認定登録委員会　11月4日　福岡市
8. 福岡県DMAT運営委員会　8月28日　福岡市
9. 日本腹部救急医学会認定医・教育医検討委員会　11月21日　郡山市

訓練・研修会　講師

1. 災害医療訓練研修会
   - ・北九州市総合防災訓練　1月18日　北九州市
   - ・福岡県医師会JMAT訓練研修会　1月19日　福岡市
   - ・平成25年度 北九州市医師会災害医療研修会　2月22日　北九州市
   - ・福岡県医師会災害時医療救護訓練　3月1日　福岡市
   - ・平成25年福岡県DMAT隊員養成研修会　3月15日　福岡市
   - ・福岡県DMAT養成研修会　6月21日　福岡市
   - ・平成26年度 北九州空港航空機事故対策総合訓練　9月22日　苅田町
   - ・北九州市消防局特殊訓練　10月10日　北九州市
   - ・第1回 北九州MCLS標準コース　11月30日
2. その他の訓練・研修会
   - ・エボラ出血熱対応感染防御訓練（講義とPPE着脱訓練）　12月12日、12月19日、12月26日　北九州市
   - ・北九州市消防局口頭指導訓練研修会　8月29日　北九州市
   - ・熱中症予防対策研修会

     黒崎幼稚園（6月30日）、戸畑高生中学校（7月4日）、戸畑飛幡中学校（7月18日）

毎日新聞座談会　患者塾

- ・遠賀中間医師会館　1月25日、3月22日、4月26日、5月10日、6月14日、7月19日、10月18日、12月3日
- ・井筒屋パステルホール　8月23日
- ・大学　9月27日
- ・産業医科大学　11月3日

寄稿

1. 伊藤 重彦

   「病院前救急医療体制の変遷とメディカルコントロール協議会活動を振り返る」

   北九州市医報 vol678　2014年1月1日発行
2. 伊藤 重彦

   「有床診療所火災を考える―防災（ほのお）対策と防煙（けむり）対策はどこまで必要か」

   八幡医師会報 第40号　平成26年1月25日発行
3. 伊藤 重彦

   「セアカゴケグモ・マダニによる咬傷」

   北九州市医報 vol689　平成26年12月1日発行

受賞

平成26年度 救急功労者表彰（総務大臣表彰）　平成26年9月9日　東京都

3. 山吉 隆友

第177回 ICD講習会　2月15日　東京都

福岡県DMAT研修　5月9日　北九州市

第184回 ICD講習会　6月20日　福岡市

GI cancer-net 論文紹介8月号　英語論文日本語要約に対する監修

化学療法不応でKRAS exon 2野生型の遠隔転移を有する大腸癌患者におけるPanitumumab vs Cetuximab療法（ASPECCT試験）：他施設共同第III相オープンラベル非劣性ランダム化比較試験 8月15日

4. 木戸川 秀生

米子JATECコース　Group6　正規講師　11月22日　米子市

整形外科

論文

1. 小児頸椎椎間板石灰化症の1例

萩原 弘、太田 真悟、乗松 崇裕、辻 正二、野口 雅夫

整形外科と災害外科 63（4）；882−885：2014

2. 小児骨折

野口 雅夫、神薗 淳司

Monthly Book Orthopaedics 27（11）；81−89：2014

3. 小児骨折

野口 雅夫、神薗 淳司

Monthly Book Orthopaedics 63（4）；81−89：2014

学会・研究会

1. 偽関節手術 Reamer Irrigator Aspirator（RIA）の使用経験

田中 尚洋

第22回 北九州整形手術手技研究会　3月7日　北九州市

2. 脛腓間固定を要した足関節脱臼骨折の2例

渡邉 航之助、田中 尚洋、野口 雅夫

第49回 福岡整形外科外傷研究会　4月5日　福岡市

3. ピロン骨折の1例

田中 尚洋

第19回 北九州整形外傷研究会　6月4日　北九州市

4. 偽関節手術に対するRIAの使用経験

田中 尚洋、宮本 俊之、福島 達也、田口 憲士、上戸 康平、野口 雅夫

第127回 西日本整形外科・災害外科学会学術集会　6月8日　福岡市

5. 上膝蓋アプローチによる脛骨髄内釘の治療経験
飯田 健、宮本 俊之、福島 達也、田口 憲士、尾崎 誠
第40回 日本骨折治療学会　6月27日　熊本市

6. 橈骨遠位端骨折に対するVA-LCPの使用経験
上戸 康平、田中 尚洋、飯田 健、辻 正二、野口 雅夫
第50回 福岡整形外科外傷研究会　10月11日　福岡市

7. 偽関節手術に対するRIAの使用経験
上戸 康平、田中 尚洋、飯田 健、野口 雅夫、宮本 俊之、福島 達也、田口 憲士
第97回 長崎整形外科懇話会　11月8日　長崎市

8. 4期的手術で治療し得たPilon骨折（AO分類43C3 Gustilo分類 Type2）の経験
飯田 健、田中 尚洋、上戸 康平、野口 雅夫、辻 正二
第128回 西日本整形外科・災害外科学会学術集会　11月23日　宜野湾市

座長・司会

1. 野口 雅夫
司会
第22回 北九州整形手術手技研究会　3月7日　北九州市

2. 田中 尚洋
司会
第22回 北九州整形手術手技研究会　3月7日　北九州市

3. 野口 雅夫
第127回 西日本整形外科・災害外科学会学術集会　6月8日　福岡市

座長

4. 野口 雅夫
座長
第40回 日本骨折治療学会　6月28日　熊本市

5. 野口 雅夫
座長
第50回 福岡整形外科外傷研究会　10月11日　福岡市

6. 野口 雅夫
当番幹事
第79回 北整会レントゲンカンファランス　10月22日　北九州市

その他

1. 野口 雅夫
（講義）運動器外傷のポイント（長崎大学医学部5年生）　4月9日　長崎市

脳神経外科

学会・研究会

1. 気道緊急、肺胞出血で発症した広範性特発性骨増殖症の一手術症例
   氏福 健太、岩永 充人、越智 章
   第116回 日本脳神経外科学会支部会（九州）　2月1日　長崎市
2. 脳静脈血栓症に起因した若年性脳出血の一例
   岩永 充人、氏福 健太、越智 章
   第14回 北九州脳神経外科フォーラム　11月14日　北九州市
3. Stent retriever による急性期血行再建術を行った奇異性脳塞栓症の一症例
   氏福 健太、岩永 充人、越智 章
   第32回 長崎脳神経外科研究会　12月20日　長崎市

座長・司会

1. 越智 章
   一般演題
   第14回 北九州脳神経外科フォーラム　11月14日　北九州市

形成外科

論文

1. 『口蓋裂の診断と治療』ガイドライン作成にあたっての私の提言　顎裂骨移植に関するクリニカル・クエッションを作成して
   大場 創介、田崎 幸博、栗山 元根
   形成外科 57（1）：37−43：2014
2. 介護手袋によるターニケット症候群の1例
   槇野 祥生、田崎 幸博、石田 裕之
   臨床と研究 91（5）：93−94：2014

学会研究会

1. シンポジウム唇裂初回手術ではどこまで治療すべきか
   「片側口唇裂の表層と筋層をサブユニットごとに組み立て、三次元的対称性を得る」
   田崎 幸博
   第57回 日本形成外科学会学術集会　4月9日　長崎市
2. 人中部口輪筋二層分割牽引の口唇裂二次修正手術への応用
   田崎 幸博
   第38回 日本口蓋裂学会学術集会　5月29日　札幌市
3. 穴あき透明ドレープの使用経験について
   今村 禎伸、福井 季代子、田崎 幸博
   第98回 長崎形成外科懇話会　11月15日　南関町

4. 穴あき透明ドレープの使用経験について
今村 禎伸、福井 季代子、田崎 幸博
第96回 九州・沖縄形成外科学会　11月22日　熊本市
5. 頭部伝染性膿痂疹に脱毛、皮下腫瘤を併発し診断に苦慮した小児の1例
福井 季代子、李 龍二、田崎 幸博
第97回 長崎形成外科懇話会　5月10日　長崎市

座長・司会

1. 田崎 幸博
ミニオーラルセッション　新手法・アイデア他
第57回 日本形成外科学会学術集会　4月9日　長崎市

講演

1. あなたを支える足をいたわる　皮膚と爪のケア
田崎 幸博
若いちゃ教室　8月29日　北九州市

放射線科（医師）

学会研究会

1. 外傷性脾損傷に緊急TAEを施行した1例
今福 義博
第50回 北九州IVRカンファレンス　2月20日　北九州市

麻酔科

座長・司会

1. 金色 正広
第22回 北部福岡NST研究会　3月14日　北九州市

著書

1. Q116 気管支喘息の既往がある患者さんの術後ケアは、どんなことに注意したらよいの？
金色 正広
徹底ガイド　術後ケアQ&A 第2版 264−265 総合医学社　2014

その他

1. 金色 正広
AHA-PALSプロバイダーコース　インストラクター参加　3月8日、9日　北九州市
2. 金色 正広
AHA-PALSプロバイダーコース　インストラクター参加　5月25日、26日　北九州市

3. 金色 正広
AHA-PALSプロバイダーコース　インストラクター参加　9月20日、21日　北九州市
4. 金色 正広
AHA-ACLSプロバイダーコース　インストラクター参加　10月11日、12日　福岡市
5. 金色 正広
AHA-PALSプロバイダーコース　インストラクター参加　12月13日、14日　北九州市
6. 金色 正広
AHA-ACLSプロバイダーコース　インストラクター参加　12月20日、21日　福岡市
7. 金色 正広
日本静脈経腸栄養学会 飯塚TNT講習会　講師　1月12日、13日　飯塚市
8. 金色 正広
日本静脈経腸栄養学会 北九州TNT講習会　講師　11月8日、9日　北九州市
9. 金色 正広
AHA-BLSヘルスケアプロバイダーコース　インストラクター参加　10月5日　北九州市
10. 金色 正広
AHA-BLSインストラクターコース　インストラクター参加　11月15日　福岡市
11. 金色 正広
産業医科大学ICLSコース　インストラクター参加　11月16日　北九州市

救急科

論文

1. 救急ワークステーションと救急隊員教育
田口 健蔵、伊藤 重彦
救急医学 38 (13) ; 1707−1710 : 2014

学会研究会

1. 医師同乗指導評価表からみた救急救命士教育のポイント
田口 健蔵、井上 征雄、伊藤 重彦
第17回 日本臨床救急医学会総会・学術集会　5月31日　下野市
2. 医師同乗が救命士指導以外にも有益であった症例
田口 健蔵、井上 征雄、伊藤 重彦
第18回 日本救急医学会九州地方会　6月21日　福岡市

講演

1. 外傷診療について
田口 健蔵
九州労災病院プライマリーケア研修会　1月22日　北九州市
2. 小児の外傷処置法
田口 健蔵
第22回 全国救急隊員シンポジウム　1月31日　北九州市

3. 外傷診療総集編
田口 健蔵
九州労災病院プライマリーケア研修会　2月12日　北九州市

4. DMATについて
田口 健蔵
北九州市消防局第3期効果測定研修会　2月14日　北九州市

5. DMATについて
田口 健蔵
北九州市消防局第3期効果測定研修会　2月21日　北九州市

6. DMATについて
田口 健蔵
北九州市消防局第3期効果測定研修会　2月28日　北九州市

7. 内閣府広域医療搬送訓練について
田口 健蔵
平成26年度 第1回 北九州地域DMATブラッシュアップ研修会　5月9日　北九州市

8. 救急初期診療
田口 健蔵
九州労災病院プライマリーケア研修会　5月14日　北九州市

9. 外傷初期診療
田口 健蔵
九州労災病院プライマリーケア研修会　6月11日　北九州市

10. 外傷初期診療における画像診断
田口 健蔵
九州労災病院プライマリーケア研修会　7月16日　北九州市

11. 外傷初期診療 Primary survey
田口 健蔵
九州労災病院プライマリーケア研修会　9月17日　北九州市

12. 新EMISについて
田口 健蔵
平成26年度 第2回 北九州地域DMATブラッシュアップ研修会　9月20日　北九州市

13. 危険な腹痛の鑑別
田口 健蔵
北九州CPCRセミナー　10月1日　北九州市

14. 外傷初期診療　Secondary survey
田口 健蔵
九州労災病院プライマリーケア研修会　10月22日　北九州市

15. 外傷初期診療総集編
田口 健蔵
九州労災病院プライマリーケア研修会　11月19日　北九州市

その他

田口 健蔵

<1月>

9　救急救命九州研修所　シミュレーション　講師

18　北九州市総合防災訓練

<2月>

5−7　DMAT隊員養成研修（西日本）　講師

8−9　DMAT技能維持研修（九州地区・鹿児島市）　講師

22　北九州市医師会災害医療研修　講師

<3月>

7　八幡医師会看護専門学院　講師　「災害医療」

17−18　DMAT隊員養成研修（東日本）　講師

<4月>

11　北九州市救急隊員第1期効果測定　講師

26−27　JATEC秋田コース　講師

<5月>

15　救急救命九州研修所　シミュレーション　講師

21−23　DMAT隊員養成研修（西日本）　講師

<6月>

5　[Shake Hands Radio]　ゲスト出演　「DMAT」

6　集団災害事故時における消防・医療意見交換会　講師

18−20　DMAT隊員養成研修（西日本）　講師

21−22　DMAT技能維持研修（九州地区・福岡市）　講師

<7月>

14−15　平成26年度 統括DMAT研修

26−27　JATEC八戸コース　講師

29　救急救命九州研修所　シミュレーション　講師

<8月>

6−8　DMAT隊員養成研修（西日本）　講師

29−30　平成26年度 内閣府広域医療搬送訓練　講師

<9月>

10−12　DMAT隊員養成研修（西日本）　講師

22　平成26年度 北九州空港　航空機事故対応訓練

<10月>

10　平成26年度 北九州市特殊災害訓練

15−17　日本DMAT隊員養成研修（西日本）　講師

19　JPTEC北九州コース　講師

25　福岡メディカルラリー　運営スタッフ

<11月>

1　第1回 大分MCLSインストラクターコース　講師

2　第2回 大分MCLS標準コース　講師

8−9　平成26年度 中国地区DMAT連絡協議会実動訓練　講師
12−14　DMAT隊員養成研修（西日本）　講師
22−23　平成26年度 DMAT九州ブロック実動訓練（福岡）　講師
25　救急救命九州研修所　シミュレーション　講師
30　第1回 北九州MCLS標準コース　講師

<12月>
1−2　DMAT技能維持研修（九州地区・佐賀市）
17−19　DMAT隊員養成研修（西日本）　講師

精神科

講演

1. 認知症の診断と治療
白石 康子
認知症研修会　7月18日　北九州市

薬剤部門

論文

1. 九州山口地区における病棟薬剤業務の実態調査
辻本 朗、桑村 恒夫、町田 聖治、後藤 渉、原田 桂作、井手 飛香、赤松 孝
日本病院薬剤師会雑誌 50（11）；1347−1350：2014

学会・研究会

1. 肝動脈化学塞栓療法（TACE）施行時の有害事象の発現状況とQOLの評価
原田 桂作、末吉 宏成、米倉 紀子、坂本 佳子、野口 純也、木戸川 秀生、岡本 好司、村本 眞由美
第24回 日本医療薬学会年会　9月28日　名古屋市

講演

1. 大腸癌における化学療法と副作用管理について
原田 桂作
第4回 北九州市立八幡病院薬薬連携勉強会　10月17日　北九州市
2. 胃癌における化学療法と副作用管理について
原田 桂作
第2回 北九州市立八幡病院薬薬連携勉強会　2月28日　北九州市

放射線部門

学会・研究会

1. 次世代デジタルX線g診断装置“フラットパネルディテクタ”を用いた医療安全への新たな試み
   満園 裕樹、宗吉 佑樹、許斐 稔
   第9回 医療の質・安全学会学術集会 & International Forum on Quality and Safty in Healthcare, Japan 2014　11月22日　千葉市
2. X線撮影における右、左間違えの対策
   宗吉 佑樹、満園 裕樹、山下 三樹、許斐 稔
   第9回 医療の質・安全学会学術集会 & International Forum on Quality and Safty in Healthcare, Japan 2014　11月22日　千葉市

座長・司会

1. 満園 裕樹
   RSNA report 2013 最新技術報告
   第47回 北九州CT勉強会　2月4日　北九州市
2. 満園 裕樹
   総合司会
   第4回 Brilliance Community in Kyushu　9月6日　福岡市
3. 満園 裕樹
   医療安全学
   第30回 日本診療放射線技師総合学術大会・第21回 東アジア学術交流大会　9月20日　別府市
4. 満園 裕樹
   CT angiography装置で変わる？造影テクニック　施設紹介
   第48回 北九州CT勉強会　11月29日　北九州市
5. 満園 裕樹
   施設紹介
   Brilliance Community in kyushu　12月13日　熊本市

講演

1. 安心して放射線検査を受けるために　CTにおける被ばく低減について
   満園 裕樹
   第9回 九州放射線医療技術学術大会　市民公開講座　11月2日　北九州市

看護部門

学会・研究会

1. 感染性胃腸炎　感染対策Q&A
   中川 祐子
   第2回 メディカルスタッフのための感染対策セミナー　2月24日　北九州市

2. 摂食の自立に向けた急性期からの栄養管理と嚥下ケア
山下 亮
第41回 集中治療医学会　2月27日　京都府
3. 栄養管理・看護の実際
山下 亮
第3回 九州クリティカル研究会　3月21日　北九州市
4. 環境整備　感染対策Q&A
中川 祐子
第3回 メディカルスタッフのための感染対策セミナー　6月2日　北九州市
5. 地域の子どもと保護者への子育て支援
橋本 優子、梶原 多恵、崎田 幾子
第28回 日本小児救急医学会　6月6日　横浜市
6. 入院待機症例に対する緊急度評価の実態とER−病棟連携の課題
渡辺 恭子、梶原 多恵、古賀 隆太、神薗、淳司、市川 光太郎
第28回 日本小児救急医学会　6月7日　横浜市
7. 小児早期警告システムによる院内急変予測と患者安全への取り組み
梶原 多恵
第24回 小児看護学会　7月21日　東京都
8. ドクターカー同乗における教育的効果
本山 由佳、山田 友行、岩下 律子、橋本 真美、兼田 朋子、田口 健蔵、井上 征雄、伊藤 重彦
第33回 福岡救急医学会　9月6日　福岡市

座長・司会

1. 山下 亮
一般演題　医療安全・臨床
第24回 集中治療医学会　九州地方会　7月15日　北九州市
2. 永井 文恵
パネルディスカッション　インシデント報告
北九州内視鏡外科セミナー　9月18日　北九州市
3. 橋本 真美
シンポジウム「超高齢社会における救急領域の倫理問題」
第33回 福岡救急医学会　9月6日　福岡市

講演

1. 子育て勉強会
梶原 多恵、橋本 優子
北九州市立子どもの館　勉強会　1月9日、2月13日、3月13日、4月10日、5月8日、6月12日、7月10日、9月11日、10月9日、11月13日、12月11日　北九州市
2. 小児救急外来看護
梶原 多恵
夜間休日急患センター研修会　2月22日　北九州市

3. 男2代の子育て講座「安全編」
梶原 多恵
男2代の子育て講座　2月23日　北九州市

4. 子どもの観察方法について
梶原 多恵
砂山保育園保育士研修会　6月24日　中間市

5. 小児救急看護技術
梶原 多恵
産業医科大学産業保健学部講義　7月16日　北九州市

6. 第9回 小児救急医療ワークショップ in 北九州
梶原 多恵、橋本 優子、神薗 淳司、松島 卓哉、市川 光太郎
第9回 小児救急医療ワークショップ in 北九州　8月3日　北九州市

7. 小児のフィジカルアセスメント
梶原 多恵
看護教育講演　10月24日　福岡市

8. やってみよう呼吸訓練
山下 亮
公害保健福祉事業　呼吸機能訓練　10月29日　北九州市

9. 標準予防策「オムツ交換」
中川 祐子
天草地域医療センター　院内感染対策講習会　5月16日　熊本市

10. 手指衛生について
中川 祐子
エンゼル病院　院内感染対策講習会　7月7日　北九州市

11. 疾患別感染対策
中川 祐子
平成26年度 感染症対策研修会　7月19日　北九州市

12. 手洗いと吐物処理
中川 祐子
門司医師会　感染対策研修会　8月5日　北九州市

13. 在宅医療と感染対策
中川 祐子
第13回 西部地区医療安全研修会　11月11日　北九州市

14. 日常生活を見直そう
山下 奈緒
市民公開講座「糖尿病を知ろう　あなたも糖尿病予備群かも 」　12月6日　北九州市

15. 日常生活を見直そう
植田 啓子
市民公開講座「糖尿病を知ろう　あなたも糖尿病予備群かも 」　12月6日　北九州市

16. 高齢者施設における感染症対策について
中川 祐子
高齢者施設における感染症予防研修会 1　12月9日　北九州市

著書

1. 子どもの急変対応「小児病棟での急変予測と急変対応－当院におけるベッドサイド小児早期警告システムの実際」
梶原 多恵
小児看護 －へるす出版　平成26年6月
2. 部位別ドレーン管理の実際　脳室・脳槽ドレーン、胆道ドレーン
山下 亮
ナースビギンズ　看るべきところがよくわかる　ドレーン管理 －南江堂　2014
3. 看護ケア　次の一手　「胃管挿入後は、誤挿入がないか胃泡音を確認するが、胃泡音が聴取できない」
山下 亮
月刊ナーシング －学研　2014
4. 「私の忘れられない症例」
橋本 真美
エマージェンシーケア 2015 Vol.28 No.1 JANUARY 1 P65－P65 メディカ出版　2015／1

看護部院内研修

1. エンゼルケア
橋本 真美
平成25年度 第6回新規任用者研修　3月7日
2. 病院概要・看護部紹介・接遇・看護記録・事故防止・災害看護・感染管理・看護技術
山本 智美・米澤 美穂子・大塚 由美子・古川 恵子・橋本 真美・中川 祐子・行比 知子・村井 澄江
平成26年度 新規採用者入職時研修　4月1日、4月2日、4月3日
3. 病院概要・看護部紹介、医療安全、感染管理、接遇
朝久 清美、古川 恵子、中川 祐子、米澤 美穂子
平成26年度 新規採用者入職時研修（5月1日付採用者）　5月1日、5月2日
4. 看護必要度、ME機器の取り扱い、薬剤の基礎知識、ストレス・マネジメント
朝久 清美、伊香 元裕、村本 眞由美、末吉 宏成、白石 康子
平成26年度 新規採用者1ヶ月目研修　5月22日
5. 褥瘡予防、フィジカルアセスメントⅠ
福永 晶子、山下 亮
新規採用者2ヶ月目研修　6月5日
6. 病院概要、看護部紹介、接遇、医療安全、感染管理、電子カルテ操作
朝久 清美、古川 恵子、中川 祐子、林 和子
平成26年度 新規採用者入職時研修（7月1日付採用者）　7月1日、7月2日
7. 急変時の対応、BLS、ACLS、気管挿管の介助、エンゼルケア
井筒 隆博、橋本 真美
新規採用者3ヶ月目研修　7月24日

8. 医療の動向・当院の役割、感染防止、医療安全
朝久 清美、中川 祐子、古川 恵子、高澤 浩美、小林 和枝
平成26年度 第1回 看護補助者研修　9月4日、9月17日、9月18日

9. フィジカルアセスメントⅡ、リーダーシップ、医療・看護の動向、看護過程
山下 亮、高澤 浩美、山本 智美、大塚 由美子、山下 奈緒
平成26年度 院内2年目研修　9月25日

10. 病院概要・看護部紹介、接遇、医療安全、感染管理、電子カルテ操作
朝久 清美、古川 恵子、中川 祐子、林 和子
平成26年度 新規採用者入職時研修（10月1日付採用者）　10月1日、10月2日

11. 接遇
原田 かをる
平成26年度 看護部パート研修　10月3日、10月10日

12. メンバーシップ、コミュニケーションスキル、感染管理Ⅱ、医療安全Ⅱ
吉武 知美、梶原 多恵、中川 祐子、古川 恵子
新規採用者6ヶ月目研修　10月30日

13. がん化学療法看護の役割 がんと上手につきあっていくために
福永 聡
平成26年度 第1回 認定看護師主催研修　10月30日

14. プレゼンテーション
橋本 優子
看護部役割別研修　11月14日

15. 医療・看護の動向、救急・災害看護Ⅱ、看護研究Ⅰ、看護倫理Ⅱ
山本 智美、橋本 真美、井筒 隆博、井生 恭子、肉丸 綾子
平成26年度 院内3年目研修　11月27日

16. 接遇、守秘義務・個人情報保護、看護技術
兼田 朋子、朝久 清美、林 和子、中川 祐子、吉竹 洋子
平成26年度 第2回 看護補助者研修　12月10日、12月17日

検査部門

学会・研究会

1. 腎動脈エコーの実際
栗田 恵利、近藤 嗣通、吉田 裕美子、中村 尚子、松木 きみ子、原田 敬
Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement 2014　11月23日　福岡市

座長・司会

1. 松本 誠也
肝臓・胆道疾患　臨床検査と実臨床　講師　岡本 好司
北九州市臨床検査技師会研修会　7月30日　北九州市

2. 荒木 猛
肝臓・胆道疾患　臨床検査と実臨床　講師　岡本 好司
北九州市臨床検査技師会研修会　7月30日　北九州市

医療安全管理室

座長・司会

1. 古川 恵子
処方薬とお薬手帳
第12回 北九州西部地区医療安全研修会　3月5日　北九州市
2. 古川 恵子
医療安全
第28回 日本小児救急医学会学術集会　6月6日　横浜市

医療連携室

講演

1. 脳卒中を知ろう
波多野 妙
一人暮らし年長者との交流会　10月2日　北九州市
2. 脳卒中を知ろう
波多野 妙
霧ヶ丘校区老人クラブ連合会　研修会　11月10日　北九州市

著書

1. 脳卒中患者の転院支援・調整の実際と脳卒中リハビリテーション看護認定看護師などの役割
波多野 妙
地域連携　入退院支援 −日総研　2014

院内研究会

ICT講習会

1. 平成25年度 ICT活動報告
「平成25年耐性菌動向」
「指定抗菌薬使用届出状況と薬剤使用量・AUD」
「ICT活動報告」
荒木 猛、米倉 紀子、中川 祐子
平成26年度 第1回 ICT講習会　6月19日
2. 「これから流行るウイルス感染症」
松島 卓哉
平成26年度 第3回 ICT講習会　10月24日

糖尿病教室運営委員会

1. 「あなたのハートでHbA1cは変わる」
   中村 寛　12月16日

糖尿病教室

1. 「糖尿病と合併症」
   中村 寛　2月24日、3月24日、4月28日、5月26日、6月23日、7月28日、8月25日
2. 「生活・運動」
   久家 慶子、松岡 フミ、永松 真由美　2月24日、3月24日、4月28日、5月26日、6月23日、7月28日、8月25日
3. 「薬・インスリン」
   福永 竜一、田﨑 奈緒子、山本 郎子、宮野 佳子、米倉 紀子、姫野 英二、原田 桂作
   2月26日、3月26日、4月30日、5月28日、6月25日、7月30日
4. 「食事療法」
   阿南 有香、石田 綾子、梅木 加寿子　2月26日、3月26日、4月30日、5月28日、6月25日、7月30日
5. 「糖尿病とは」
   中村 寛　9月9日、9月22日、10月7日、10月21日、11月4日、11月18日、12月2日、12月16日
6. 「運動療法・フットケア」
   篠原 吉宏、高澤 浩美、永松 真由美、矢野 美佑紀、青木 悦子、大塚 由美子、木崎 早苗、原田 かをる、
   久家 憲子、藤田 佳奈　9月9日、9月22日、10月7日、10月21日、11月4日、11月18日、12月2日、12月16日
7. 「合併症と治療」
   中村 寛　9月10日、9月24日、10月8日、10月22日、11月5日、11月19日、12月17日、12月17日
8. 「低血糖・シックディ」
   永松 真由美、篠原 吉宏、澤 浩美、矢野 美祐紀、青木 悦子、大塚 由美子、木崎 早苗、原田 かをる、
   久家 慶子、藤田 佳奈　9月10日、9月24日、10月8日、10月22日、11月5日、11月19日、12月17日、12月17日
9. 「糖尿病薬について」
   宮野 佳子、田﨑 奈緒子、米倉 紀子、姫野 英二、原田 桂作、福永 竜一、毛利 由佳
   9月11日、9月25日、10月9日、10月23日、11月6日、11月20日、12月18日、12月18日
10. 「食事療法について」
    石田 綾子、阿南 有香、中尾 明奈、梅木 加寿子
    9月11日、9月25日、10月9日、10月23日、11月6日、11月20日、12月18日、12月18日

糖尿病食事会

1. 「糖尿病の実際」
   石田 綾子、阿南 有香　3月12日、10月10日
2. 「糖尿病の食事会、相談」
   中村 寛、石田 綾子、阿南 有香、中尾 明奈、梅木 加寿子　3月12日、10月10日

糖尿病栄養教室

1. 「糖尿病食事療法の古くて新しい問題」
   中村 寛　5月30日

2. 「食品交換表演習」
石田 綾子 5月30日
3. 「食事会、質疑応答」
中村 寛、梅木 加寿子、石田 綾子、阿南 有香 5月30日

アレルギー教室

1. 日常生活指導 3月20日、3月27日
橋本 優子、魚住 久美子、吉田 愛、杉田 奈都子、井生 恭子、高原 文子
2. 日常生活指導 10月16日、10月23日
橋本 優子、武谷 貴代美、吉田 愛、野上 久美子、森重 優真、山田 友美、田中 陽子、杉田 奈都子、
井生 恭子、朝久 清美
3. 食事指導 3月27日
石田 綾子、梅木 加寿子
4. 食事指導 10月23日
中尾 明奈

NSTランチタイムミーティング

1. 新しい「静脈経腸栄養カイドライン」について
金色 正広
NSTランチタイムミーティング 1月15日、1月22日
2. 費用損失と機会損失（DPC導入に向け、在院日数短縮を考える）
金色 正広
NSTランチタイムミーティング 3月4日、3月11日
3. 市立八幡病院　NST活動の紹介
金色 正広
NSTランチタイムミーティング 4月9日、4月16日
4. 市立八幡病院の食事について
梅木 加寿子
NSTランチタイムミーティング 4月23日、4月30日
5. 身体の状態をコレステロール値から読み取ろう
金色 正広
NSTランチタイムミーティング 5月7日、5月14日
6. 栄養管理とQOL
金色 正広
NSTランチタイムミーティング 10月29日、11月5日
7. がん患者の栄養管理
金色 正広
NSTランチタイムミーティング 6月4日
8. CONUTについて　東6階NSTキャンペーン報告
川崎 美代子
NSTランチタイムミーティング 6月11日

9. 東5階病棟における嚥下訓練について
山口 敦子
NSTランチタイムミーティング 6月25日

10. 周術期と栄養管理について
吉竹 重乃
NSTランチタイムミーティング 7月9日

11. 経管栄養を必要とする子どもの看護 発達障害のある患児を通して
今村 久里美
NSTランチタイムミーティング 7月30日

12. 嚥下とポジショニングについて
武田 優子
NSTランチタイムミーティング 8月13日

13. 微量元素について
深田 智美
NSTランチタイムミーティング 8月27日

14. 災害時の食品の備蓄について
梅木 加寿子
NSTランチタイムミーティング 9月10日

15. 低血糖について
永松 真由美
NSTランチタイムミーティング 9月24日

16. 小児の嚥下機能の発達、食事形態の変化
本 汐莉
NSTランチタイムミーティング 10月8日

17. 術前術後の栄養管理を含めた、術後回復能力強化プログラム（ERAS）について
桝屋 隆太
NSTランチタイムミーティング 10月22日

18. 認知症と栄養について
青木 悦子
NSTランチタイムミーティング 11月12日

19. 化学療養中の患者さんの栄養状態について 栄養サポートの試み
佐々木 知子
NSTランチタイムミーティング 12月10日

20. 簡易懸濁法について
坂本 佳子
NSTランチタイムミーティング 12月24日

医療安全管理研修会

1. 酸素療法　間違っていませんか?インスピロンの使い方!!
伊香 元裕、山下 亮
平成25年度 第7回 医療安全研修会 1月21日

2. 平成25年度 リスクマネジメント部会報告会
古川 恵子、山下 正義、高田 久子、山下 三樹、福井 季代子、神薗 淳司
平成26年度 第3回 医療安全管理研修会 10月16日

3. 血管外漏出時の対応について
福井 季代子
平成26年度 第3回 医療安全管理研修会 10月16日

4. 「医薬品安全使用のための業務手順書」の改訂について、電子カルテと医薬品安全
村本 眞由美、坂本 佳子
平成26年度 第4回 医療安全管理研修会 11月10日

5. 気道管理できていますか　体位ドレナージ・気切カニューレ交換について
高橋 倍美、山下 亮
平成26年度 第5回 医療安全研修会 12月2日

救急症例検討会

1. 多発外傷
田口 健蔵、井筒 隆博
平成26年度 第1回 救急症例検討会 5月28日

褥瘡セミナー

1. 「平成25年 褥瘡発生の現状」「平成25年 褥瘡ラウンド報告」
河本 久美子、木下 章子
平成25年度 褥瘡セミナー 3月13日

その他

1. 呼吸器外科の診療で知っておいてほしいこと
澤田 貴裕
呼吸器外科勉強会 6月2日、6月10日

2. 平成26年度 診療報酬改定について
諸熊 武史
トピックス研修 6月3日

6

委員会報告

災害対策チーム委員会

委員長：災害医療研修センター長　伊藤 重彦

災害対策チームは伊藤副院長を筆頭に各部署からメンバーが集まり、院内の災害対策全般に関わる活動を行っています。中心となるDMAT隊員に関して異動はありませんでしたが、業務調整員が許斐（放射線科）、角田（東6）の2名しかいないため、増員を検討中です。

今年の院内での活動は、6月に行った「集団災害時における消防・医療意見交換会」と12月の消防訓練、看護部の入職時研修、3年目研修、救急外来でのシミュレーション研修とやや少なめではありましたが、院外では積極的に各機関と連携し、多くの訓練・研修に参加することができました。

1月の北九州市総合防災訓練に始まり、福岡県総合防災訓練（6月・苅田）、北九州空港航空機事故対応訓練（9月）、北九州市特殊災害訓練（10月）などの地域の訓練だけでなく、8月には全国を舞台に行われた内閣府広域医療搬送訓練にもDMATを派遣しました。

研修・訓練の運営スタッフも積極的に派遣しており、医師会主催の災害医療研修会、福岡県や厚生労働省主催のDMAT隊員養成研修だけでなく、DMATの九州ブロック訓練、中国ブロック訓練、内閣府広域医療搬送訓練等、講師の派遣依頼は年々増えており、県内のみならず全国に「災害医療の八幡病院」というイメージが定着してきているようです。

来年は多数傷病者受け入れ訓練、各種マニュアルやアクションカードの改訂など院内活動を充実させる予定です。新病院に向けて災害医療をさらに発展させるべくチーム一丸となって活動してまいりますので、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

（救急科・災害医療研修センター　副センター長
田口 健蔵）

平成26年　災害訓練・研修・講義活動実績

番号	月日	内容	場所	講師	訓練・研修参加
1	1月18日	北九州市総合防災訓練	北九州市（市立総合体育館）		伊藤・田口
2	2月5～7日	DMAT隊員養成研修	西日本・神戸市	田口	
3	2月8～9日	DMAT技能維持研修	九州地区・鹿児島市	田口	深田・角田
4	2月3日	災害看護講義	八幡医師会看護専門学校	橋本	
5	2月10日	災害看護講義	八幡医師会看護専門学校	橋本	
6	2月22日	小倉医師会　災害医療研修会	北九州市（小倉医師会）	伊藤・井上・田口	橋本・中川・井筒
7	2月25～26日	日本集団災害医学会	東京（国際フォーラム）		伊藤・田口・井上・橋本・井筒
8	3月2日	福岡県医師会災害時医療救護訓練	福岡県医師会	伊藤	井上・中川・井筒
9	3月7日	災害看護講義	八幡医師会看護専門学校	田口・橋本	
10	3月15日	福岡県DMAT養成研修会	福岡県消防学校	伊藤	
11	4月2日	八幡病院看護部入職時研修　災害看護	北九州市立八幡病院	橋本	
12	4月7日	災害看護講義	北九州市立看護専門学校	橋本	
13	4月14日	災害看護講義	北九州市立看護専門学校	橋本	

番号	月日	内容	場所	講師	訓練・研修参加
14	5月9日	北九州地域DMATブラッシュアップ研修	北九州病院本部	田口・角田	
15	5月21～23日	DMAT隊員養成研修	西日本・神戸市	田口	
16	6月1日	福岡県総合防災訓練	苅田港		岩永・橋本・角田・深田
17	6月5日	Shake Hands Radio出演		田口	
18	6月6日	集団災害事故時における消防・医療意見交換会	北九州市立八幡病院		伊藤・井上・田口
19	6月19日	Shake Hands Radio出演		伊藤	
20	6月18～20日	DMAT隊員養成研修	西日本・神戸市	田口	
21	6月21～22日	DMAT技能維持研修	九州地区・福岡市	田口	伊藤・井上・深田・角田
22	7月14～15日	平成26年度統括DMAT研修	東京・立川市		田口
23	7月19日	Shake Hands Radio出演		伊藤	
24	8月6～8日	DMAT隊員養成研修	西日本・神戸市	田口	
25	8月12日	北九州空港　航空機事故対応訓練検討会議	北九州空港		伊藤・田口
26	8月29～30日	平成26年度内閣府広域医療搬送訓練	大分県	田口	井上・井筒・深田・角田
27	9月2日	北九州空港航空機事故対応訓練医療班会議	北九州空港		伊藤・田口
28	9月5日	北九州空港航空機事故対応訓練机上訓練	北九州空港		伊藤・田口
29	9月10～12日	DMAT隊員養成研修	西日本・神戸市	田口	
30	9月20日	北九州地域DMATブラッシュアップ研修	北九州病院本部	田口・角田	
31	9月22日	平成26年度北九州空港　航空機事故対応訓練	北九州空港		伊藤・田口・井上・橋本・井筒・角田
32	10月10日	平成26年度北九州市特殊災害訓練	北九州市消防局訓練センター		伊藤・田口
33	10月15～17日	DMAT隊員養成研修	西日本・神戸市	田口	
34	10月28日	北九州空港会議	北九州空港		田口
35	11月1日	第1回大分MCLSインストラクターコース		田口	
36	11月2日	第2回大分MCLS標準コース		田口	
37	11月8～9日	中国地区DMAT連絡協議会実動訓練	山口市	田口	
38	11月12～14日	DMAT隊員養成研修	西日本・神戸市	田口	
39	11月22～23日	平成26年度DMAT九州ブロック実動訓練	福岡県・久留米市	田口	
40	11月27日	八幡病院看護部3年目研修　災害看護	北九州市立八幡病院	橋本・井筒	
41	11月30日	第1回北九州MCLS標準コース	北九州市消防局訓練センター	田口・井上	橋本・井筒
42	12月1～2日	DMAT技能維持研修	九州地区・佐賀市	田口	
43	12月9日	九州歯科大学講義（災害医療）	九州歯科大学	伊藤	
44	12月19日	DMAT隊員養成研修	西日本・神戸市	田口	

ICT委員会・感染制御室

委員長：伊藤 重彦

1. 院内感染対策委員会組織

院内感染対策組織は、院内感染対策委員会、ICT委員会、リンクナース会と委員会から独立した感染制御室の4部門が連携して活動しています。ICT委員会は医師（ICD）、看護師、コメディカル代表に委託業者を加え、おもにサーベイランス分析、感染対策ラウンド、マニュアル作成などの実務を行っています。今年は電子カルテが導入されたことにより、耐性菌検出患者への感染対策状況や、院内職員への感染情報の発信がスムーズに行えるようになりました。ICTニュースを毎月1回発行しています。

2. 平成26年ICT・感染制御室活動報告

1）各種サーベイランス（図参照）
抗菌薬のAUDの推移、耐性菌検出状況については図をご参照ください。昨年末よりカルバペネム系抗菌薬の使用が増えていますので注視していきます。耐性菌ではメタロβ耐性菌分離が2件散発してありました。引き続き抗菌薬AUDと耐性菌検出状況の推移を監視していきます。

2）手指消毒剤使用量調査（図参照）
2014年7月より手指消毒剤の使用量調査を開始しました。1日1患者あたりの手指消毒回数の推移を毎月1回ICTニュースとして報告しています。各部署の状況を知ることで、職員の手洗い意識の向上に繋げています。

3）八幡地区で集団赤痢が発生し、当院に外来受診患者が集中しました。本件を契機に、外来体制の見直し、保健所との円滑な情報伝達システムの構築を行いました。マニュアルも新たに作成しました。

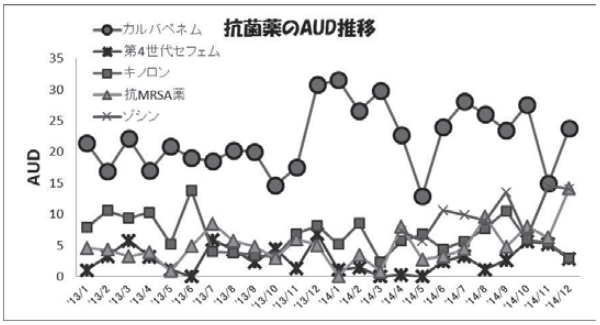
4）電子カルテ導入に伴うキーボード汚染防止のため、パソコン周囲には新たにジェルタイプの手指消毒剤を導入しました。

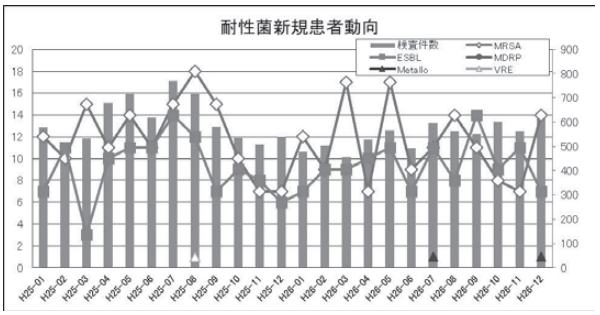
3. 2015年度の活動目標

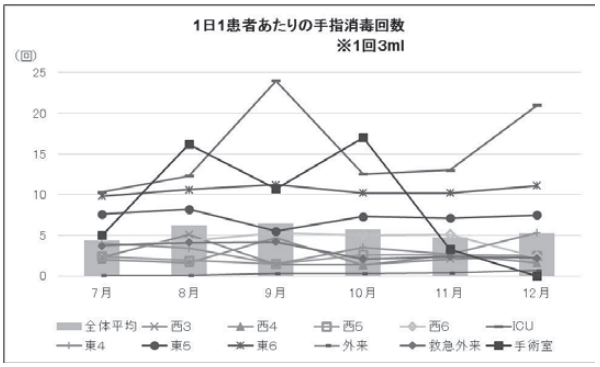
1）八幡病院感染制御室が事務局となって、すべての市職員を対象として感染対策研修会を開催します。

2）リンクナース会活動として、現場で感染対策の実践と指導ができる人材を育成します。

3）手洗いキャンペーンや地域連携活動を通して、院内職員だけではなく、患者家族まで対象を広げ、感染予防対策の啓発に努めていきます。







（感染制御室　中川 祐子）

臨床検査部門委員会

委員長：野口 雅夫

1、臨床検査部門委員会の紹介

臨床検査部門委員会は、当院の臨床検査部門の向上に係る事項等について審議するため、2か月に1回のペースで会議を開き活動しています。

臨床検査部門委員会の平成26年度のメンバーは、委員長として野口雅夫副院長、委員として伊藤光佑内科部長、小住清志循環器内科部長、石橋紳作小児科部長、野口純也外科部長、氏福健太脳神経外科部長、森下直由泌尿器科部長、朝久清美副看護部長、米澤美穂子看護師長、佐藤奈々絵看護師長、池田稔医事係長、宮本征美臨床検査総技師長、中村尚子臨床検査技師長、松本誠也臨床検査技師長、久野淳二臨床検査担当係長で構成されています。

2、臨床検査部門委員会の活動状況

2014年の臨床検査部門委員会の主な議題は以下の通りでした。

・第67回部門委員会（平成26年2月5日）
議題：①新病院へ向けた検査体制について、②電子カルテの導入について、③検査システム（A&T）のバージョンアップについて、④その他（医療センターでのGH測定中止等）

・第68回部門委員会（平成25年4月16日）
議題：①新病院・電子カルテ等に向けた取り組みについて、②Dダイマーの夜間・休日測定について、③検討中の項目について、④生理検査の機器変更等について、⑤その他

・第69回部門委員会（平成25年6月4日）
議題：①電子カルテ導入へ向けた諸課題（血沈、小児科感染症キットの検査科での実施等）、②その他

・第70回部門委員会（平成25年8月6日）
議題：①電子カルテ導入後の諸課題、②検査集約体制見直しへ向けた課題（腫瘍マーカー・甲状腺の迅速加算、プロカルシトニン等）③検討中の項目について（T-CHOの夜間・時間外の実施、プレセプシン等）、④その他（採血管の分離剤不良品の見分けのためメーカーより写真を取り寄せる件等）

・第71回部門委員会（平成25年10月1日）
議題：①集約体制見直しへ向けて（12月2日より腫瘍マーカーの一部、甲状腺、プロカルシトニン、プレセプシンを院内測定化）②電子カルテ導入後の諸課題（病理・細菌検査の結果報告のお知らせ、結核菌特異的INF-γにおけるT-SPOTとQFTの区別、緊急検査セットにALP、γ-GTPを追加することの検討）、③新病院ワーキンググループの取り組みについて、④その他

3、今後の方向性

平成26年は、Dダイマー及びの夜間・休日測定を開始し、DICの迅速な把握に向け検査体制を拡充しました。また電子カルテの導入に伴い、血沈やウィルス感染症キットを検査科で実施する等、検査システムを全面的に見直しました。合わせてNST（栄養サポートチーム）の関連で総コレステロールの夜間・休日測定を開始しました。さらに医療センターへの検査集約体制の見直しの一環として、免疫項目（腫瘍マーカーの一部、甲状腺マーカー）を院内で測定し、迅速加算の取得による増収を図りました。懸案だったプロカルシトニン、プレセプシンについても、院内での測定を開始しました。肝炎ウィルスマーカー、梅毒検査についても、平成27年1月からの院内化へ向けデータ検討等を行いました。新病院基本計画のワーキンググループにも取り組み、ワンフロア体制の確立へ向け意見を出しました。今後、電子カルテ導入後の諸課題の解決や、新病院基本設計へ向けたレイアウト作成等、臨床検査体制のさらなる充実が課題となっています。

（臨床検査科　松本 誠也）

輸血療法委員会

委員長：野口 雅夫

1、輸血療法委員会の紹介

輸血療法委員会は規約により「血液製剤の安全かつ適正な運用」「血液製剤の管理」「血液製剤使用による事故防止」等について審議するため、2か月に1回のペースで会議を開き活動しています。

輸血療法委員会のメンバーは、委員長として野口雅夫副院長、副委員長として金色正広麻酔科部長、各委員として診療科医師より神薗淳司小児科主任部長、伊藤光佑内科部長、野口純也外科部長、岩永充人脳神経外科主任部長、田中尚洋整形外科部長、薬剤科より姫野英二薬剤師、看護科より永井文恵看護師長（OPE）、小林知枝看護師長（ICU）、古川恵子安全管理担当課長、事務局より高橋浩管理課長、臨床検査科より宮本征美総技師長、實藤清美技師で構成されています。

2、輸血療法委員会の活動状況

2014年の輸血療法委員会の主な議題は以下の通りでした。

・「平成25年度第5回輸血療法委員会」（1月10日）
議題（1）輸血用血液製剤使用実績、（2）O型緊急輸血について、（3）赤血球製剤販売名変更について･血小板セット変更について、（4）輸血実施手順書の改定について、（5）その他

・「平成25年度第6回輸血療法委員会」（3月7日）
議題（1）輸血用血液製剤使用実績（2）電子カルテ輸血部門における了承項目（3点チェック、同意書の期限、副作用報告にともなう製剤バッグ返品、単位数、製剤照合パターン等）、（3）クロスマッチ用採血管について（7.5mlEDTA入り）、（4）術中にアルブミナーを使用する際のマニュアルについて

・「平成26年度第1回輸血療法委員会」（5月2日）
議題（1）輸血用血液製剤使用実績、（2）血液製剤の薬価改定について、（3）クロスマッチ用採血管の変更について、（4）その他（FFP製剤取扱いの注意）

・「平成26年度第2回輸血療法委員会」（7月4日）
議題（1）輸血用血液製剤使用実績、（2）輸血実施手順書の改定について、（3）赤血球製剤の名称変更について、（4）その他（急患室･小児科についてクロスマッチ･2回目血液型採血の運用を検討中）

・「平成26年度第3回臨時輸血療法委員会」（7月28日）
議題（1）電子カルテにおける輸血オーダーについて

・「平成26年度第4回輸血療法委員会」（9月12日）
議題（1）輸血用血液製剤使用実績（2）輸血実施手順書の改定について、（3）その他（電子カルテにおける輸血オーダーについて「緊急Ⅳ」を追加する件）

・「平成26年度第5回輸血療法委員会」（11月7日）
議題（1）輸血用血液製剤使用実績、（2）緊急Ⅰ輸血報告、（3）緊急Ⅳ輸血の運用について、（4）その他（クロス採血時の患者取り違い事例について）

3、今後の方向性

平成26年の活動では、電子カルテ導入に伴う輸血システムの全面的見直しに取り組み様々な対応策を講じました。今後も、電子カルテ導入後の諸課題と共に、輸血検査機器の設置に伴う諸課題など、輸血の安全性と適正使用のさらなる向上に取り組んでいきます。

（臨床検査科　松本 誠也）

広報委員会

委員長：伊藤 重彦

1. 委員会紹介

委員長である副院長を筆頭に、医師、薬剤師、臨床検査技師、臨床放射線技師、看護師、事務職員など、他職種にわたる総勢26名で構成されている。効果的な広報活動のため3班で取り組んでいる。

2. 広報誌「さらくら」班

地域の各医療機関を対象に、年3回発行を行っている。主な内容は以下の通りであった。

「さらくら第17号」（2014年1月18日発行）

- 連携医療機関のご紹介：あまもと小児科医院様
- 特集：北九州市立八幡病院災害医療研修センター発足から2年間の活動報告
- 新機種紹介:フラットパネル（FDP）

「さらくら増刊号」（2014年1月31日発行）

- NBC災害に備える市立八幡病院の除染設備について
- 小児領域のワクチンの現状と当院小児科の役割
- 手掌多汗症に対する胸腔鏡下交感神経切断術
- より自然な立体感をめざす私の口唇裂手術

「さらくら第18号」（2014年4月1日発行）

- 連携医療機関のご紹介：三浦医院様
- 特集：アルツハイマー型認知症におけるVSRAD検査の有用性
- 新検査紹介：FMD検査

「さらくら第19号」（2014年10月10日発行）

- 連携医療機関のご紹介：香林会 香月中央病院様
- 患者満足度調査
- 新任部長紹介

（放射線技術課　辰本 直久）

3. 広報誌「やはた病院ニュース」班

患者･家族の方々を対象とし、年4回の発行を行っている。主な内容は以下の通りであった。

「やはた病院ニュース第34号」

（2014年2月24日発行）

- あなたの足の血管は大丈夫？
- 巻き爪　陥入爪を防ぐ爪のケア
- 新検査紹介　FMD検査

「やはた病院ニュース第35号」

（2014年4月28日発行）

- 新任医師紹介
- 膝の痛み（マラソン編）
- ホワイトニング

「やはた病院ニュース第36号」

（2014年7月28日発行）

- 緊急時の対応　あわてない！突然意識をなくして倒れた時の対応
- バランスの良い食事
- 開放病床の紹介

「やはた病院ニュース第37号」

（2014年10月27日発行）

- 人類の進化と2型糖尿病
- 糖尿病治療薬の話
- 糖尿病の運動療法

（看護部　小玉 久美）

4. WEB／年報　班

1）病院ホームページ更新

八幡病院のホームページ（htpp://www.yayatahp.jp/）は広報委員会WEB担当班により毎月更新されている。ソフトウエアはBiND6.5を使用している。また、レンタルサーバーは総合医局で以前から契約していたサイトで独自ドメイン（www.yahatahp.jp）にて運用している。

近年、患者本人の年齢に関係なくインターネット上で病院のホームページを参照してから受診される患者が多くなったと感じる。本人がネットを使うことができなくとも、子どもや孫がネット上で下調べをして病院を決めたりしていると思われる。病院ホームページの内容を充実させることは病院経営上重要である。以下、2014年における当院ホームページ主な更新について記す。

①外来担当表更新：随時
②患者さんの声更新：毎月
③広報誌（八幡病院ニュース、さらくら）のPDFファイルを掲載：随時
④新北九州市立八幡病院基本計画について掲載：6月27日
⑤診療年報第2号（2012年）PDFファイルを掲載：7月20日
⑥平成26年度救急功労者表彰（総務大臣表彰）掲載：9月23日
⑦エボラ出血熱に対するPPE着脱の実際と防護の考え方（PDFファイル）を掲載：12月14日
⑧各診療科・部門のスタッフ・掲載内容の更新：春、秋　2回

2）診療年報発刊

診療年報第3号（2013年）は2014年末に発刊となった。なんとか年末までに発刊することができたが、まだ時間がかかっている現状である。

業績集については、従来より各診療科・部門にて記載された業績リストの記載形式がばらばらだったことで編集にかなり時間を要していた。前回より各科・部門にファイルメーカーファイルを配布しデーターベース入力による提出とした。しかしながら、すべてのファイルを統合する作業も繁雑であった。そのため今年からは院内LANや電子カルテネットワーク上のファイルメーカーサーバーに各科・部門ごとに直接入力するようした。この方法によって業績集の編集作業に要する時間がかなり短縮されたと感じる。

今後も診療年報の早期発刊を志していきたい。

（外科主任部長　木戸川 秀生）

リスクマネジメント部会

リスクマネジメント部会長：野口 雅夫
医療安全管理担当課長：古川 恵子

リスクマネジメント部会の2014年の実績を紹介する。毎月、インシデント・アクシデント報告の検討や医療安全に関する改善事項の検討、医療安全情報の発信などを行っている。

インシデント・アクシデント報告件数は年間745件で毎月平均約62件であった。

内訳は看護科81%、薬剤科・栄養管理係6%、診療放射線科5%、医局1%、臨床検査科1%であった。このデータは年1回病院局の包括公表時に報告されている。

院内でも毎年、報告会が開催され、各部門がインシデント・アクシデント報告の原因分析・改善策を提示し、情報の共有は勿論、再発防止に取り組んでいる。

部会の下部組織として医療安全ワーキンググループ活動を行っており、医師をリーダーとして、看護師・コメディカルが招集、事例の検討や患者誤認防止チームと転倒転落防止チームに分かれて活動している。

また、呼吸ケアチームは呼吸器内科の医師を中心に呼吸療法認定士である看護師、理学療法士、臨床工学技士が、人工呼吸器の離脱を目的とした呼吸ケアラウンドを実施している。その他、研修会の開催、コンサルテーションなど呼吸ケアに関する安全管理や質の向上に取り組んでいる。

その他、毎月、院内ラウンドを多職種で実施し、インシデント・アクシデント報告内容の確認や各部署の問題点の抽出、改善策や対応を確認した。

11月には、医薬品安全管理ワーキンググループが部会として発足し、薬剤師を中心に、医師、看護師、臨床検査技師、放射線技師等が、医薬品の安全使用のための情報共有や医薬品安全ラウンドを実施している。

患者さんが安全で安心な入院生活がおくれるよう、今後も組織全体で継続した取り組みが必要と考える。

最後に、医療安全管理研修会では、年7回の研修会とDVD研修会を開催し、職員の医療安全に関する意識の向上に努めている。

今後も、患者・家族及び職員の皆様の期待に応えられるよう、部会としての活動を通じて、医療安全の推進・医療安全の醸成に向かって取り組んで行きたい。

医療連携室運営委員会

委員長：太﨑 博美
副委員長：﨑田 幾子

1　委員会の概要

当委員会は、医療連携室長である副院長を委員長とし、医師、診療放射線技師、理学療法士、看護師、社会福祉士、事務職員の総勢22名で構成され、地域医療機関および関係機関との連携に関する事項を審議しています。

2　活動状況および実績

平成26年度は地域支援病院の取得を目指した紹介・逆紹介率の向上、とびうめネット（福岡県医師会診療情報ネットワーク）への参加、在宅療養後方支援病院の取得を目標に活動いたしました。

1）医療機関訪問

地域の医療機関との連携強化において、院長をはじめ幹部職員による医療機関訪問を精力的に実施し、「顔の見える連携」に努めてまいりました。訪問件数は678件、うち幹部職員による訪問は184件でした。

2）紹介率・逆紹介率

平成26年４月より診療報酬の改定にともない算定方法が見直され、初診患者数から救急搬送患者が除かれることとなりました。その結果、平成25年度の紹介率59.9％から平成26年度は43％と減少し目標値50%には届きませんでした。しかし逆紹介率については、逆紹介件数の増加に相乗し、平成25年度の45.4%から平成26年度は78.9%と上昇しており目標値70%を上回りました。

3）とびうめネット

平成26年７月より緊急医療支援システムの電子情報ネットワークである「とびうめネット」に参加し、救急患者の円滑な受け入れに努めています。緊急時入院希望病院として平成26年12月現在、若松区の患者さん24名に登録いただいております。

4）在宅療養後方支援病院

平成26年10月に「在宅療養後方支援病院」を取得いたしました。在宅医療を提供する医療機関と連携し、入院希望登録患者さんの緊急時に24時間受け入れ可能な体制を確保し、在宅医療を支援しています。平成26年12月現在、３名の在宅療養患者さんに登録いただいております。

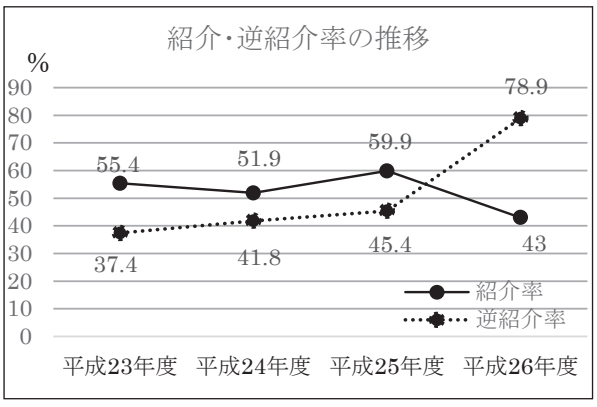
5）登録医

当院は開放病床5床を設置しています。平成25年度より地域の医療機関の先生方に開放病床や施設・設備の共同利用の登録医申請をいただいております。平成26年度は新規に６名の先生方に登録していただき、平成26年12月現在、登録医数は129名となりました。多くの先生方に開放病床をご利用いただき地域の医療機関との連携を密にしたいと考えています。

3　今後の課題

地域医療支援病院の取得要件である紹介率50%を目標に、連携室を通じた地域医療機関への紹介状依頼や外来患者の積極的な逆紹介等の促進方法を検討していきます。また、地域の医療従事者を対象とした研修会の実施、登録医の勧誘や開放病床の利用促進、さらには「宅療養後方支援病院」および「とびうめネット」の患者登録数増加の対策検討に努める必要があります。

地域包括ケアシステムの構築が提唱される中、急性期病院としての役割を十分に果たせるよう今後もさらに委員会活動の充実を図り、連携強化に努めてまいります。



リハビリテーション部門委員会

委員長：野口 雅夫

当委員会は、リハビリテーション室の円滑な運営を協議するため設置されました。

その目的は、

(1) リハビリテーション部門の体制を確立する。
(2) リハビリテーション部門を担当する医師、専門職種間の連携、協力体制を整備する。
(3) リハビリテーション部門の業務改善をする。

というものです。(以後リハビリテーションをリハと略す)

これまで、病院機能評価を見据えての改善を行ってきました。

野口副院長を委員長とし、構成員は、辻(整形外科主任部長)、越智(統括部長)、末永(内科主任部長)、田中(循環器内科部長)、山吉(外科部長)、岡上(歯科主任部長)、八坂(小児科部長)、津田(東5病棟看護師長)、大塚(西5病棟看護師長)、高澤(西6病棟看護師長)、秋月(庶務係)、井上(理学療法士長)、須崎(理学療法士)、その他委員長が必要と認める者です。

2014年は3回開催し、業務の改善などを検討してきました。

以下にその主な議題を箇条書きにします。

(1) 年末年始、ゴールデンウィークの長期休暇期間のリハ対応について説明を行い、実施後の反省を行った。
(2) 全科からリハ指示箋を直接受ける方向で検討し、承認された。
これに伴い、当委員会に小児科、外科医師の参加を求めた。
(3) 口腔ケアの必要性を考え、歯科医師の当委員会への参加を求めた。
(4) 心大血管リハビリテーション(離床など)の開始のお知らせを行った。理学療法士、作業療法士の専任登録を行い対応することとなった。
(5) H26年度診療報酬改定(リハに関する内容)についての説明を行った。
脳血管疾患リハビリテーション料(Ⅱ)
200点・廃用症候群146点
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)180点
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)175点
心大血管リハビリテーション料(Ⅰ)205点
など
(6) 電子カルテになってからの問題点について検討を行った。
(7) 今後のリハ室のあり方についての検討。現状説明と新病院に向けての計画的な増員についての考えを伝えた。

今後の方向

心大血管リハへの適応拡大や言語聴覚士(ST)の採用、「がん患者リハビリテーション」の施設基準取得など、リハビリテーション部門のさらなる充実を図るため、諸問題を検討し改善していきます。

(理学療法士長　井上 裕子)

クリニカルパス委員会

委員長：木戸川 秀生

年間の活動

●平成26年1月～6月　電子カルテクリニカルパスワーキンググループでの活動

●平成26年7月31日　平成26年度第1回クリニカルパス委員会

胸部大手術クリニカルパス（呼吸器外科）→修正後承認

電子化以降のクリニカルパス承認方法について事前にメールと文章で通知すること

電子化以前のパスの電子化する際は持ち回りで承認

患者パスと入院診療計画書の兼用を中止

●平成26年11月20日　平成26年度第2回クリニカルパス委員会

新規クリニカルパス（腹壁瘢痕ヘルニアパス　前日入院と3日前入院）の検討 パスマニュアルを改訂すること パス大会を来年2月におこなう

電子カルテ導入について

2014年6月30日念願の電子カルテが導入された。投入前の準備から、導入後は紙ベースで運用していた既存のパスを電子化することが課題となった。

2014年末までに電子化されたパスを示す（表1）

展望

2014年は電子カルテ導入に伴う準備に忙殺され、パス委員会は2回、パス大会なしと、委員会の活動としては低調であった。また新しく作成したパスも2件と低調であった。 電子カルテ導入が一段落した2015年は新たなパス導入を増やしていきたい。またパスを使用している部署が一部の診療科に偏っているのも問題である。パスを普及させるためにはパス大会を年に最低1度、さらにパスに関連した講演会や勉強会を開くなどの工夫をしたい。

診療科	番　号	パス名	備　考
外　科	D-001	腹腔鏡下胆嚢摘出術（前日入院）	
	D-002	大腸内視鏡・ポリープ切除	
	D-009	結腸切除術	
	D-010	肝動脈塞栓化学療法	
	D-011	腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術（3日前入院）	
	D-012	胸腔鏡下交感神経切除術	
	D-014	腹腔鏡下腹壁瘢痕ヘルニア根治術（前日入院）	
	D-015	胸部大手術	
	D-016	胸部小手術	
	D-017	腹腔鏡下胆嚢摘出術（3日前入院）	
	D-020	腹腔鏡下腹壁瘢痕ヘルニア根治術（3日前入院）	
	D-018	腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術（前日入院）	
形成外科	G-001	顎裂	
	G-002	口蓋裂（Push Back法）	
	G-003	片側口唇裂	
	G-004	両側口唇裂	
	G-005	副耳（2泊3日）	
	G-006	副耳（1泊2日）	
	G-007	口蓋裂（Furlow法）	
	G-008	顎裂（金曜日入院）	
	G-009	口蓋裂（Push Back法）金曜日入院	
	G-010	片側口唇裂（金曜日入院）	
	G-011	両側口唇裂(金曜日入院)	
	G-012	口蓋裂（Furlow法）金曜日入院	
	G-013	口蓋裂（Push Back法）2日前入院	
小児科	C-004	低身長性差クリニカルパス	
眼科	K-001	白内障手術クリニカルパス（3泊4日）	
	K-002	白内障手術クリニカルパス（2泊3日）	

（表1）

褥瘡対策委員会

委員長：田崎 幸博

1. 褥瘡対策委員会について

八幡病院褥瘡対策委員会は、院内褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図る目的で、形成外科主任部長を委員長とし、看護師、薬剤師、管理栄養士、事務局のメンバーで構成されている。また、平成26年度からは皮膚・排泄ケア認定看護師がメンバーに加わったことで、専門的な視点での褥瘡対策に関する情報収集と分析、褥瘡予防対策の実施および指導ができている。また、今年度は、電子カルテの導入により、褥瘡を有する患者やリスク状態にある患者の把握が容易になり、褥瘡の状態を部署間でも共有することができるようになった。

2. 活動について

毎月、褥瘡有病率と褥瘡推定発生率を集計し、新規褥瘡発生者やリスク状態である患者の予防ケアについての討議を行った。また、定期ラウンドを行い、褥瘡予防策の実践状況を確認し改善に努めた。褥瘡対策セミナーでは、褥瘡発生に関する統計を発表し、皮膚・排泄ケア認定看護師により、マットレスやエアーマットの特性や選択方法に関する講習会を実施した。

3. 平成26年の褥瘡発生状況

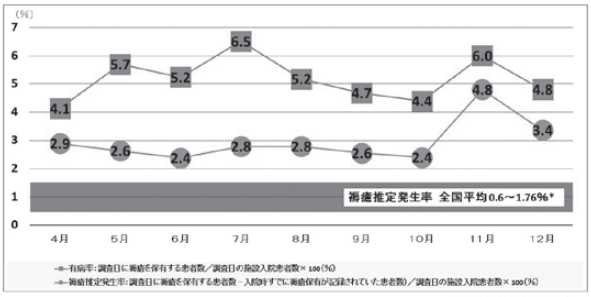
褥瘡有病率は平均6.0%で、ガイドラインの標準値0.9～3.32%と比較するとかなり高い値であった。また、褥瘡推定発生率については平均3.3%であり、ガイドラインの標準値0.60～1.76%と比較してもかなり高い値であった。褥瘡推定発生率を部署別に見ると西6階病棟、集中治療室で多かった（図2）。新規褥瘡発生部位では、褥瘡好発部位である仙骨部が39%と最も多く、次いで背部、臀部と多かった（図3）。新規褥瘡発生時のステージ分類では、ステージⅡでの発見が多く59%を占めており、ステージⅢで発見される例も見られた（図3）。

4. 今後の方向性

個々の患者のリスク状態について分析することで、患者に応じた体圧分散用具の使用やケアなどの褥瘡予防対策を実施し、褥瘡推定発生率の低減を目指していきたい。

（看護部　津田 昭代　中川 祐子）

図1　当院の褥瘡有病率と褥瘡推定発生率



* 日本褥瘡学会：褥瘡ガイドブックより

図2
部署別　褥瘡有病率と褥瘡推定発生率の平均値
（平成26年4月～平成26年12月）

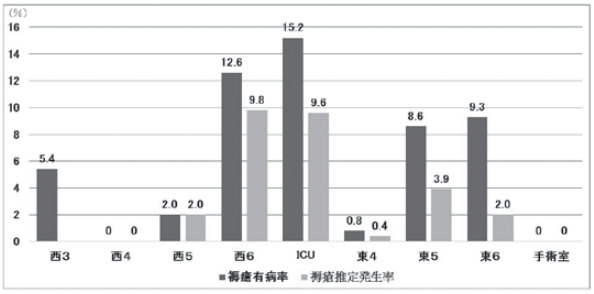
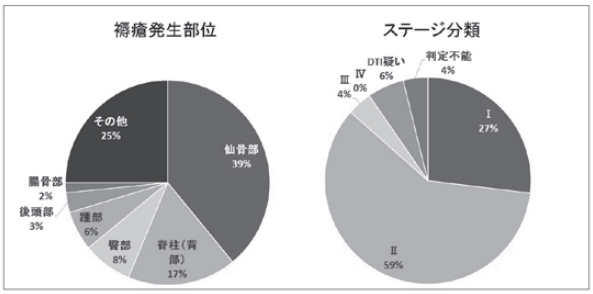


図3　新規褥瘡発見時の褥瘡部位とステージ分類



臨床研修管理委員会

委員長：岡本 好司

1　はじめに

医師法により、診療に従事しようとするすべての医師は、臨床研修を受けなければならないこととされ、適切な指導体制の下で、医師としての人格を涵養し、プライマリ・ケアを中心に幅広く医師として必要な診療能力を効果的に身に付けるとされています。

当院における臨床研修は、将来初期診療（プライマリ・ケア）に対処しうる第一線の臨床医、あるいは高度の専門医を目指す臨床医にとって必要な基礎的知識、技能、及び態度を実地に習得させることを目的とし、また、全人的医療の観点から患者の問題を医学的のみならず、心理的、社会的に捕らえ、正しい人間関係のもとに医師としての倫理責任感を養うことを目標としています。

臨床研修管理委員会は、研修の進捗状況を把握・評価するため、岡本統括部長を委員長とし、17診療科全主任部長により構成されています。全診療科が関わることで診療科の垣根を越えた指導を行うことができ、また、研修医が気軽に上級医に相談しやすい環境を整えています。

2　活動状況

(1) 研修医の指導

現在、当院採用の臨床研修医がいないため、協力型臨床研修指定病院として近隣関係病院の研修医の指導を行っています。2014年度は、産業医科大学病院、健和会大手町病院、戸畑共立病院、福岡新水巻病院より、9名の初期研修医を循環器内科、外科、小児科で受け入れました。後期研修医は、小児科を中心に11名受け入れを行い、研修をしていただきました。

(2) 臨床研修医確保に向けた取り組み

臨床研修医を取り巻く環境は年々厳しくなっており、医学生にとって魅力ある病院のPR、研修体制作りが重要になっています。臨床研修医を確保するため、民間事業者が開催する臨床研修合同説明会に参加し広く当院を知っていただくためのPR活動を行いました。

＜2014年3月2日開催：レジナビフェア2014 in 福岡＞

マリンメッセ福岡で開催された合同説明会に太﨑副院長、小児科天本主任部長、神園主任部長、救急科田口部長、小児科後期研修医増井医師、事務局職員で参加しました。

当院のブースには21人の医学生・研修医の訪問があり、見学希望の学生もありました。

＜2014年6月15日開催：
マイナビレジデントFESTIVAL＞

ホテルオークラ福岡にて開催された合同説明会に岡本統括部長、事務局職員で参加しました。

当院のブースには43人の医学生の訪問があり、北九州にゆかりのある医学生を中心に話を聞きに来られました。

3　今後の取り組み

2016年の臨床研修医採用に向けて、2015年に基幹型臨床研修指定病院の指定申請を行い、再び当院自前の臨床研修医の獲得を目指す予定です。

（文責　岡本 好司、原 泉）

診療材料委員会

委員長：伊藤 重彦

1　はじめに

北九州市立八幡病院における診療材料の適正かつ効率的な運用を図るため、平成8年に診療材料委員会を設置しました。

当委員会は、委員長の副院長を筆頭に、医師、看護師、検査技師、薬剤師、事務の20名で構成され、新規診療材料の採否や既存の診療材料の見直し等について審議を行っています。

2　活動状況

毎月1回開催する委員会では、安全面、コスト面での効果が期待できる等の理由で申請された約100品目の診療材料について審議・採用しました。

採用に当たっては、昨年に引き続き以下の観点でチェックを行い、委員会として経営改善に貢献できるよう努めています。

・収益的観点（採用に伴い新たに想定される手技等の有無、償還価格の有無等）
・費用的観点（市場価格との比較、償還価格との比較等）
・効率的観点（現行品との切り替え、採用品の集約等）

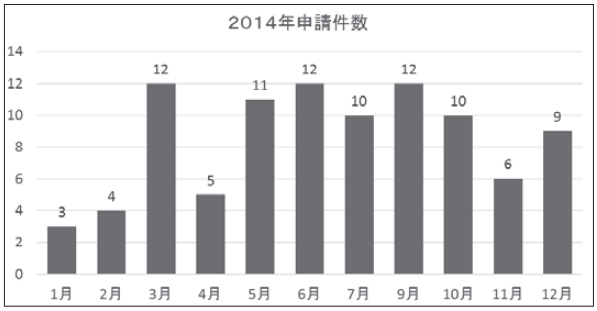
3　今後の取り組み

診療材料については、直接患者さんの身体に接するため、新たな採用にあたっては様々な視点で検討をする必要があります。また、毎日の診療に供するものであるため常にコスト意識を持って使用していかなければなりません。

日々進化する診療材料を活用しより安全で効果的な治療が出来るよう引き続き活発な意見交換を行い改善していきたいと考えています。

【活動実績（2014年1月～12月）】

(1) 申請件数



(2) 申請部門

申請月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	計
内科									3			3
循環器内科		2			1	3		5		3	2	16
外科					3		1	1	2		2	9
整形外科				2								2
小児科		1										1
脳神経外科				3								3
形成外科	1				1			1				3
放射線科	1							1				2
麻酔科			3			1						4
救急科							1					1
看護科					1			1			1	3
薬剤科			1									1
臨床検査科		1	8		5	1	6	3	3	3	1	31
放射線科(技師)									2			2
手術室											2	2
中央材料室	1											1
ICT						7	2				1	10
計	3	4	12	5	11	12	10	12	10	6	9	94

(3) 診療材料委員会における取り組み

経費削減のため、より安価な材料への切り替えを実施。

・タオルペーパー　（削減効果額：△約80万円）
・アルコール綿　（削減効果額：△約12万円）
・ディスポーザブルSPO2センサー
（削減効果額：△約250万円）

（文責　事務局　企画係　原 泉）

センター連絡会議

議長：伊藤 重彦

八幡病院センター連絡会議は、毎週火曜日朝に開催され、院内および地域の救急医療システム全般に関する協議を行う会議である。院長を除く幹部、各部署実務責任者が参加し、救命センター、小児救急センター受診・入院状況等に関する週間報告を行っている。

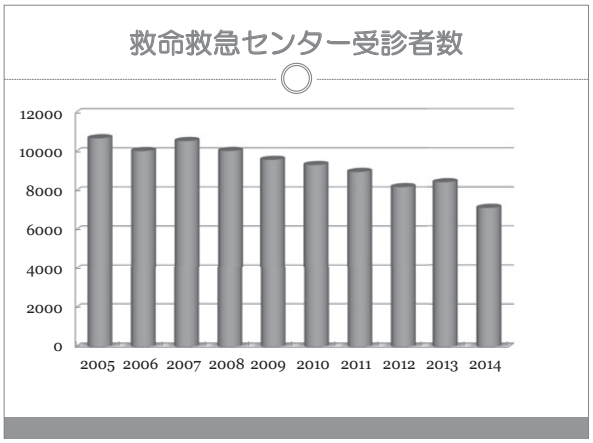
1. 週間報告
- 救急外来受診患者・入院患者動向
- 第二夜間休日急患センター、輪番日紹介患者
- 救急車受入れ状況と救急車応需率
- ICU、小児病棟、救急病棟の入退室状況
- ドクターカー出動事案、警察対応事案
- CPA患者の概要

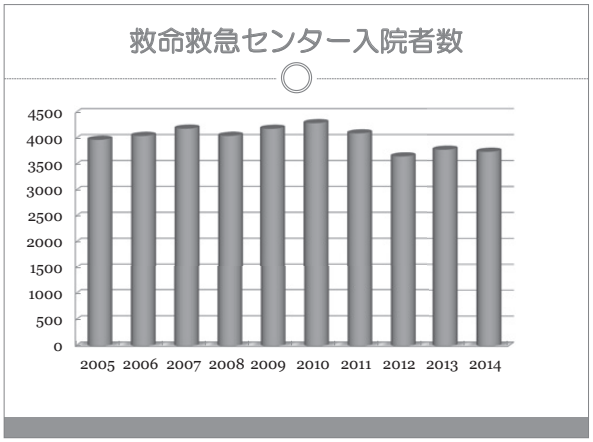
2. 平成26年協議事項
- 市内で発生した集団赤痢に対する外来対応
- インフルエンザアウトブレイクに対する外来対応・面会者対応
- エボラ疑似患者に対する外来対応
- 時間外の院内急変に対する対応

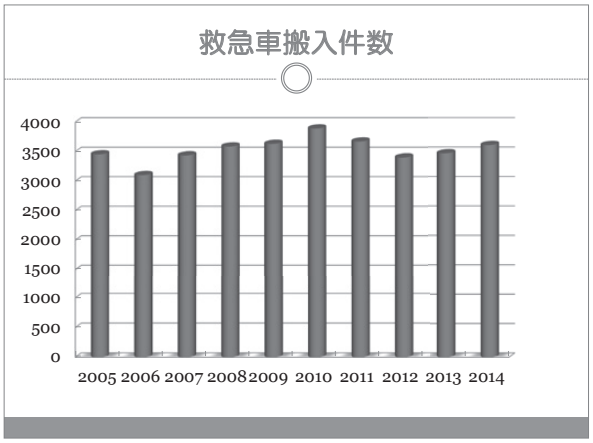
3. 平成26年救急概要

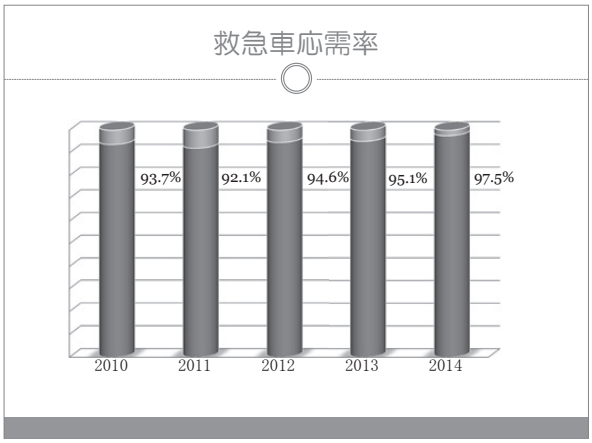
平成26年1月～12月までの救命救急センター概況

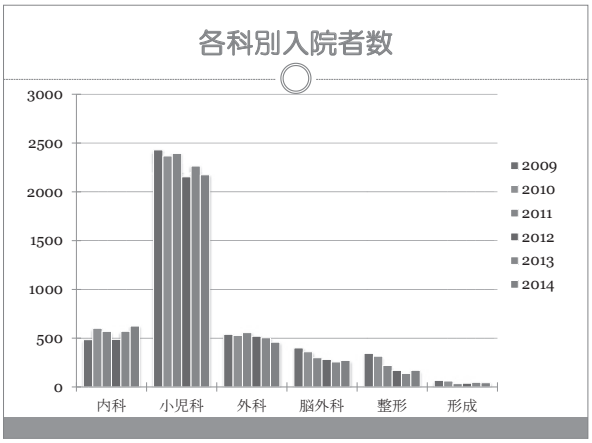
※スライドで提示しています

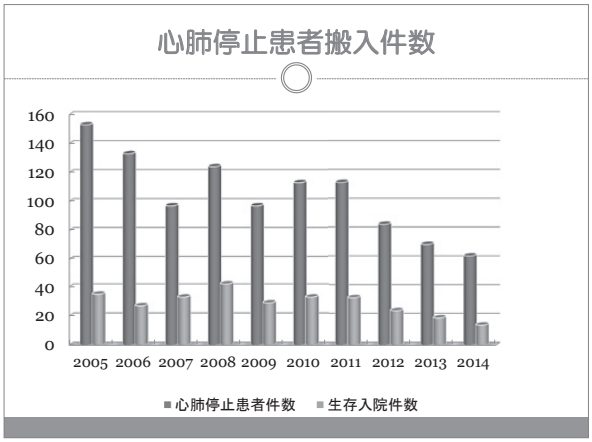


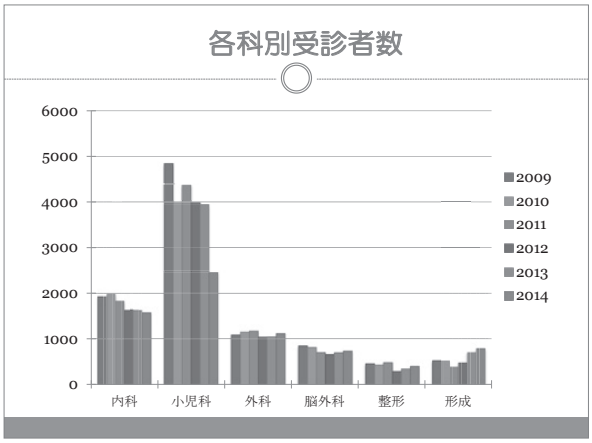





救急車応需率
93.7%
92.1%
94.6%
95.1%
97.5%
2010
2011
2012
2013
2014


各科別入院者数
3000
2500
2000
1500
1000
500
0
内科
小児科
外科
脳外科
整形
形成
2009
2010
2011
2012
2013
2014


心肺停止患者搬入件数
160
140
120
100
80
60
40
20
0
2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014
心肺停止患者件数
生存入院件数


各科別受診者数
6000
5000
4000
3000
2000
1000
0
内科
小児科
外科
脳外科
整形
形成
2009
2010
2011
2012
2013
2014

電子カルテ委員会

委員長：太﨑 博美

前年度に採用電子カルテ機器が東芝HAPPY ACTISに決定したことを受けて、26年度は、6月30日使用開始を目標に準備を進めました。まず、前年度から開始していた運用と電カルのための各ワーキンググループの話し合いを基礎に、“八幡病院”仕様をパッケージの許される範囲で、麻生情報システム、東芝との間で作り込みました。とりわけ、各部署での運用手順の統一化を電子カルテの組み立てと共に行いました。

6月7日（土）と14日（土）に リハーサルを行いました。それぞれ10時から13時の予定時間でしたが、準備や延長、終了後の反省会など実働時間はほとんど1日に及び各部署には大変な協力を頂きました。一回目のリハーサルでは、ほとんどの部署で、運用と電子カルテ自体への不慣れによる患者役の停滞があり、数百の問題点が提出されました（半数は、運用問題でした）。幸い、二回目のリハーサルでは、かなりの問題が解決され患者役の停滞も有りませんでした。これにより6月30日の運用開始が決定しました。

八幡病院の電子カルテは、6月30日まず深夜0時からの病棟運用で始まりました。救急外来は紙カルテ運用（スキャナー使用）も可能というスタンスで開始しましたが、スタッフのがんばりで、ほぼ全ての記載を電子カルテで行うことができました。一般外来も東芝の手厚いヘルプのお陰もあり大きな混乱は有りませんでした。その後も予想していなかった多くの電子カルテ上の問題や運用上の問題が起こりましたが、電子カルテ委員会を中心に解決してきました。現段階で、一月ごとの委員会開催にて問題処理や定期的な問題（1年ごとのアップグレード）に対応しています。

まだ、電子カルテ導入後一年も経過していない段階ですが、順調な運用が出来ていると思います。導入や運用に尽力して頂いた皆さんへ感謝すると共に今後も患者診療に電子カルテの利点を最大限に活かしていけるように委員会で話し合っていきます。また、医事会計、DPCや病床運営、病診連携などの様々な領域で電子カルテデータの解析を通じて八幡病院の今後に寄与していきたいと思います。

NST（栄養サポートチーム）

委員長：金色 正広

今年度も当院のNST活動は、ランチタイムミーティング、NSTラウンド、全体会議（NST運営委員会）が３本柱です。

○ランチタイムミーティング

コーヒーやお菓子を準備して、毎週水曜日の昼休みにミニ学習会を行っています。

持ってきたお弁当などを食べながら、ミニレクチャーにより栄養に対する知識を深めてもらうだけでなく、当院で採用されていないものも含めた濃厚流動食・経腸栄養剤を紹介や試飲、患者さんにお出ししている病院食の紹介や試食等も行っています。特にソフト食や減塩食など特殊食は日頃口にすることがなく、実際に患者さんが食べているものを知ることは良い機会です。管理栄養士さんのご苦労もわかります。

○NSTラウンド

毎週、ランチタイムミーティングの後、ラウンド要請があった患者さんや栄養スクリーニングで評価の悪い患者さんのもとへ回診を行っています。

他職種でラウンドすることにより、食思が増すような食事の工夫や栄養補助食品の検討、使用されている薬剤の影響の検討など様々な知恵を出し合い栄養の側面から治療へのお手伝いをさせていただいています。

まだ栄養に関する興味が少ないためかラウンド要請数が伸びていないことが残念です。その理由の一つは栄養による治療効果が見えていないためかと思われます。当院もまもなくDPCに移行することになりますが、合併症発生の予防や入院期間の短縮など栄養の重要性がさらに認知されていくものと思われます。

○全体会議（NST運営委員会）

毎月第４火曜日に全体会議を行っています。この１ヶ月間の活動報告の他、多くの病棟スタッフに患者の栄養についてもっと興味を持ってもらうこと。電子カルテの有効利用による栄養スクリーニングの効率化。小児患者への栄養スクリーニング開始などが議題です。トップダウンの報告伝達会議ではなく、メンバーからのアイデアや意見をできるだけ出してもらえるよう新たな試みを加えています。

歩みは速くありませんが、スタッフの負担にならない、患者さんのためのNST活動を目指し、引き続き努力していきます。

内視鏡委員会

委員長：木戸川 秀生

はじめに

2014年4月から消化器内科として川口浩太郎医師が常勤医として赴任した。通常の内視鏡検査に加えてESDを積極的に行っている。

現在内視鏡技師の資格を持つ看護師は8名で、そのうち松永、足立の2人が主に内視鏡室を担当している。また原則として24時間の緊急内視鏡処置（特に止血処置）に対応している。

1. 2014年内視鏡件数

上部消化管890例、下部消化管473例、ERCP 61例、気管支鏡42例と前年度とほぼ同数であった。またESDは9件で徐々に増加している。

2014年の時間外内視鏡検査の件数は59件で上部消化管内視鏡検査全体の6.6%であった。時間外の場合は救命救急センター準夜・深夜勤務の看護師が対応しているが経験不足の看護師の場合、準備や後片付けに手間取ることがおおく、内視鏡検査未経験スタッフの教育が今後の課題である。

2. 新しく導入した機器

この数年ERCP/EST/ENBDなどの検査・処置が急増した。ERCPは患者を腹臥位の状態で比較的長い時間安静に保つ必要がある。鎮静剤を使用しながら処置を行うが、途中で患者が不隠状態となり起き上がることもあり、しばしばスタッフ数人で抑えながら検査を続行する必要があった。

今回EZ-FIX（イージーフィックス）を2014年2月に導入した。この製品は空気圧を利用して患者を圧迫しないように拘束するもので、これにより検査時における患者の安静が少人数のスタッフで可能となり大変有用である。

3. 電子カルテシステム

2014年6月30日より電子カルテが導入された。

以前よりの課題であったレポートシステムの入力と印刷が内視鏡室以外でも可能となったことは、利便性の向上に役に立った。

また内視鏡レポートシステムがSolemioからファイルメーカーベースのレポートシステムへ変更された。いまだにソフトウエア自体の機能に慣れない点がある。

一方、電子カルテシステムとオリンパスシステムとのデータのやりとりに若干問題があり、レポートシステムに画像が表示されないことが時々発生している。

4. 今後の課題

約3年後の平成30年度新病院移行を見据えて、内視鏡件数の増加、消化器内科医師の増員 新病院における内視鏡検査室の設備充実を目指している。

がん化学療法委員会

委員長：岡本 好司

2014年度は当委員会委員長に岡本好司統括部長が就任され、看護部の福永聡看護師が、がん化学療法看護認定看護師の認定を取得し、がん患者管理指導料3の診療報酬も取得開始し、八幡病院のがん化学療法体制もますます充実してきました。

抗がん剤は副作用が強いため、治療効果と安全性が確認された治療を行う必要があり、医師、薬剤師、看護師など様々な職種が集まり、専門知識を出し合って、患者さんが安心して、安全な治療を受けていただけるよう、チームで治療に取り組んでいます。

■医師の役割

各診療科の医師は、患者さん・ご家族と相談のうえで科学的根拠に基づいた治療を選択します。近年では、様々な癌腫の診療ガイドラインが作成され、化学療法も推奨レジメが癌腫の状態などで設定されており、これらの情報を下に医師は診療を行っています。化学療法当日は、患者さんの体調を確認し、前療法の副作用の程度を把握した上で、投与実施の可否を総合的に判断し実行します。また、治療薬の増減、レジメンの変更などを行い、治療を継続しています。2014年度は、病院全体での癌腫の増加、手術数の増加などとともに、外来癌化学療法患者数の増加も認められており、2015年度に向け、改善すべきところや新規に話し合う事例などを委員会として取り上げていく予定です。また、新病院における外来癌化学療法室の基本設計なども確認しているところです。

■看護師の役割

看護師は、患者さんが安全・安楽・確実に化学療法を受けられるように、抗がん剤の投与管理と有害事象のマネジメントを行います。現在、化学療法は多剤併用療法が主流であり、治療内容が複雑化しています。さらに、分子標的薬や、さまざまな毒性の異なる抗がん剤を使用するため、患者さん一人ひとりの状態や使用される抗がん剤の特徴を把握した上で看護を実践しています。また、最近では外来化学療法を受ける患者さんが増加しているため、副作用によりQOLを低下させることなく化学療法が継続できるように、患者さん自身で副作用を自己管理していくための相談やアドバイスを行うなど、患者さんの能力に合わせたセルフケア支援を行っています。

がん治療では、がんの告知や治療法の選択・変更など意思決定の場面が多く、そのような患者さんに対して精神的な支援や十分な情報提供を行い、患者さん自身が意思決定を行えるように努めています。

2014年抗悪性腫瘍剤調製等実績

	外来件数	入院件数	無菌調製加算	外来化学療法加算2-A	外来化学療法加算2-B	がん患者管理指導料3	合計点数
1月	21	6	1350	6300	1750		9400
2月	21	6	1350	6750	1400		9500
3月	27	7	1400	8550	2100		12050
4月	24	6	1570	7650	350		9570
5月	19	4	930	7650	700	600	9880
6月	23	5	1030	8550	700	1200	11480
7月	20	12	1580	9000	700	1200	12480
8月	18	9	1320	7650	350	600	9920
9月	28	5	1630	11700	700	1000	15030
10月	25	6	1540	10800	350	800	13490
11月	21	4	1230	8550	700	600	11080
12月	30	11	2000	11250	1750	400	15400
合計	277	81	16930	104400	11550	6400	139280

※無菌調製加算；50点（A）40点（B）
外来化学療法加算2－A；450点　外来化学療法加算2－B；350点
がん患者指導管理料3　200点

■薬剤師の役割

抗がん薬治療を受けられる患者さんのお薬は原則として薬剤師が混合調製しています。抗がん剤の調製には安全キャビネットと閉鎖式薬物混合システムを導入し薬剤師をはじめ医療スタッフ・周辺環境の安全対策に取り組み、正確に調製を行っています。

患者さん毎に別途ファイルにて管理し、投与量・投与間隔など、内服薬についても服用期間・休薬期間などの確認を行っています。副作用の状況等から主治医に必要なお薬を提案することなど、患者さんが安全・安心に治療が受けられるよう努めています。がん化学療法の処方は複雑で、がんの種類・臓器により投与方法が異なります。毒性も強く、薬の専門家として、レジメン審査から実際の投与に至るまでの各場面に携わることが求められます。副作用で苦しむ人がひとりでも出ないように、患者さんの助けになるために日々頑張っています。がん化学療法は院内だけでは完結しません。退院後のフォローを保険薬局薬剤師と共に行うために定期的に薬薬連携勉強会を開催しています。

（薬剤科：がん薬物療法認定薬剤師　原田 桂作）

7

各種学会指導医・専門医・認定医一覧

（平成25年3月31日 現在）

認定修練施設

臨床研修指定病院
日本内科学会認定教育関連病院
日本循環器学会専門医研修施設
日本心血管インターベンション学会研修関連施設
日本神経学会准教育施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本呼吸器内視鏡学会認定施設
日本外科学会専門医修練施設
日本消化器外科学会専門医修練施設（認定施設）
日本胸部外科学会認定施設
日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設
日本呼吸器外科学会専門医制度認定施設
日本小児科学会専門医研修施設
日本脳神経外科学会専門医訓練施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本整形外科学会認定医研修施設
日本形成外科学会認定医研修施設
日本熱傷学会熱傷専門医認定研修施設
日本眼科学会専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本耳鼻咽喉科学会認定専門医研修施設
日本麻酔科学会麻酔指導病院
日本医学放射線学会専門医修練機関
日本超音波医学会専門医制度認定施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本プライマリケア学会認定研修施設
日本肝臓学会認定施設
日本外傷学会外傷専門医研修施設
日本消化器病学会認定施設

各種学会指導医・専門医・認定医

日本内科学会

認定医　太﨑　博美、末永　章人、
吉田　有吾、田中　正哉、
小住　清志、伊藤　光佑、
佐貫　仁宣、中村　寛、
川口　浩太郎、下野　淳哉

日本循環器学会

専門医　太﨑　博美、田中　正哉、
小住　清志、佐貫　仁宣

日本心血管インターベンション治療学会

認定医　原田　敬

日本神経学会

指導医　末永　章人
専門医　末永　章人

日本呼吸器学会

専門医　吉田　有吾、伊藤　光佑

日本消化器病学会

指導医　岡本　好司
専門医　野口　純也、酒見　亮介、
川口　浩太郎、上原　智仁

日本肝臓学会

指導医　岡本　好司
専門医　野口　純也

日本外科学会

指導医　伊藤　重彦、岡本　好司、野口　純也、
木戸川　秀生、山吉　隆友
専門医　伊藤　重彦、岡本　好司、野口　純也、
木戸川　秀生、山吉　隆友、新山　新、
井上　征雄、桝屋　隆太、上原　智仁

日本消化器外科学会

指導医　岡本　好司、木戸川　秀生、野口　純也
専門医　岡本　好司、木戸川　秀生、
山吉　隆友、野口　純也
認定医　伊藤　重彦、岡本　好司
消化器がん外科治療認定医
岡本　好司、木戸川　秀生、
野口　純也

日本胸部外科学会

指導医　伊藤　重彦

日本糖尿病学会
指導医　中村　寛
専門医　中村　寛

日本呼吸器外科学会
認定登録医
井上　征雄
指導医　伊藤　重彦
専門医　澤田　貴裕

日本肝胆膵外科学会
高度技能指導医
岡本　好司

日本内視鏡外科学会
技術認定医
木戸川　秀生

日本呼吸器内視鏡学会
指導医　伊藤　重彦
専門医　伊藤　重彦

日本消化器内視鏡学会
指導医　伊藤　重彦、岡本　好司、
木戸川　秀生
専門医　伊藤　重彦、岡本　好司、
木戸川　秀生、山吉　隆友

日本小児科学会
臨床研修指導医
市川　光太郎、天本　正乃、
神薗　淳司、松島　卓哉
専門医　市川　光太郎、天本　正乃、
神薗　淳司、石橋　紳作、
今村　徳夫、松島　卓哉、
富田　一郎、富田　芳江、
小野　友輔、小野　佳代、
八坂　龍広

日本血液学会
専門医　神薗　淳司

日本小児血液がん学会
小児血液がん暫定指導医
神薗　淳司

日本小児外科学会
専門医　桝屋　隆太、新山　新

日本脳神経外科学会
専門医　越智　章、岩永　充人
指導医　越智　章、岩永　充人

日本脳卒中学会
専門医　岩永　充人

日本脳神経血管内治療学会
専門医　岩永　充人

日本整形外科学会
専門医　野口　雅夫、辻　正二、田中　尚洋

日本形成外科学会
専門医　田崎　幸博、福井　季代子、
今村　禎仲
皮膚腫瘍外科指導専門医
田崎　幸博

日本熱傷学会
専門医　田崎　幸博、福井　季代子

日本創傷外科学会
専門医　田崎　幸博

日本泌尿器科学会
指導医　森下　直由
専門医　森下　直由

日本耳鼻咽喉科学会
専門医　麻生　裕明

日本麻酔科学会

指導医　　金色　正広

専門医　　石田　昌一

日本医学放射線学会

専門医　　神崎　修一、今福　義博、今村　紹美

日本超音波医学会

指導医　　神崎　修一

日本IVR学会

指導医　　神崎　修一

肺がんCT検診認定機構

認定医　　神崎　修一、井上　征雄、澤田　貴裕

マンモグラフィ検診精度管理中央委員会

検診マンモグラフィ読影認定医

今福　義博、今村　紹美

日本救急医学会

専門医　　伊藤　重彦、木戸川　秀生、
井上　征雄、岩永　充人、田口　健蔵

日本精神神経学会

専門医　　白石　康子

日本皮膚科学会

専門医　　藤野　雅世

日本産婦人科学会

専門医　　王　志洪、今福　雅子

日本乳癌学会

認定医　　岡本　好司

日本がん治療認定医機構

暫定教育医

岡本　好司

認定医　　山吉　隆友、今福　雅子

ICD制度協議会

インフェクションコントロールドクター認定医

伊藤　重彦、岡本　好司、
木戸川　秀生、山吉　隆友、
伊藤　光佑、田口　健蔵

日本医療機器学会

認定MDIC

金色　正広

厚生労働省

麻酔科標榜医

金色　正広、石田　昌一

統括DMAT登録者

伊藤　重彦、井上　征雄、田口　健蔵

日本医師会

認定産業医

太﨑　博美、田中　正哉、
小住　清志、小住　乃理子、
白石　康子、野口　純也、金色　正広

日本外傷学会

専門医　　山吉　隆友

日本外科感染症学会

外科周術期感染管理認定医・教育医

伊藤　重彦、岡本　好司

日本プライマリ・ケア連合学会

認定医　　伊藤　光佑、下野　淳哉

指導医　　下野　淳哉

日本消化器内視鏡学会

認定医　　川口　浩太郎

8

特別寄稿

八幡病院の思い出

前 副院長　野口 雅夫

私はこの春退職しますのでその思い出を残します。実は八幡病院には2度勤めています。1度目は、昭和53年6月から昭和54年12月でした。八幡病院の救命救急センターが昭和53年10月にオープンするにあたり、長崎大学から派遣された若手医師の一人でした。その時同級生（昭和51年卒）で派遣されたのは、外科：太田勇司Dr、内科：平井敏弘Dr・福島弘道Dr・（故）森理比古Dr、小児科：平松公三郎Drでした。近くの学年では昭和49年卒の形成外科：今里賢一郎Dr、外科：江口正明Dr、内科：桑原聖子Dr、昭和50年卒の外科：一万田充俊Dr、昭和52年卒の整形外科：（故）山根芳道Dr、形成：梶彰吾Dr、昭和53年卒の整形：古田千事Dr、脳外科：栗原正紀Dr、麻酔科：猪股一郎Drがいました。まだとても若い頃だったので、事務合谷稔さんの手配での大山のスキー旅行や由布岳登山旅行、病院局主催のバレーボール大会・ソフトボール大会など楽しい思い出がたくさんあります。談話室が広かったので科の区別なく弁当を一緒に食べたり、先輩Drと囲碁大会をしたり、とても仲良くしていましたので、仕事でも患者のことをよく相談していました。

その後（昭和55年～平成元年）国立長崎中央病院・長崎大学・国立療養所長崎病院・長崎労災病院・田川市立病院・北九州総合病院に勤務しました。

2度目の勤務が平成元年6月からです。当時整形外科の常勤医は3人であり時間外の待機は週3日（月・水・金）のみで救急救命センターでは困っていました。そのため（故）岩崎勝郎教授に相談し1人の増員を得て、平成5年12月より毎日待機をするようにしました。平成7年7月には第2夜間休日急患センター（以下第2急患センターと略す）が併設され、整形外科は6人態勢になり、準夜帯のみ診療を開始しました。平成13年6月には産業医大整形外科から1人（古子剛Dr）の派遣があり7人態勢となり準夜深夜体制になりました。平成17年には北九州地区全体の外傷に対する整形外科のレベルアップを図るため北九州整形外傷研究会を立ち上げることができました。しかし平成19年は新臨床研修医制度の影響もあり、長崎大学からの派遣が1人減となり第2急患センターの連日の勤務が困難になりました。平成20年からは第2急患センターの勤務時間は準夜帯のみに変更になり、深夜帯は近隣の病院の協力をえて輪番制になりました。この頃から産業医大と九大整形に第2急患センター勤務の応援を依頼しました。平成22年から長崎大学の派遣がさらに1人減となり5人態勢となり、救命救急センターに主力を置くため、第2急患センターの運営に支障が出るようになりました。平成25年5月に第2急患センターはコムシティーの地下1階に移転し、現在も第2急患センターでは産業医大と九大整形の応援を受けています。

私は八幡病院に27年5カ月勤務したことになるのですが、その間北九州市に本格的外傷センターの構築を夢みての救急医療に邁進してきました。3年後に完成する新病院にはその夢に1歩でも近づくよう八幡病院スタッフの力を期待します。そして北九州には大学の垣根がありません。これまでの各大学のご協力に感謝しています。

八幡病院の思い出

前 放射線科総技師長　許斐 稔

月日がたつのは早いもので、今年3月31日を持ちまして、定年退職となりました。昭和52年6月に北九州市に入職し37年と10ヶ月お仕事をさせていただきました。皆様方には大変お世話になり有難うございました。

最初の配属は小倉病院で、翌年7月より八幡病院に異動となりました。

この年の10月に八幡病院は救命救急センターが併設され、24時間患者対応を行うこととなりました。当時の診療放射線技師は8名で、技師長以下全員で当直業務を行っていました。

現在は、検査装置も充実し、救急対応時の一般撮影・CT・血管造影などの検査もデジタル化され、短時間で検査を終えることが可能となりました。しかし、当時はCT装置も現在のように進歩しておらず、頭部CT検査するのに30分の時間がかかっており、専用の血管造影室もなく、透視室を兼用で使っていました。当直検査で、今でも印象に残っているのは、深夜に動脈瘤破裂の患者さんが搬送されると、CT、フィルムによる血管造影、術前撮影など一連の検査を行い後片付けも終わり、ほっとして外を眺めると、夜が白み始め検査を終えた疲労感と充実感を感じていたのが思い起こされます。

当時の八幡病院は、各部門を越えて交流があり、病院事業として新年会や運動会が行われており、新年会では各部署からの出し物も多く順位をつけ競い合っていたのを覚えています。

放射線科でも、夏のキャンプや毎年恒例の一泊旅行を行っていました。これにも医師・看護師さんなどたくさんの参加があり楽しく交流を深めていたのを思い出します。

現在は、医療環境も厳しく、なかなか余裕を持って診療することも難しいでしょうが、また八幡病院には、他の病院に比べ昔ながらの家庭的雰囲気が残っていると思います。この暖かい雰囲気を壊すことなく、チーム医療にて患者さん中心の医療を行っていただきたいと願っております。

また、定年退職により、現在進行中の新病院の建築について、残念ながら最後まで見届けることが出来ませんが、完成の折にはぜひ見学させていただきたいと思っています。

長い間、お世話になりました。

退職前1年

前 副看護部長　肉丸 綾子

2年前八幡病院に異動となり退職を迎えることができました。

退職前1年をきった時点から最後の1年をどのように過ごし、どのように引き継ぐかを考え行動する予定でしたが、日々の業務に追われ、あっという間に準備もできず3月31日を迎えました。

私の業務は、人事担当として人材確保が大きな役割でした。

最後の1年の目標として、

①部署間の業務格差を少なくする　②一般病棟の看護師配置増員　③看護補助者の増員　④小児科外来に看護師長配置　と掲げ行動してきました。

特に、各部署で時間外の格差があることには心痛めてきました。人員配置には限りがあるため、各部署での業務改善や記録の短縮化などで対応していますが、根本的な解決は、一般病棟の看護師を増員し安全な療養環境を提供することと思っていますが、増員についてはなかなか実現に至ることができていません。

ただ看護補助者については、経年ごと増員される予定となりました。

2年間看護部の人事を担当し、この部署にいなかったら経験できなかった多くのことを学ぶことができました。ありがとうございました。

9

編集後記

編集後記

2014年は電子カルテ導入とういう当院にとって重大イベントを経験しました。1年以上前から準備を行い6月30日から導入されましたが、今のところ大きなトラブルもなく現在に至っています。

業績集のDATA収集には前年よりファイルメーカーを利用した提出としましたが、今回からは電子カルテサーバーを利用したファイルメーカーサーバーへの入力としました（一部、医局ネットワークを使用）。これによって、煩雑だったファイルの統合操作がなくなり業績集の収集・編集作業が格段に効率化できました。あとは、各委員会、各診療科、各部門の原稿がスムーズに集まれば・・・。なかなか、そうはうまくいかず今年もこの時期の発行となりました。

新病院まで残すところあと3年を切るところまで来ました。 いままで以上に忙しくなることも考えられますが、「今年は昨年よりも早く発行を！」を毎年合い言葉に編集委員一同頑張ってまいります。

（年報編集委員長　木戸川 秀生）

広報委員会委員長	伊藤　重彦（副院長）
年報編集委員長	木戸川秀生（外　科）
年報編集委員	富田　一郎（小児科）
	中村　祥子（薬剤課）
	林　　和子（看護部）
	塩田　美樹（看護部）
	上柿　　萌（看護部）
	友岡　大雄（庶務係）
	和田　義浩（医事係）